

縛された結果、詮方無く行つた慈善であつて、心の底から猶族を非猶族と同視した結果では無いから猶族に對する内心の憎悪は孰れの國民も一般に有つて居つて地球が亡びる迄は此憎悪は決して亡び無いとは世界一般に認められて居る現象だと謂つても宜し」

と云ひ、次に一步を進めて
「然るに他の一方には動物虐待を防ぐと云ふ協會を起して牛馬にまでも同情し様とする文明主義の發展する今日に同じ人類の猶族を何故に斯くまで憎むかと云へば或は猶族が普通人類よりも高等な人類で尋常の勝負をしては生存競争の上で猶族に對する勝ち目が無いからだ」と云ふ説もあるが、ソレならば實に卑怯至極だ」

と云つて論鋒を替へ

「處が日本の對エタ策は真に巧妙で外國では猶族に商工業の自由競争を許した末に其優勢なのに辟易し政治上で之れを迫害した爲め人道問題の材料と爲つたのが日本には古代から未來幾千年を觀する大政治家があつて社會からエタを遠ざけ誰れも嫌ひな履物の賤業を專賣的に宛がひつゝ社會心理の上にはエ

タを穢多と暗示してエタの娘と旗本(これよ源三郎物語など云ふ小説まで作らせ、日本人にエタの血の一滴をも雜へぬ用心をしながら政治上には一視同仁で何の迫害も加へずエタはエタなりに善政の保護を樂み遂に小さな此村から七人までも戦功者を出す程の忠臣を作つた政策の巧妙さは世界抜群でコレを過去三十年の對韓政策と比べると天地の相違だ」

と激賞して更に人道論に移り

「併し頭と心との兩全は大事業で犯人を斬罪にするのは頭の責任だが行刑者が刃を下す力の減けるのは心の問題である、コレと同様に政略としては大成功でも情としては非難すべきことは歴史に幾らもある、エジソンやマルコニーから遠ざかつて消ぬなんとして淋しく光る秋の螢の様なアイヌ族に同情する日本人が電線と鐵道線路とに接近しながら孤島に住むの思ひをして居るエタに對して豈夫涙の無いとはあるまい」

對穢多政策

と云つてエタに對する人道觀を説き起さうとした、V氏に果してドンな説があるか

V氏はエタに對する人道を説く前に
「西洋では猶族が残忍な性質を有つて居るものと断定し死刑執行の仕事に猶族に課して居る向も多いが日本のエタはドウである乎」
と問ふた記者は日本も封建時代にはエタを刑場に利用し斬罪人の取扱ひや磔刑人を釘で刺すなどはエタの任務であつたが、コレはエタを残忍な種族として其特性を利用したものだと話すとV氏は

「开處だ、猶族が残忍だと云ひ、エタも同様だと云ふのは、彼等が残忍であるか抑々亦た遠い昔から彼等を血に親ませた結果かど云へば寧ろ彼等を残忍な方面に慣用した習慣の罪ではあるまいか、鯉の覺悟の好いのを尊ぶ日本武士が戰場で割腹する勇氣を備へて居ると同時に日本國民は鯉の生き造りに舌を破らすさうだが、日に幾千頭の牛や豚を殺す鋸鋸製造所々長ロツクフエラーは一面には慈善も行つて居るが、残忍な醜行があると米國の黄色新聞に囃される様な理屈で、惨劇の目撃が人を惨化するのだから、エタの残忍も血に慣れた結果、其心中に血に對する免病性を増すに至つたのであらう、然し今では死刑執行の大役をエタにのみ課せぬとせば、二三代も経つたらエタは必ず順良化して所謂の慘

忍の特性を失ふだらう」
と論断して更に一步を進め

「世界が幾ら追放に努めても猶族は七百萬人もある、日本のエタも決して全滅する筈が無い、今同時に多數のエタ村に製靴會社の石炭の臭ひを他の村から送り込み會社の利益配當が増せば増す程エタの生活難は甚く成るであらう、然るに他の一面には日本も労働者の缺乏に苦むで九州の一角に支那苦力を雇ひ入れ、たどの報道は歐洲を驚かしたが、兎の様に繁殖するエタ族を閉却し困難させつゝ、勞銀を支那苦力に拂ふのは不經濟極まるぢや無いか、西洋の猶族は悍馬で取し難いとしても、日本のエタは巧みな政策で去勢術が施してあるから、日本人は何もエタの生存競争を恐れず共宜い」
と云ふ警句を吐いてV氏は尙も

「日本の議會は戦後第一年の大豫算を何の議論無しに通過する程ノン氣だからエタ問題には觸りも爲まい併しエタの人権問題で政府委員を追ひ捲り煙草專賣局の手職をエタに與へるでも論じる議員があつたら、外國通信員は大喜びで其議員は世界的の名物男と爲るであらうが、日本人の潔癖は金勘定の豫算や

エタ問願などの汚い事は避ける方だらうから、僕のエタ救済策には勿論耳を貸され無いだらう』
と冷かした更に進むで

「併しエタの姓に櫻木が多いことは今も此村で聞く通りで、ソレに大きな靴の製造場が「櫻組」と呼ばれるとすればエタを工業の各方面に広く使用するが宜いとの主張も十分の道理がある。と解されねば成らぬ、開處で櫻組の事業は櫻木の手に職を大規模にしたのだから「櫻木」を強く大規模の工業に用ゐよといふ主張を無理で示すも五から五を引いて〇残ると云ふ道理に成る、扱て其残つた〇と無極大と同一だと云ふ無理に成る譯だが、〇と〇(無極大)との間に横はつて居る大真理は圓の直径に三、一四一六の公定率を掛けて漸つとの事に圓の周圍が分る様な連中には咄せなす』
と頗る大手に結論して一行三人のエタ村視察は終つた、併しエタ村視察は三人とも無論、花見の様な愉快を覺へた譯では無いから何と無く物欲しい感じがあるのは自然の結果だ、開處でV氏は
Vedi Napoli e poi mori.
「チアヘルを見物して而して死ね」と云ふ歐洲の諺は日光を見ぬ中は結構と云ふ

な』と同一調であるが僕も日光を見物して結構とはドンなものかを知りたいと發言し、一行は大賛成で日光へ向つたV氏は日光を何と観る乎

シカタガナイ!!!

日本の名所で洋客が屹度見物すべきものと定まつて居るのは日光、箱根、鎌倉で日本の三絶景と云れる松島、嚴島、橋立は存外洋客の間に振はない、洋客は此三景を名所としては記憶せず單に軍艦の名だと心得て居るのは頗る不思議な現象だがV氏も先づ第一着に日光を訪はうと決して流車の聯絡や何かを調べると一旦東京へ戻つて日光行の直通列車に乗る方が都合なので一行は上列車で上野へ歸り更に下列車で日光へ向ふ事にした上野へ着てから日光への發車を十分以上も待つ中にV氏は

「今日は僕も例外で發車の十分も前に停車場へ來たのだが日本人は餘程待つことが好きと見ぬ無暗と停車場が込み合つて居るぢや無いか西洋で六時に發車する場合は五時五十九分に來れば悠つくり乗れるのに……見給へ鐵道の切符賣場を兩替銀行と誤解して十圓札で澤山な釣り錢を取つて居るが日本は國債

膨服の爲の紙幣計りに成つたから、國有鐵道では兩替貨を取らずに兩替銀行を兼ねて居ると見ゆる」

と冷かした乗客が突貫の號令を受けた戦列兵の様に、我勝ちに荒れ狂ふ怒濤の中を滑り抜け、一等室に入つた時、流車は進行を始めたV氏は

「流車だけは掛け直が無く發車すべきときに正しく發するのには有り難たい、僕も日本時間の事を聞いて居らぬでも無いが招待状に七時と書いてあるから七時に行く」と主人も居無い様なことは珍らしく無い程にノン氣だから驚くよ、流車が此のノン氣に反して時間を守るのは宜いがドウも車室が小さいのは洋人殊に僕の様な大兵のものは忍び得無い苦痛だ、腕掛けを一本取らねば腰が卸せぬ上に腰掛の奥行が短いから車内の往來の中央よりも向ふへ足の先が伸び出る様に成るのは困る但し此流車は日本人用だから大きいのが御望なら外資を輸入なさいと云んならシカタが無」

と云つたとき流車は停つた、V氏は珍事が起つたかと驚いて車外を眺めると流車は無事に大宮へ着いて居たV氏は

「直通列車と云ふ廣告を見て此方は其積りで乗つたのだが一杯喰はされた上に不意に停車したから驚かされた、全體歐洲で直通列車と云へば甲から乙へ休み無しに到着する意味で途中に停るのは普通列車だ併し乗り替へ無しに行かれるから直通列車だと云ふのならコレもシカタが無」

と以上二度日本語でシカタが無いと云つたから、記者はV氏に何處で仕方が無いを習つたかと問ふと

「仕方が無いを日本語で知らないのは伯林でリンデン街を知らないと同様な耻辱だと友人に教へられた、日本人はドンな失敗でも仕方が無いで事済みに成る規定だ車夫が客を車から投げ落しても仕方が無い日本一の大外交家がポーツマスで失敗つても仕方が無い三日間に出来る約束の品が一日遅れて注文主が大損害を受けても仕方が無いで済むのは恰度露國のニチエウオ(構はない)と同じ事で旅順が開城してもロジエストウエンスキーが捕虜に爲つてもドウマが二度迄解散されてもニチエウオで萬事落着だ、此露國のニチエウオは曾て外交の背信の爲めに流石の鐵血宰相比公を驚かしたが日本の仕方が無いは全體誰を驚かす爲めに斯う盛んに用ゐられるのか」

と洒落飛ばしたが、日光まで三時間半掛ることを時間表で計算してV氏は

「此流車に龜の子列車の號を呈する」と叫びだ、其謂れはドウである乎

龜の甲列車

記者は大日本帝國の國有に歸した此舊日鐵線に對して龜の子列車とは耳障りな咄しだが其謂れはとV氏に問ふとV氏は濟まじ切つて

「遅いから龜の子列車さ。併し僕が日本へ來ぬ前に日本の流車が脱線して死人が幾ら〜あつたと云ふ様な電報は度々ロイトル社が傳へたが僕は其都度日本流車の脱線を見た」

と云ふから流車の脱線を進歩と云ふ謂れを問ふとV氏は「君がソレを不思議に思ふのが不思議だ浮きを帯びて泳いで居る中は大丈夫だが進歩して泳ぎが少し上手になると往々溺死の不幸が伴ふのは丁度馬の乗人が始は後生大事に鞍に嚙り着いてるが少し進歩すると落馬し始めると同様に流車も脱線する程に成ると初步の緩慢なる時代よりは一段の進境に入つた譯ぢや無いか」

と味な皮肉を云つた後、一轉して

「但し進境は進境でも只だ一段だけに止まることを承知して貰ひたい、見給へ此悠々とした馴け工合を……斯んな閑日月的の列車は何處にも無いよ、體日本がカーライル狂であるのか、カーライルが日本から學むだのだから、兎に角日本の英雄崇拜熱の高さは驚くべきもので日本の一人残らずが英雄崇拜者だ

と云はんより一人残らずが己れ自から英雄を以て任じて居るらしい、デルンブルヒのパンデクテンが日本で大流行なのは日本に法學者の多いことを示す證據だが其法律を學ぶのは法治國の一人民として身嗜みと云ふ譯では無く、一人残らずが大臣大使議長など云ふ英雄的の地位を目標にして居る欲望の結果であらうと思はれる」

と云ふから記者はソレが此鐵道と何の關係があるかと問ふとV氏は

「一聞き給へ、日本の軍人が皆東郷と大山ばかりだとすると誰れが火夫に爲り誰れが兵卒に爲つて呉れるんだらうか、大人と小人、英雄と凡人とがあるの、始めて一國の均衡が保たれる譯だのに皆んなが英雄らしく振舞つて得意なのは日本人に芝居氣の盛んな證據ではあるまいか、「我は世の一員なり、一員

だけの働きして世の一員たる義務を全うし世に利せんとは詩人の名言だが日本人は總てが超一員主義で凡人が缺乏しては居まいかソレとも凡人が英雄らしく装ふ爲めに時々「平凡」を云ふ肉シヤツが現はれて見苦しい事があるのだから此鐵道の會社の「平凡」を嫌ひ英雄的な官線と云ふ美服を着けて町人が殿様に爲つた爲め斯う閑日月に落ち着いてるのぢや無からうか」

と冷かしたのが今度は實例を擧げて

「だが殿様流車に慣れたる日本人は流車とは斯なものだとして居るかも知れぬが東京在住の英人技師F氏と云ふ僕の友人は日本人が鐵道の速力を無視することを攻撃して居るが、同氏は一時間五十七哩を流車の當然の速力だと主張し曾て上野宇都宮間六十五哩を一時間と六分で奔らせ其確證を示して日本の鐵道會社を驚かしたさうだ、しかし日本の狹軌流車は動搖の甚い爲め急速力を出し難い點もあるさうだが何故日本は鐵道を廣軌にせぬのか」

と問ふから記者は容易で無いと云ふと

「日本の地勢は蛇の様に細長いから流車も狹軌にするに云ふ風流主義なら仕方無いが東京神戸間位は三日間で廣軌に直せるぢや無いか」

と叫びだ、三日間に東海全線を廣軌に改築するとはどう云ふ案だらう乎

廣軌鐵道

記者は三四日間でドウして東海全線の狹軌を廣軌を直せるかと問ふとV氏は「僕には無論改築の成案がある、併し先決問題は廣軌に改築する必要の有無だ、流車を流車らしい速力にするのは流車運轉の大目的であるが、狹軌で流車並の速力を出せばピスター灣をポートで乗り切る程の迷惑を乗客に與へ、流車内ではドンな器に入れても飲料を取ることも出来ぬのは云ふ迄も無く乗客の鉢合せなどは普通の出来事で事に寄ると生命にも拘はると云ふ大冒険を行らねば成らぬがソレを避け様とすれば勢ひ龜の子列車に満足する外は無い、併し君、龜の子列車は流車ぢや無い、本當の流車は前に云ふ通り一時間五十九哩を平均として通りつゝ多忙な事務家は流車内のテーブルで手紙を書く自由のあるものだ、日本人の大多数は此本當の流車を知らないから龜の子列車を文明の利器だと誤解して居るんだらうが文明は多分冤罪に泣いてるだらう、シテ見れば少くとも日本官鐵の大幹線たる東海鐵道を眞つ先に廣軌に直す必要が

あると僕は断言する」

と云ふから記者は罵倒は最う澤山だ君の短期改築案を聞かうと云ふとV氏は「案と云ふ程大層な仕事では無い、一例を挙げると英國で二百五十哩の狭軌を三日で廣軌に直せると技師が請負つて全線一面に人夫を前日に配置し一號令の下に軌道を擴げて二晝夜半で成功した事實がある……日本にはトンネルが多いと……第一期にはトンネルだけを單線にして其近邊に回遊線を置けば宜いぢや無いか此通り二百五十哩が二晝夜半で直せるとすれば京神間三百七十五哩は三晝夜半で直せる筈で之を倍加して一週間を費すとしたら交通を中止せすとも改築は容易だ要は鐵道廳の奮發と賃銀懸賞の工夫操縦とに在る意志のある所に成就あり疑惑のあるところに惡魔現はる、潔く始めたるときは半は既に成就したるなり」と云ふぢや無いか、風の多い日本に拵せた瀛車は吹き飛ばされる恐がある但し水害も多いから拵せた瀛車の方が泳ぐのに便利だと云ふ謎か、尤も私設線なら金庫が先決問題だらうが高歩ながら既に借金政策を開始した日本の官業とある以上は廣告の爲めにも是れ位な仕事は行へべき筈だが隣邦の鐵道王ハリマンを感服の餘り驚かし過ぎても悪いと云ふ日

本特有の謙遜で着手せぬか」

と當り難い氣焰を吐いて二の矢を續ぎ「ソレに日本の瀛車を何故日本らしく作らぬのだらう僕等洋人は日本を見に来たのでペンキと天鵝絨を日本へ見に来る馬鹿は無い、博覽會で賞品を争ふのは物質的で美術家と云ふよりも寧ろ職人的の畫工と云ひたくも成るが、それでも結構だ試みに此等の畫伯を集めて車室の天井だけでも日本畫を描かせ、日本網で此座席を張つたら瀛車は餘程日本らしく成るぢや無いか」
と忠告を試みて瀛車經營に轉じ「日本は富豪の我儘を制するのに巧みだ米國の一富豪が其子の急病を聞いてシカゴ停車場へ走り直ぐに臨時列車を出せと云ふと十七分で特別列車を仕立て、デンヴァーまで一千九哩の間を一千三十分即ち一分一哩の割合で走つた例があるが新橋へ特別列車を頼めば例の「只今」が幾十時間かかるだらう、龜の子列車に龜の子驛、配合の妙を極めつゝ富豪の我儘を抑へて「閑日月的に急げと云ふ獨逸の格言を守つて居るのは日本のエライ所だらう」
と記者を煙に捲いた時列車の煙は薄らいで日光へ着いたV氏は日光を何と観る

乎

異人は金満家

流車は日光に着いた、日光の入口も既に日光然として居るからV氏は「山も木も皆超凡的に見えて流石に結構の入口に負かぬのは嬉し」と感服したが忽ち向を易へて

「流車が此結構の入口に着かうとする時に右方の山の腰へコレ見よがしのペンキ塗が建てあつたがアレは全體何である乎」

と問ふた、記者は日本製麻會社の山廣告であると説明するとV氏は

「日本が廣告に妙を得て居る事は何日か君に咄した通り世界の公評ではあるが斯う云ふ結構な風光まで之を廣告に虚使する没風流は全く結構を蹂躪するもので最早や廣告術の巧拙問題を超越確かに英國法律のニユイザンス(傍若無人の邪魔犯)を犯して居る許す可らざる罪惡だ」

と一棒を下して談鋒を進め

「尤も突然二十億圓の借金をした日本だから金の爲めに詩を殺す必要に迫つて

居るのは僕も同情するがホテルや日光名物の廣告とは違ひ日光見物の旅客から注文を取る趣意で、アノ廣告を出したので無い事は製麻會社と云ふ事業だけでも明白な咄だ、シテ見ると會社は何の必要に基いて廣告するのであるか、僕は決して製麻會社に恩怨は無いから故意に其廣告を中傷するもので無いことは君も諒解して居るだらうが、兎に角會社で廣告を出した趣意は殆んど分らないでは無いか」

と云ひつゝ更に踏ん込むで

「日光見物に來た序に始めて製麻會社の存在を認める様な迂遠な運中は決して會社の顧客では無い、シテ見ると僕の想像が間違つて居るかも知れぬが會社の製麻工場が此處にもありますと云ふ示威的の廣告だと解する外は無、處が人を搔ッ浚へる力のある驚は其爪を示さないのが通例だからコレと反對に盛んに示威を試みる會社は事實其勢力が乏しいからだと解する猜疑心の深い連中が若しも有るとすれば會社は廣告の爲めに却つて人の誤解を惹く様な不利を受けまいか僕は會社の爲めに友誼的の忠告を試みる」

と評して洋人と云ふ洋人は誰れでも嘆賞する杉の並木通りを畫的詩的結構とV

氏、M氏、記者の三人が鸚鵡返しを試みつゝ、洋人を目當てに美術品と號する品物を歐米式に陳列する横濱の辨天通り其儘の散文的な市中を通り、某ホテルに入つたホテルには七十餘りも客室があり少しは粗造の嫌ひもあるが設備も十分に調ひ別けて部屋の裝飾は日本式に出来て居るのは大にV氏の氣に入つたが宿泊料は中等室で九圓であつた、V氏は先づ美しい山水に對して座を占めつゝ、

「外人を總て金持と思ふ迷信は此處にも現はれて居る、一度で驚かすのは日本旅行の缺點で如何にも日本に於ての洋人の生活は不廉に違ひ無いが、一夕九圓の宿泊料は頗る高い、東京でも一日六圓以下のホテルは無いが、コレを洋人一般の財力相應だと思ふのは間違ひで、日本へ來れば中流も下流も皆親王生活をせねば成らぬとは苦しい譯で、一度來て二度は來ぬ漫遊客の多いのは日本の損ちや無いが、漫遊國の瑞西の大財源が漫遊客に在るのは漫遊客が常得意に成る結果だが、其の瑞西のツエルマツテ氷山の麓に在るツエルマツテ、ホテルは停車場から七里で夏も雪のある運輸不便の場所だが宿泊料は七法即ち二圓五六十錢で、フイルワルツステツテルゼー湖畔のブルンネンでは六法、獨逸のシユワルツツアルドやハルツン地方でも六法内外だのに、何故日本のホテルは親王と

浪費者の外は忍び兼ねる程に高價であるのか知らん』と云つて日本のホテル改革案を持ち出した其改革論はドウである乎

ホテル改良論

V氏は日本ホテルの宿泊料が高價なのを攻撃して尙もホテル論を續け「ホテルは旅客の家庭だから取扱ひが親切で、及ぶ丈け旅客に慰安と便利とを與へるのは勿論、及ぶ丈け廉價で無ければ成らぬ、處が日本のホテルはドウで通り一遍の旅人だから出來る丈け手を抜いて取れる丈け取るよ云ふ心持がホテル經營の土臺に成ては居まいか併し生涯離れない親交の第一歩は初對面の時に在るんだから、通り一遍の旅客が日本の親友と爲つて、二度も三度も日本へ來る様にもなれば、本國に居ても日本の喇叭手になつて廣く日本へ漫遊を勧め、此責任を盡すことが日本の國益にもなれば、ホテル自身が繁昌の基礎にもなるからホテルは原則として此遠大な心得を要する」と説いてホテルの宿料問題に入り

「开處で日本ホテルが何故高價を要求するかと云へば薄利で一步〜手堅く進む商策が日本に流行らない影響を受けて、ホテルも一時に儲け様とする病的原因に基いて居るのだらうが、瑞西の大旅館の主人は馬齡薯の買出しにも自身が出掛け、コック部屋には三度〜付き纏つて料理鹽梅に注意するのと反對に、日本のホテル主人は一廉の金満家然として萬事を支配人に任せ、自身は派手な生活を行つて、手ブラで遊んでるさうぢや無いか、西洋では祖父が千圓貯めて父が二千圓殖やし、子が又た三千圓殖やすと云ふ風に金儲けが遺傳事業に成り、薄利を旨とするから基礎が動かない、尤もホテル事業が日本に生れてからマダ新しいに違ひ無いが、商業の道理はホテルも日本旅館も最つと飛び離れた何業にも通じて少しも變りは無し」

と云ふから記者は悲しいことに日本ホテルは一年打つ通しの商賣で無く別けて日光などは夏季三ヶ月の營業で跡は休業同様だと咄すとV氏は

「其の事情は瑞西も全く同様だが、瑞西では例へば三月四月は何處、五六兩月は何處と云ふやうに、氣候と客足とを見計らつて、一人のホテル業者が器具までも運搬して客の來る所に、ホテルを開くから利益も多いのだ、たゞ斯様に

に方々へホテルを有つて居ないものは牧畜なり農業なり其仕事を見付ける流儀で、一年を只三ヶ月の儲けで暮らし残つた九ヶ月を怠けて遊ばうと云ふ様な無法極まる横着ものは瑞西は勿論世界何處にも無い、日本ホテルが此世界の天理とに逆き果せる事は逆も覺束無いから僕は日本ホテルに反省を勧告する」

と云つて尙は一步を進め

「ソレからホテルに對する二大要求は臺所と寢臺で殊に洋人の必要なのは珈琲であるが何處のホテルも珈琲に注意せぬのは残念だソレに食事の献立に變化のすくないのは長逗留の旅客を苦しめて早く本國へ追ひ返すやうに仕向ける愚策である、又客室に置きランプを備へぬのが多い、これは讀書好きの洋人が一齊に苦痛を感じる問題だ、勿論ホテルの不完全は日本計りで無く東洋は概してホテルの不評を速いて居るが印度のホテルよりも日本は四割五分高きことは日本ホテル業者の自ら警むべき問題だ」

と語つた、ホテル観はコレで終結として次にV氏の日光觀を擧げるとV氏は例の敬虔な心から日光廟參觀の時には旅裝を改め神廟へ向つたが神前の近所に基

「コレは苦々しい、幾ら信徒が自由でも、日本人が宗教に雅量を示すにせよ、歴史の多い斯神廟の傍へ教會を設けるのは基督教徒が不謹慎な一兆で、耶蘇が北清事變を起したと云ふ説に好い材料を與へる仕方だ」

と一棒を加へ神廟に入ると參觀料八十錢寶物拜見料十五錢の極りで見世物小屋式入場券を受け取つたV氏は「日光廟を見世物にすることを許した官吏は勤王黨の餘熱で今でも幕府を惡む爲め神廟へ此侮辱を加へるのか」

との奇問を發し日光滅亡論を始め、V氏の日光滅亡論はドウである乎

日光滅亡論

明治の官僚は勤王の餘熱で徳川を惡む爲めに日光の神廟に侮辱を加へるのか參觀料を切符で賣るとは何事かと憤つたV氏の氣焰は頗る盛んなもので

「斯う云ふ偉大な、美術の化身の様な神廟は此日光を外にして世界の何處に在るか、日光は日本の誇りであると共に世界の日光で世界共通の誇りである、コ

レを參觀するのに十圓を拂へど云つてもソレを吝むものは一人もあらず併し日光は金で見物の出来る程小さな神廟では無い、シエークスピアを再生させて一圓の木戸を拂ふから芝居を一幕見せて呉れど云つたら沙翁は何と答へるであらう乎、美と云ふ眼から見れば世界に有りふれた所謂美術の建物は碌々とした群小で之を日光廟に比べれば多人數が立食して居る園遊會で餘興の芝居をするへボ役者同様だが日光廟は決して金や位で左右されべきもので無く犯すことの出来ない威光を帯びて居る、偉大な沙翁と同様である、尤も沙翁にもパンが必要である様に日光も保存の經費が要るに相違無いが參觀人の人格にも服装にも頓着なく拘摸でも一圓拂へば此聖堂を汚せるとしたら、日光は既に汚れたものに成りませぬか日光保存の方法は人格に構はず一圓の見料を取る外に道が無いと云ふ理屈は無し」

と斷言して語を續ぎ「參觀料で日光を保存し様とするならば何で思ひ切つて一人の參觀料を百圓とでも極め無かつたのか、奥床し」と云ふことを生命とする此日本で日光の取扱ひ振りには何處に奥床しい所がある乎坊主は口上言ひと化し神官も芝居の出

方宜しくと云ふ格で何やら喋々と話して居る。工合は木戸錢流の參觀料と丁度
好い配合を露はして居るぢや無いか。處で初めに低價で賣り出した國債が中々
上がらないのと同様に八十五錢の參觀料を急に二圓に引き上げる勇氣も出ぬ
だらうが、低いものは悪いと云ふ信念から割り出せば、「世界第一の美な日光
は八十五錢なり」と云ふ低價に踏み倒される道理ぢや無いか」
と云つて尙も氣焰を續け

「若し金が日光を有することに成れば、拜金宗のヤンキーなどは此莊嚴な三佛堂
の聖い暗さに不平を訴へ、金の力で電燈を點けるなと云ふ注文をせぬとも限ら
ないし、此神廟の大境内に電車鐵道を敷けと要求するかも知れない。全體物質
的文明は美術の敵であるが、ホームルの後にホームル無く、日光の後に日光は無
い筈なのに、此世界の日光が美の大敵の物質文明に支配されるとしたら、論理上
から日光の滅亡は必然だと豫言されるぢや無いか」

と云つて更に不平談の歩を進め

「ソレで假りに日光は人為的の滅亡を免れることは出来るとしても、美の神は美
を蹂躪する人類の罪を怒り給ひて、一夜の中に人類の手から此日光を奪ひ給ふ

ことと成るも知れぬ、君の咄に依ると五ヶ年の天災で神橋が流失したと云ふ
が、ソレは至極好い教訓である、六月四日執行されたガリバルヂーの百年祭に
はガリバルヂーの一枚の手紙が各國帝室の寶物として尊重されたる例もある
ぢや無いか、百千人のガリバルヂーが再生するとも比較も出来ない此尊い日光
の保存は日本の上流が世界に對して擔ふべき義務である」

と絶叫したが修繕中の廟内諸方の建物をみてV氏は感慨に堪へぬ様子で

「物質文明に汚された職人の手が、ドゥして此の廟の神聖に觸る権利があらうか、
若し僕が日本の畫工であつたら、流車の煙で煙ぼつて居る博覽會の一室で平
な俗受けに狂奔することを止めて、此日光の神廟に立て籠り、唯だ一本の柱でも
宜い、ソレを元の儘にどは行かすとも元の儘に近くする様に努め、風雨に打た
れながら、此修繕されて居る柱の下で永眠したい、若し斯う云ふ美術家があつ
たならば、其美術家の死顔には活きた喜びの光りが耀やくであらう、美の下で死
ぬることを願はないで、不美の下に長生したがる美術家は、美の神に捨てられて
永劫消ぬぬ火の中を走らねばなるまら」
と嗟嘆して崇祿の年、韓王から贈つた蟲喰ひの鐘の前に佇むんだ、V氏はソレを何

と観るだらう乎

風景美と工業

V氏は韓王贈進の蟲喰ひの燈籠を見て

「バタバヤを足場に蘭人の名義で極東探検を行つた連中も多いが其西半球人は極東の歴史に對して門外漢であつた爲め日韓關係に就て今も彼れ是れ理屈張るものがある譯だが文句を并べる連中は韓王から幕府への此進物を視て久しい前から韓國が日本に感謝せねば成らぬ根底のあることを悟るが宜いソレにして此通り一廉の技藝のあつた韓國は今日全く没風流の國に退却して雅味は只一つ彼等の衣服にだけ残つて居るのは彼等の歴史がドンなに澤山な教訓を世に與へてゐるだらうか」

と語つたが案内者が急ぐ爲め同じ寶物の前に二分とは立ち留れず約四十分で三代將軍の廟に達して靴を脱げと英語で書てあるハイカラ入口を入ると一人の西洋婦人が靴を脱ぐ爲め躊躇して居たスルト一人の坊様が飛び出して来て「ネッアー、マイン」

と遣らかして上靴を婦人に穿かせた婦人は十錢銀貨を握ませに掛ると四邊を見廻して受取るが早い手は法衣の袖へ、口には小聲で「サンク、ユー」遣つてのけた、記者は思はず冷りとしたがV氏が杞憂の日光滅亡が眞憂に成りはせぬかと嘆息したが目慧いV氏は

「僕は豫言する、近い未來に此坊様や神主が見物料配當の割増を唱へてストライキを行つ、スルト睡り猫が眼を覺して片ツ端から此等の鼠輩を退治する騒ぎの末は彼の宮殿下御避暑の御用邸に接して廣い地面を有つて居る日本の富豪岩崎男爵が財産の四分の三を日光保存の爲め義捐する」

と寓意を仄めかした後一行は車で中禪寺へ向ひ合満が淵を通つた時V氏は「昔の日本佛教徒の勇猛精進は此宗教的の遺跡でも明白で此努力が佛教を日本の國教同様に弘めた原因だが百五十圓の月俸を傳道會から貰つて夏は輕井澤に避暑する傳道師は今一步で日光廟の案内僧に成りさうだ」

と云つて往來を縦断する足尾銅山用の軌道を牛が荷車を曳くのを見てV氏は「足尾の盛大は西洋にも響いて居るが美麗な此土地の風景をレールで俗悪にする上に交通までも害して居るのは前にも云つた英國流のニエイサンスで叱ら

ねば成らぬだ、ソレにしても一頭の子に一人の夫を付けて此道を貨物運輸の通路にして居る不経済さ加減は日本の工業がドレ程幼稚であるかと云ふ證據を示せる様なものぢや無いか」

と口を切つて足尾論に移り
「足尾暴動の後に實地の視察に行つた某大使館員某氏は最強度の労働をして居る工夫の日給が八十錢に過ぎないことを見聞して来て日頃は社會黨を敵視して居る同氏も大に同情を工夫に寄せ責めては工夫の災害保険丈でも日本政府が官業として開始せねば成らぬと痛論したことを聞いたが獨逸などでは災害と労働者保険は之を會社事業に委せて居る、僕は亂暴な社會主義を排斥する事は君も承知の通りだが、一方にこんな不経済な事をすれば肝腎の職工に十分の宛てがひが出来ぬのは當り前の咄だから足尾は別の途の鐵道を布いて、此牛と牛使ひ人夫との古風な不経済を止められから得た利益で工夫の貸銀増加を行ふたなら、工夫の利益はかりでなく、銅山其ものゝ利益だと思はれるが銅山は何故氣が付かぬのか」

「悪戦は戦争の大禁物で、悪戦を行れば勝つても大損害を受けねばならぬが、それと同様に足尾が幾ら採銅と鑛銅とに勉強しても上下の運輸を等閑にする様では、ツマリ日本の病たる目前小利主義が足尾にも付いて居ると云はれる」
と云ふたとき前途から女馬子が馬を曳いた來たV氏はそれを見て
「丸で瑞西だ」
と叫んだ氏は女馬子を何と觀するか

徒歩主義

女馬子が顔に平和の色を浮べて來るのを見てV氏は

「日光、中禪寺の間の結構な風景を飾つて更に其美を増すものは此女馬子と古風な山翹籠である、コレでこそ日本へ見物に來た甲斐があると云ふものだが若し此女馬子が輿に乗つて瑞西の山中で瑞西の婦人が歌ふ牛透歌の様な歌を唄つて居たならば詩趣は一段と加はるだらう……ナニ瑞西の牛透歌に對して日本には馬方が鈴の音を拍子に唄ふ馬子歌があると……ソレは妙だ、一つ此女馬子が唄つて呉れ、ば宜いが……唄はせれば唄ふだらうと……唄はせ

たのでは面白くない開きな注文に應じて行く様な改たまつた人爲的のもので無く自然と行るんで無くツちや初心の人が四角張つて振つた寫真と同様で困る」

と六つかしい注文を出したが其中に女馬子は下へ、此方は上へ懸け離れた記者は馬子と駕籠の古風も宜いがコレが見納めに成らうも知れぬと云ふとV氏は目を丸くして其事情を問ふた後ち

「何と中禪寺、日光の團體と兄尾銅山とが費用を分擔して電鐵を起す計畫があるよ……以ての外悪策だ仕事日と休み日とが分れて居るので日曜が嬉しんだのに此嬉しい天然の絶景を電鐵で騒がせ様とはクリスマスと競賣とを間違へてるんぢや無いかドウしても本氣の沙汰ぢや無い」

と例の自然崇拜論を吐き

「此美はしい山へ来て交通の不便に苦情を云ふ位なら日光の寫真を枕に自宅で寝て居ても夢でも見るが宜い、不便と戦ふ間に自然の偉大な力に接し其恵みに浴して知らずく俗界で汚れた塵を拂ふのだ、工業と風流とは對立すべき筈のもので握手すべきもので無いのに強ひて握手する結果は猫と鼠の同盟の様

に段々人欲が増長する爲め遂に風流の降伏物質の萬歳と爲るのは當り前で僕が云ふ日光滅亡を早める仕方だ、自身の田園で作つたものが一番旨いと同様に不便と戦つて得た愉快が最大な愉快だから此結構な天國の風光は健脚家の外は賞玩する権利が無いと諦らめて足の弱い連中は登山の野心を起さず引き退がるが宜い」

と一喝して馬返しに着いたときV氏は重なる峰を眺めながら徒歩し始め

「見給へ、日本人は皆んな揃つて車か駕籠を用ゐて居るのに西洋人は婦人でも草鞋掛けで歩いて居るぢや無いか、僕は日本婦人に健脚家になつて上靴の下に良人を踏み着けべく勧めはせぬが斯んな絶景な場所へ來ても支那婦人と同様に、一歩も動かぬ算段をするのは世界を驚かして徒歩騎兵の馳名を馳せたら日本歩兵の健脚と餘りに不釣合ぢや無いか、人力車は日本の發明だと誇つて居るが其實米人が駕籠に二人を要する不經濟を矯す爲め人力車を拵らへたのを日本人が真似たと云ふ説もあるが人車から電車と交通機關が發達するに連れ日本人が徒歩を廢めるのは國の爲めにも宜しく無い」

と云ひながら女人堂へ來て昔はコレから上が婦人禁制であつたと聞いてV氏は

「今は婦人が選挙権を得たいと争つて居るが婦人に餘りの高上りを禁じたのは面白謎だ、ウイルヘルムミナ女皇は蘭國の元首だが御配偶が獨逸皇族で御繼嗣が無いから蘭國の將來は政治的の係争林檎だと憂へられて居るし如何に女權の盛んな米國でも次期の大統領選挙にタフト氏を倒し得る婦人も無からう日本の政治家なり宗教家なりが此女人堂を婦人登山の境界線にしたのは今の婦人界が反省すべき戒めだ」

と云ひつゝ聽て華嚴へ着くと一人の巡查が瀧の傍に嚴めしく立つて居るのをV氏は不思議さうに眺めて居ると茶屋の女が繪葉書を買ひ付けながら

「藤村操さん以來此處で死ぬ人が今迄に七十三人ださうです彼處の樹へ操さんが字を書いたのです……ソレで巡查が時々見張に来るんです」

と咄したV氏はソレを聞くと此靈地を汚す愚物があるか」と口を切つて華嚴自殺論を始めた氏は何と觀する乎

華嚴自殺

V氏は藤村操が華嚴書用の先登を試みた咄に眉を擡めて

「ステヅエンソンが自殺俱樂部と云ふ書を著すと自殺俱樂部が實際に起つた爲め社會の一部に攻撃されたのは昔の咄だが善行は兎角特發性を帯びて只だ一人限りで御仕舞になるのと反對に悪行に傳染性と遺傳性を備へて居るかソレを獎勵するのは勿論不可許りで無く單にソレを傳へることも、又たソレを攻撃することも餘程用心せねば成らぬ、哲學を生嚙りに嚙つたまでの狂人が此華嚴の自然を汚す大罪を行つた痴態に對し事々しく新聞に吹聴してソレに勢ひ付けたとすればソレは取りも直さず其狂態相續人に對する自殺教唆ぢや無いか」

と論じて語を續ぎ
「獨逸で學位請求の論文製造人のあることが、議會の一問題に爲つた結果、益々買文ドクトルが殖れたので、今年も議會に此問題が出ると、政府委員は言はない方が製造人を繁昌させぬ得策だ」と遣つてのけたが、ファウストの劇が分る年頃だと云ふ語だけでも怪魔の化身メフィストレノスの聲が青年の心耳を騒がしはせぬか、水が濁れば漁るに便利だが、濁つたことを告げるのは殺生人を招く呼笛である、コレと同様に一人のベスト患者が現はれたと騒ぐの

「何事も自働で行れ」と云ふのは現代の理想だが、自働流行の結果、往々自働自縛の愚を外交上に演じる國もあるのはマダしもだが死ぬことまで自働で行れと云ふ道理は無い、併し世界から自殺を取り除けたら世界の悲劇は餘程寂しく成るだらうが自殺の原因が小さければ折角の悲劇も滑稽の悪る落ちに成る譯で日本の様な氣候温和、風光崇高な淨地に今でも小原因の自殺が多いとすれば都市が煉瓦積み、重箱式になり風雅が消えて僅に室内の器具陳列で自働する如き日本になつたら大多数の自殺者を出しはせぬか杞憂に堪へぬ」

と語つた記者は日本の自殺の中で最も優勢なものとは情死だと告げるとV氏は熱心に其説明を求めて

「當人同志が未來を樂觀して情死を粹なものとし世間も比翼塚を築いて情死者を葬むる同情がある」と云ふのか、是れは確かに粹な自殺であると共に又世界の自殺社會に無類の珍である此日本特有の自殺は、勿論佛教の再生觀から生まれたものに相違無いがソレにしても一夫多妻國と云はれる日本に情死があるのは精神的に一夫一妻の觀念があつて其主義が實現したものであらう、兎に魚馬鹿と云ふ外に人を罵る語の無い日本に情死と云ふ詩的の名があるのは

は豫防法普及の利益と全市を恐慌させ漫遊客を寄せ付けぬ不利は加減乗除して其答はドウなる乎、兎も角も狂人が出たら其狂人限りに止めて成るだけ其傳染を避ける様に努めて欲し」

と斷じてV氏は更に自殺論に入り

「自殺は幾らか日本武士道の副産物と云ふ意味もある、开處で戦に敗れて捕はれの辱に會はぬ爲め敵前にハラキリを行つのは如何にも英雄的だが此唯一の場合を外にして即ち戦争以外の場合に自殺するのは却つて卑怯ぢや無いか例へば借金を拂へぬ爲めに自殺するのは借金に負けた臆病者、失戀で死ぬのは戀に負けた弱蟲、他人に申し譯無さの自殺は肉の死は心の犯した罪の百分一を償ふに過ぎずと云ふ眞理を忘れた不覺者、相惚れの戀人を他人に奪はれた爲めに死ぬものは戀人の肉が他人へ移轉しても其心は自分の所有物であるのに氣の付かぬ健忘症と云ふ様な理屈で甚だ不感服である」

と云つて更に一步を進め

「併し生活難の昂まるに伴れ自殺者の殖ゆるのは世界一般の現象だが是等は皆な生存戰の敗者で、氣の毒だが褒めた所行ぢや無い、尤も獨立自主の精神か

如何にも日本的で流石に風流な國だ』
と自殺攻撃が緩むだとき一行は中禪寺に達したV氏は何と中禪寺を観る乎

中 禪 寺

中禪寺の湖畔、ホテルの廣縁に立つて所謂不便と闘ひ自然の偉大な恵みに浴したV氏は恍惚として世界中の最美な風景を飽くまで賞玩した後、始めて魔術師の手から放された様に我に歸つて

「現代の文明は國際間に武裝的の平和があると共に個人間には城塞式の光榮があつて富豪の門は城塞式に嚴めしく守らねば光榮が危く、都市と云ふ都市の住民は法律の雨の御蔭で辛うじて善隣の關係を結び居る始末だが、此中禪寺計りは巡査も憲兵も其姿を見せず湖上の小舟に睡つて居る子供の顔には平安の瑞氣が満ちて居て舟の外へ無心に投げ出して居る足は漣の愛嬌を漲らして居る美しくしい水と仲好く笑ひ話しをして居る様に見ゆる、此清い詩的の崇高な美景は之を概括めて、天使が湖水の全面に翼を擴げ自然に逆く俗文明の侵入を撃退しつゝ、俗文明に對して治外法權を守つて居る靈地だと謂つても宜か

らう』
と深く嘆賞したが此邊には別荘式の建物も見ゆるので其所有主を土地ツ子に尋ねると、皆んな洋人の所有で日本人のは只だ一戸ソレも例の獨逸妻君尊敬の青木周藏子のが先年迄あつたが今では洋人の手に移つたさうだV氏は之を聞いて「君の咄では資産と負債とを比べるとマイナスがプラスに何倍する様な連中でも紳士の體面に必要だと云ふ迷信から別荘を有つと云ふ日本で此靈地を避けて居るのは何か秘密があるに相違無いと思はれる』
と思案した後V氏は「分つた！商業は國旗に伴ふと云ふ英國の同盟國だけあつて日本人の遠征は娘子軍の足跡に従ふと云ふ意味の格言でもあると見えて南洋の諸群島からバイカル湖畔まで先鋒は毎も娘子軍で、其占領が確實に成つてからソコ日本は行商が第一軍と爲つて進むで行くのを見ると日本人は賣笑婦の前驅が無い所には別荘を建てる勇氣さへ無いと見ゆ、聖中禪寺湖畔の靈地は良人とは妻君の機嫌を取る爲めに奔勞する動物なりと心得て居る洋人の占領に任せて居るのであらう』

と天ッ晴な解釋を施したとき、枝も鳴らさぬ微風が三味線の音を傳へて来た、氏は拍子扱の體で

「オヤ、失敗つた僕は中禪寺を聖地と思つたが買ひ被りだつたか」

と叫びだ時、ツエネシクチンを連ひて来た女ボーイに、此處にも賣笑婦があるかと問ふと

「西洋の御客に付いて来るボーイさんやガイドさんの爲め、チャブ屋が一軒あつて其家で遊ぶのです」

と答へた、V氏は勇氣を回復して

「ソラ見給へ、僕が中禪寺を聖地と思つたのは間違ひにもしろ、賣笑婦の無い所には日本人は生きて居られ無いと云ふ原則は、例外であるべき筈の此靈地にさへ矢張り原則通り賣笑婦が居ると云ふ手嚴しい確證を示して居るのは君も恐れ入る外はあるまじ」

と説き誇りつゝ一轉して

「ソレにしても此清い風光を賞玩する爲めに來る外國人は西洋風のホテルで密閉式の部屋に閉ぢ籠められねば成らぬ窮屈さ加減を思ふと僕は日本人の開放

的 생활が今更の様に羨ましくつて堪らない、但し秘密好きの東京の外交團が其避暑地を此處に選んで夏期の日本對世界の外交秘密が此處に住んで居る彼等外交官の密閉室で料理されるのは丁度好い配合であるし殊に隣近所も皆彼等の密閉趣味に相應して居る洋人の別荘計りだから彼等が日光の結構に一層感入つて別荘まで建てたのは無理も無し」

と云ひつゝ再轉して

「其結構な日光の中禪寺には美の神計りで無く日本の愛を成り立たせたる神……何と云ふのか……出雲の神様か……其神様までが加護の恵みを此處へも垂れ給ひて洋人の戀の媒介地は中禪寺と噂せられとすれば密閉式が不可と計りは僕にも云ひ切れぬ」

と笑つたが更に三轉して

「此靈地は洋風の密閉式が幅を利かす場所柄だけに、日本人の大嫌ひなチースや豚の肉などが日本式の賣物よりも優勢に店へ飾り付けられて居るのは負け嫌ひな日本人に不似合な現象だ」

と評した後、明日はドウし様かと作戦計畫を相談するとV氏は出た序だから箱

根へ行かふと云ひ出しV氏と記者とは箱根へM氏は東京へ歸るとに成つた、氏は箱根を何と観る乎

公道女郎屋と英語

V氏は出た序だから箱根へ行かうと云つたが其通路から云ふと寧ろ東京へ歸つて、ろれから箱根へと云ふのが相當だが、東京を迂回すれば、中禪寺から日光へ戻つて途上山の手線へ乗り替へ品川から東海道と云ふ順だからV氏は「迂回は最短なるを要すと云ふのは戦術の原則だが山の手線の大迂回は頗る滑稽だ迂回も忍ぶとした所で乗り換への多いのは何と改良して欲し」
と語つた、各線の汽車は煙を車室内に浴せ掛けて乗客の顔と衣服とを機關車の火夫化させると云ふ苦情の外には別段な事變も無く恙無く國府津に着いてソレから賣場で切符を買はせ車の中で再び検査の上に鉄を入れる電車に乗りるとクス／＼笑ひながらV氏は
「龜の子列車に接続する交通機關として繁文的電車のあるのは好配合だ」と冷かした、電車の無事に小田原を通るとき両側に遊女屋の多いことを記者は

V氏に注意するとV氏は

「君の咄に依ると昔は東海道に五十三のステーションがあつた譯だから長い道中で人類の本能に應じる機關の有るの不思議で無く風俗上寧ろ祝すべき制度だが旅客の食事時間にも一向御頓着なく正午過ぎの零時三十分は國府津行列車を新橋から出すと云ふ忙がしい今日では地理關係も全く一變した筈なのに小田原が昔ながらの封建式を守つて公道の幹線に魔窟を列べるのは餘りに開放式で見つども無いぢや無いか」

と云つたが記者が日外V氏に咄した魔窟の別名狹斜の巷を思ひ出して「封建の大名は流石に將軍よりも智慧が一等下つて居たに相違無い、將軍は其膝下に吉原を開いたが巧みに之を一區に閉鎖したのに大名は其城下の中央に魔窟を開いたのは甚だ不手際だ、コレから思ふと君が會つて僕に咄した支那の帝王が魔窟を其都の中の狭く斜めな小路に置いたのは大名が廣く真直な公道に置いたのよりも餘程賢い仕方ではあるまいか尤も昔の大名は武士の頭でハイカラ風は大嫌ひだつたと云へば仕方が無い」
と論じたとき湯本に着した、スルと一等室の洋客と云ふのを見て取つた、此

鳥逃がすべからずと云ふ意氣込で塔の澤ホテルは如何「一湯で御座い」奈良屋で御座いますと云ふ數十人の宿引の包圍を受けて面喰つて居る中に二三人の婦人が其群から抜んで来て

「ツウ、ユ一、ゴ一、ツ一、フジャ」

と正確に英語で咄す他の一婦人は

「アイ、アム、セント、フローム、ホテル、ナラヤ」

と云つた様な調子で怪し乍ら滑らかに英語を操つるのを聞いてV氏は驚き

「中禪寺と箱根とはコレ程違ふのか、幾ら東京が近いからと云つてホテル案内

の女が英語を使ふのは恐れ入つて、コレ丈でも箱根の進取的な事と洋人受け

に都合の宜い事は分るが進取的で好都合と云ふ代りに雅致に乏しいことも併

せて證據立てゝ居はせぬか僕等洋人には全く通じなくともイラツシャイ、ソ

ーデスカと云ふ伊太利調を帯びて居る日本語で咄される方が僕は嬉しい様な

氣がする」

と云つたが語を續いで

「ソレは左様として斯う云ふ婦人が英語を使ふのは全くエライ、僕は此間上野

へ獨りで出掛けたとき電車道で無い方の筋道を聞きたくつてマゴ付いて居る
と襟にJの字の章のある帝國大學生を見つけたから、有り難い、法科の學生
だと喜んで英語で咄しかけると先方では迷惑さうに、アイ、キャン、ナツ、
スピーク、イングリッシュと来た、併し英語は咄せぬと英語で断る以上は例の
日本人の謙遜だと心得て色々咄し掛けて見たが話は全く不通であつたに拘ら
ず先方の手にはミルトシの失樂園を持つて居たので僕は此學生が英國大文豪
の名著を解しながら英語の道を教へることの出来ないと云ふ日本の英語教授
法の不自由で且つ不思議なことを悟つたが今此女案内者の英語を聞くと其實
用の點に於ては女ボーイは大學生以上だと云つても宜い、コレから見ると日
本の議會に向つて日本の婦人が有夫姦律に有妻姦律をも加へる様に請願する
のは無理で無い程に自分は女がエライと思ふ」
と語つたがV氏は車も駕籠も椅子駕籠も皆排斥して馬に乗らうと云ひ
「競馬熱が盛んで政府も馬政局を新設する日本で馬に乗らぬのは日本の社會に
對して不敬な仕方である」
と洒落つゝ轡を駢べて湯本を出發したV氏の箱根行はドウ發展する乎

手足のない湯治客

湯本ころ別に洋人を引き留める設備も無いが塔の澤と成ると既に怪しげな白首
が出没し、入浴中には所謂湯女のハイカラ化した女ボーイが相摸女の特色を
發揮して觸らば落ちん風情を示しつゝ肌も陽はに甲斐なくしく周旋するし、狹
い土地にも似ず少くも数人以上の居着藝妓もある上に、其れで足らずば一號令
の下に小田原から左様を執りつゝチヨンキナの援兵に馳せ参じる配備までチャ
ンと行届いて居る、記者は此事實を示して洋人諸君の萬歳を祝すると云ふとV
氏は

「有り難う、併し僕は又た君の厚意に對する答禮として日本人諸公の萬歳を祝
するよ、見給へ、中禪寺を鬱陶しがつて滅多に寄り附かない日本紳士が湯本
から此邊へ掛けて澤山に別荘を構へて居るぢや無いか、此別荘は箱根の天然
よりも箱根が或る要點に於て行き届いて居る其引力に吸ひ寄せられた事は君
も合點するであらう」
と一矢を記者に酬いつゝ一轉して

「但し箱根の備へて居る要點には勿論洋人も均霑する譯だから若しも運轉自在
の空中飛行器が今のラ、パトリ號の様な甘ったるいもので無く、最つと完全な
發達したら瑞西の風景は顔色を失つて新舊世界の漫遊客は探勝と云ふ上品な
名義の下に箱根の要點を探検する爲め盛んに飛んで來るだらう、併し交通機
關の過度の發達はリュミエルの即席色取り寫眞を輸入する代りに金庫を溶
かす秘密液をも輸入する不幸が有るだらうから殺人機械の進歩に熱心しなが
ら平和會議に参列して文明人とは我等なりと得意がつて居る文明人が日本人
の云ふ湯治養生法の下に盛んに花柳病を製造する事に成るだらう、斯うなる
と君の咄しで聞いた勇士の壁さへも治癒した程の此の山のゴングン神も逆も
手が廻らぬと匙を投げ給ふ時が來る譯だ、コレを思ふと日本の官鐵が龜の子
列車で交通の便利を抑へて居るのは流石にエライに相違ない」
と速射砲を連發して多數の宿屋にゴロゴロして居る、避暑客に目を着けたV氏
は

「日本人程不可解なものはない、此風景の美な所へ來て部屋に仆れて居るとは何
事だらう、此連中が病氣で湯治に來て居るなら顔を赤くする迄酒を飲んで

も無いから例の通り動かない算段をして居るに違ひ無いが、ソレなら遠方へ来ずとも自宅に居るが宜し』

と攻撃したが二の矢を注いで
「日本人はドゥッして動かないのだらう僕の友人が初めて日本へ来た時、手の無い日本人を見掛けたから屹度痲痺兵に違ひ無いと思つて不覺に涙を溢した、スルと件の手無し日本人は何か用を達す時に健全な二本の手をニユツと出したので二度喫驚をしたと咄した事があるが、ソレは何と云ふのか……懐ろ手か……僕が若し此懐ろ手の一件を知らず又た君と同道せず此處へ来て湯治場の部屋に居据りの日本人を見たら、僕は日露戦争で足の無い痲痺兵が斯くなに澤山出来たかと驚いて赤十字の正社員に爲つたかも知れない日本人が沈黙は金なり明辯は銀なり格言を守つてるのは結構だが日本人は幾らか黙すれば愚者も賢人らしく見ゆ」と云ふ狡計を行つてゐるかと疑はしくも成る、何故日本人は斯んなに語らず動かすで押し通すのだらう』
と云つたとき四人摺ぎの椅子に乗つて上山する紳士に出會つたV氏は「不動の日本人は又た労働を法外に濫用する、健全な日本男子が病氣の婦人の

様に一人で四人の勢力を使つて居るのは水力が経済的に取れるから人力を不経済に使ふと云た謎かも知れぬが決して工業發達の道では無い、尤も一五八四年シキスト五世時代にフォンタナが千五百人の人夫を使つてエジプトの方尖柱を建てさせた事もあつたが日本人は其向ふを張つて開ナ事は何でも無いと世界に誇る積りか』
と云つたとき宮の下に着いた、宮の下はV氏にドンな感ヒを與へる乎

アイ、ラブ、ユー、

炎天干しの騎馬旅行は餘り感心したもので無い、記者は宮の下で某ホテルへ投じると取敢ず一風呂浴びて休息したいと思つて居ると、V氏はホテルに着いてから一十分経つか経たぬ間に汚れたシャツを新らしいのに取換へて
「サア、市中見物に出掛け様」
と云ひながら記者の部屋を訪ねた、避暑地の日本人を怠惰だと罵倒する程であつてV氏が少しも草臥れた顔を見せぬのに驚いたが記者も日本男子だ負けて堪るものかと勇氣を奮つて、ホテルを飛び出し宮の下を散歩して宮城野へ向つた

此處も矢張り日光町と同様に横濱の辨天通り式で、佛壇やら怪し氣な古物を陳べてある上は、何ハウスとか、何ホテルとか勝手な名を付けてある家には洋人向きに装ひを凝らした婦人が好い鳥もがなと云ふ氣込みで控へて居るのを見て、記者はウンザリしたが、獨でホテルへ歸るのもと思つたから仕方無く歩みを續けて居る中に一軒の繪端書屋の前へ掛つた

スルと店の中からブリース、カム、インと矢張り女の聲で語を掛けたから、記者は揚弓屋の「素通りは可けませんよ寄つて入らっしゃい」を英譯したハイカラ式だと心得てV氏を引き留め様とする間も無くV氏はツカ〜と件の店へ這入つて仕舞つた、仕方がないから記者も續くと、女主人公は先づ茶を出して「箱根水は如何です」と云ふと同時に記者に向つて他所では一割ですが手前では一割五分出しますからドウ宜しく」と云つたが、頓智の無い記者は何が一割でドウ宜しくするのか、頓と分らず要領を得無いから其趣意を質問し始めると、慌けなすつちや思ですよ」と云つて相手にし無かつたが、本當に分らない記者の真相が先方にも通じた結果、宮の下には外人向の美人が澤山ある、其れに客を付けたガイドには外の店では一割のコミッションを出す此店では一割五分出すと云ふ趣意で

あることを確めたから、記者は我ながら無粋なのに可笑しくなつて吹き出した、目慧いV氏は何條コレを見逃がさうか熱心に記者を追窮するから記者もトウトウ有の儘を白状した、V氏は腹を抱へて一たびは笑つたが次には嘆息して

「需要があればこそ供給があるのだソクラテスは需要少ければ少い程、人は幸福なり」と云つたが人は幸福なる程、需要少しとは云は無かつた、箱根の入口には藝者があつて、コレは重に日本人の需要に應じる仕掛けだが、外人に大持ての宮の下へ來るとチャンと外人に打つて付けの供給がある、併しコレが爲めに宮の下を賣めるのは間違ひで、僕は寧ろ洋人が日本へ來て制裁無しに立ち廻る亂行を映して居る鏡が、此宮の下にあると思ふと同時に同じ毛色の僕は慚愧に堪へぬ」

と云つたが今度は向を易へて
「併し横濱趣味が斯くまで此美しくしい箱根に輸入されたのは箱根の耻辱だ、現に洋人には必ずムスメが必要であるとの迷信から半裸體の美人を浴室に周旋させるなどは箱根として衰めた咄しちや無い剩りに箱根の美人黨が得意氣にアイ、ラブ、ユーを盛んに振り廻すのも宜いが、日本人の特性で、エルの發音が

不正確な爲め僕の友人は

I TOP (掠奪する)

I TOP (擦ります)

と聞き間違へ臆を潰して逃げ出した喜劇もある程にラッパが沸騰して居るのは箱根の失態である、とは云ふものゝ一片の腐つた肉があれば全體のソップが喫べられず、一人の腕白小僧が難れば子供等の清い遊びも中止する外は無いと見て見ると殆んど全體が斯うダラシの無い有様に成つた以上は箱根を物質文明の弊から救ふには馬賊を雇つて来て鐵道も何も打ち壊す外は無いが既にAと云ひ始めたらBと續けるのは止むを得ぬとすれば中禪寺を自然に任せて名實共に勝地として保存し箱根へは思ひ切つて遊覽鐵道でも敷くが宜からうと論じてホテルへ戻り食後に赤い月が山の間から上ぼりつゝある美景に見惚れて前庭の藤椅子に倚りかゝつたV氏は箱根の夜景を何と観る乎

光の應用

ホテルの庭から山の端を見ると火よりも赤く見えた月は上るに連れて段々に白

く近い山は歴々と遠い峰はボカした様に見ゆる、夜食に出席した禮服の儘で、貴婦人と紳士が藤椅子に倚つて月を見つゝ又た月に照らされて居る月下の箱根山中は真に一幅の畫であるから、V氏は日光も結構だが箱根も結構だと賞讃したが記者等の凭れて居る椅子の前面には一基のアーケ燈が輝つて居て蝶や蟬が寄つて來るのを見てV氏は

「日本の陸軍は曳火砲で旅順の敵塞を探索した技術のあるのにドウして日本人は光の應用法を知らぬのだらう此庭のアーケ燈の爲めに庭の居る僕等の眼はギラ／＼して折角の風光が遮ぎられる上に僕等は往來の人に暴露して居る見せもの同様に成るぢや無いか此過失は此處計りで無く東京市中の街燈も單に飾り物として遠くからはイルミネーションの様に見えても傍へ行けば燈下の道は暗黒であつたり店の燭光が高過ぎて天井を照らす代りに商品が目立たぬ様な店飾りも少くは無い、無暗に光るサーベルより黒味のある日本刀の切れ味が宜いと君は内外誇つたが光線も其通りで曇つて強く、春の霞に置かれた様な工合は著るしい快感を興へる外に見るべき物も能く見ゆる、光の下には影がある、日本人は何故此影に對する注意を缺いて居るのか」

と云つたとき女ボーイがベツパーミントを運び来て御愛相咄しの中に洋客のガイドが必ず一割のコムッションを取ることを、其請求が無くとも他のホテルでは其れを渡して居ること、記者等の泊つた此ホテルは断然ソレを廢した爲めガイドに中傷されて居ること、商店などでは洋客の買物にガイドの名で受取書を出す爲め其品を追送する場合には洋客はガイドの來る迄品物を受取れぬ滑稽のあること杯を話したV氏は其れを聞いて

「幾ら警察がガイドを取締つても社會が放任すれば駄目だ、此ホテルがガイドの弊風に反抗して居るのは自信力の強い證據である、處で日本のホテル問題が盛んな時に某外字新聞は瑞西人にホテル業を行らせると論じたが、このホテルの設備は能く行届いて居て一點も缺けて居る所が無い、只だボーイに女を使ふのは無論結構に相違無いが結構過ぎて機會は盜賊を生むと云ふ諺通り誘惑の弊があるまいか、尤も日本の男ボーイは概して不遜で、日本一般の丁寧な叩頭に慣れた洋客は男ボーイの横柄な事が著るしく目障りに成る上に、彼等は不遜極まる日本語を用ふさうだが洋客も段々日本語を解する向が多く感情を悪くして居るものもある様子だから女ボーイは確かに男ボーイより

も宜い、ソレから此邊へは横濱邊の半世界女も遠出して來る爲めでもあらうが避暑地のホテルだから都市の様に過度の密閉式は好く無い、客室には少くも旋風器を備へる必要があらう」と話したが更に一步を進めて

「ソレから日本人でホテルに泊まるものが稀れで、洋人は日本旅館を避けるのは面白くない、双方の長短を取捨して成るべく接近させたらドウか、洋客が日本旅館に閉口する苦情の中には夜明けに雨戸をガラ／＼開ける事、電燈の無い家で女中が客室の燈りを消しに來ることなどもあるが、洋客の室内城廓主義は日本旅館の心得置くべき事で横濱にアンマ夫人と異名のある西洋婦人が居るが此異名の起りはと云ふと此婦人が或る處で日本旅館へ泊まつたとき、夜更に婦人の寢室へ小腰を屈めながら入つて先た男がある、婦人は驚きもし怖れもしたが其様子を見て居ると、其男は夜具へ手を掛け婦人の體を撫でたから婦人は堪らなくなつて枕元のピストルを執るが早い一發ズドンを極めた右の男はアツと驚く、旅館は大騒動の末に調べて見ると男は按摩稼業で按摩は如何と日本語で問ふても通せぬと見て、按摩の仕方話を試み掛けたのだと分り別

に怪我もなく無事に済むだが今でもアンマ夫人の異名は脱しないのだ」
 と語つて記者を笑はせた後、部屋へ歸つて明日の計畫を相談した末、出来るだけ箱根名所を騎馬で廻り引續き熱海まで騎行する事と極めた。此騎行はドウ成り行くであらう乎

王政維新

豫定の計畫通り騎馬でホテルを出たが、V氏は馬術の鍛練が専門家を凌ぐ程の名
 人だのに記者は慰み半分に行つた。素養しか無く、殊に十年近くも手綱を把
 らず、脾肉の嘆は疾うの昔に過ぎ去つた始末だから、負けぬ氣で驅けたもの、箱根
 の御用邸が見ゆる頃には、最う餘程草臥れたので、此絶景の中をダクで駈け續ける
 のは博覧會場を自轉車で素通りする様なものぢや無いかと云ふと、V氏は
 「日本人は外交の辭令が旨いから親友の君にも油断は出来ぬ、絶景を楯に取つた
 のは詩的だか、此詩的の楯の背ろには疲勞の汗がありはせぬか、始めに元氣で
 一氣呵成の突貫には妙を得て居るが、長引くと根氣の薄いのには日本人の弱點で
 利息談判の押引に焦れて外債に高利を借るのは此弱點の所爲だよ」

と冷かしたが記者が馬に水を飲つて居るのを見て、V氏は
 「日本人が動物を憐れはるのに實に感心だ、巴里で荷馬車の馬に一般に日除けを
 付ける様に成つたのは、十年前の事だが、日本では農民が昔から行つて居る
 のを知つて僕は敬服した併し其愛し様に有害な事もあるのに注意し給へ、現
 に君は馬に飲つて居るが、事に寄ると馬に風邪を引かせる恐れがある、ブランデ
 ンブルヒでは長途騎行の場合には馬の口を洗ふだけで水を與らぬ事に成つて
 居るのは一つの手本だ」

と真面目に話したかと思ふと忽ち
 「何事でも過ぎるのは宜しく無い、日本人は馬を愛し過ぎて風邪を引かせ、娘が親
 を愛し過ぎて賣笑婦に墮落する」
 と皮肉を云ひつゝ、蘆湖を見渡して

「何たる好い景色だらう、ソレに御用邸が儼然と聳ねてゐるのは、丁度此湖水と箱
 根一帯の連山とを支配して居る様で、神々しく感じ、箱根は非常の峻山で無い
 にもせよ、少くも將軍と尊王黨とを分つた關所であつたとすれば、若し幕府が嚴
 重に此山を守つたなら、四十年前の大革命は存外手間取つて、世界的文明の潮流

が斯くまで早く入ら無かつたらうと思はれて、此山に對すると日本の大革命史を夢みる様な氣がする」

と云つたとき湖畔に達した旅館の前を通つたがホテルは勿論宮の下より劣つて居るものゝ風俗壞しの分子は少しも見當らない、V氏はコレを見て

「文明は罪惡の母だと云ふが交通の便利が賣笑婦を迫り出し賣笑婦が花柳病を生み、花柳病が博士を喚び起し、博士が大學を組織し、大學が電氣を發明し、電氣が交通に利用され交通が賣笑婦と云ふ因果律から見れば云ふ丈け野暮かも知れぬが、此湖畔の自然に忠實を盡すべき筈の日本人は下ノ様にも勉強して交通を今の儘に抑へると共に此處の神聖を維持せねば濟むまら」

と云ひつゝ一轉して

「併し僕の注文は不可能かも知れぬ全體人間は生活する爲めに一生の大半を費しながら、剩つた僅の時間は生活から離れたがつて一切の手段を求め、健康を増す爲めに喰ひ、喰つた爲めに胃を傷ね、傷ねた末に醫者を求めると云ふ自己撞着極まる動物だから、箱根山の半腹を占領した暗黒が其波動を此湖水に影響させずに止むとは思へぬ」

と云つて湖畔の絶景に名残を惜みつゝ、道を熱海の方を取つた、但し道とは云ふものゝ僅に人を容れる丈け、狭くなるしい熊徑が藪の中に心細く通じて居る丈だが、外に道は無いのだから、兎に角に馬を躍らして此藪の中へ突進し始め、凡そ五分も駆けたが一人の人にも出合はず颯と吹き付ける急な山風は小雨を伴ふて物凄く荒寒の中に短い聲だが二聲三聲、驚の轉づるのを聞いたV氏は「コレが日本の爲か、僕は百幾回も決闘を行つたが最後の決闘の日は丁度爲の美聲に酔つて居た五月であつた」

決 闘 と 學 生

V氏は箱根の山中で決闘談を始め

「僕が百回餘りも決闘を行つたことを聞いたら君は僕の事を餘程野蠻な人間だと思ふかも知れぬが決闘は男子殊に壯年の學生時代には是非行つて見るべき精神鍛練の必要な學科だ」

と先づ冒頭を置いて

「開處で僕は決闘趣味を有つてると共に日本の武士道は僕の非常に尊敬する所で昔の日本武士が領主にも法律にも救済を求めず、果し合ひを試みたことなどは日本武士道の信條に照して十分の眞理があると思ふが、但だドゥしても僕に解らないのは僕の、イヤ僕計りで無く世界が畏るべく敬すべきものと認めて居る日本の武士道が一體日本の何處に潜むで居るのであらう乎僕はソレを發見するのに苦むで居る」

と云ひつゝ日本の學生觀に入り

「全體一國の元氣は青年人士の間に宿る筈で、殊に武士道と云ふ哲理的趣味のある元氣は知識のある青年の階級即ち青年學生の間にやぶるべき理窟であるのに僕の眼に映つた限りの日本の青年學生は皆一體に弱々しくつて小さく利發の様に見ゆる、ソレで在留の洋人仲間の評判を聞くと日本の青年學生はマダ卒業せぬ前に早くも結婚の用意に着手して其注意が些細な身の廻りの修飾にも行き届いてるのは宜いが、洋人から見ると巴重の下等オイランが使ふ劣等なワニリン入の香水を珍重して居る滑稽もある様な始末で、ドゥも健全な青年

の氣風を缺いて居ると云ふ輿論だが日本の武士道は斯う云ふ青年學生の何處に見出されるだらう乎」

と云つて學生攻撃の歩を進め

「日本青年學生の氣風が身邊にまでも注意せねば成らぬ結果として其一月の費用は少くも廿五圓は要るさうだ、コレを西洋に比べると勿論安上りであるが、日本現在の生活程度から云ふと随分高い計りか其學生が卒業の末に月收四五圓を得るに過ぎぬとすれば在學中に準備した新夫人と共に紳士としての家庭を組織することは餘程困難な咄だらうと思はれる、併し五十圓の月給は日本人を平均して一人前の人士が取るべき分け前だとすると卒業したての青年が此一人前の地位に有り付くことは随分六つかしこと事に成るだらうから日本青年學生は夫人を準備する前にドゥして身を立て様かど研究するのが先決問題ではあるまいか、此問題を飛び越しての夫人問題は頗る早計極まる譯だ」

と語つて尙は學生觀を續け

「ソレで卒業證書が直ちに人物を作ると思ふのは迷信で、誰れでも一定の學年

間に一定の講義を教授から聞けば卒業證書は握れる筈だが、ソレを握つても學者では無く、又た活きた事務に對する活きた準備が完成した譯でも無い、更に進んで博士と無つた所で歐洲の一等國は別とし、西班牙や白耳義の博士は圖書館で種々なリテラトルから抜き書きして綜合的に意見を書けば誰れでも得られる學位で、日本の博士も先づコレと大同小異かも知れぬが公法學者のマルテンスは法學博士だからエライので無く、マルテンスの實質がエライのである、コレを思ふと日本學生の前途は甚だ遠い譯で、在學中に女の事などは念頭に置くべき問題では無い筈だ』

と一鞭を加へて語を續ぎ

「斯う考へると日本學生の態度は利巧としては算盤に合はない計りか、女性を念頭に置いて香水に奔るなどは一國元氣の持主たるべき筈の青年學生としては宜餘りに柔弱ぢや無いか、ト云つて、ボート、レースのチャムピオンに爲るは宜いが、誰れでも出来る學科を會得し損なつて落第するなどは決して褒められた無いら、僕は粗放な學生に成れど要求はせぬが、變生女子見た様な柔弱極まる思想は廢めて貰ひたいと思ふのだ、コレを思ふと同時に僕は僕の國の學生に

虎 の ソ ッ プ

決闘の流行する事を誇りとして僕の國の元氣は此流行に依つて維持され發展されて居ることを吹聴する』
と説いて決闘談に入つたV氏は決闘をドゥ鼓吹するであらう乎

學生の決闘は僕の國の誇りだと叫びだV氏は更に氣焰を加へて

「僕の國でも決闘は法律で禁じてあるが、社會は決闘を非認して居らない、成程法律は現在の文明の程度では出来るだけ完全に近く規定されて居るに違ひ無く、世界の法律の制裁は社會を取締る効能は確かであるが、被害者が受けた心質上の損害を十分に償ふことの出来る迄に法律は進歩して居ない、随つて法律で禁じてある悪事に對して社會は却つて之を善事と認める様な衝突は幾らもあるが決闘は確かに其一つである』

と云つて法律と人心との關係に入り
「世界がドレ程物質的の拜金病に成つても可愛い我子を鐵道で轢き殺された場合に法律の制裁で假ひ百萬圓の賠償を取つたにもしろ、ソレで我子を慘らしく

奪ひ取られた心の苦痛が償はれる譯は無、況んや運轉手が芥子粒程の罰金を課せられる位の制裁に止まるをやである、ソレで歐洲に往々ある事件だが愛妻を誘惑して姦通した男に對して法律は被害者の満足する程の制裁を與へて呉れない」

と云ひ掛けてフと思ひ出した様に「ドウも僕に解らないのは日本に情死の熱情があり乍ら姦通が粗笨に取り扱はれて居る一件で其制裁が七兩二分と云ふのは幾ら物價の廉かつた時代でも餘ンまり安つばいぢや無いか」

と問ふから記者はソレは根性の腐つた女は女として存在を認めぬ、其形無しが代物を七兩二分の高直で引き取る馬鹿ものと相手の男を侮辱した諷刺であるが間男の普通の制裁は重ねて置いて四つにするに在ると説明するとV氏は

「開處だ、其四つにする點は歐洲現代の學者の思想と一致して居る、歐洲の姦通律は今云ふ通り手緩いから決闘を行ふに足る紳士の身分あるもの(の間)には決闘は許容すべき唯一の手段だと論じた學者が多い僕は敢て決闘禁止律を非認もせぬが兎に角決闘を絶対に非認するのは間違つて居る、但し是れは僕の決

闘觀に對する原則で、僕が幾百回も行つた決闘は幾百人も僕の妻を盗まれた譯では無く僕の國では運動として決闘を行つてゐるのだ」

と云つて其委細を説明し「此後若し君と僕の國で再會したら決闘に案内し様が、チャンと組合があつて組合員なら見物が出来、斯う云ふノン氣な決闘だから意趣なさは毛頭無い兩派の中から一人づゝ撰手を出して介添人を立て一定の劍法の下に斬り合ふのだが相手が傷けば飛んで行つて介抱する、今の醫術は假ひ腦の骨膜まで斬り込んでも決闘傷なら三日も休めば講堂へ出られる、斯う慰みに行る決闘でも斬るか斬られるかの境に立てば死生の岐に立つに近い鍊膽の修養が出来、譯で例へば君の馬が此崖から落ちたら大變だと思ふと神經作用で仆れるかも知れぬが度胸が据れば嶮しい崖も嶮しくなくなる、此度胸が萬事に活躍する動機で僕の國の元氣は此決闘で涵養されて居ると謂つても宜い、處が日本の學者諸君は」

と口を切つて日本學生觀に戻り「何れも藝妓式に指の細いのは劍も銃も持たない證據だ………學校には徴兵猶

豫の特典がある……ソレは日本に限らぬが僕は大本賛成だ、兵役を農工に限る結果は満洲の日本實業旗が戦後ドンな鮮明かと問ひたくなる、學者でも腕が太く何時でも戦へる様にするには學生を兵役に就かせるに在る、指の美は學者には要らぬ事だ僕が立法者なら但だ美術家丈け其指を保護して兵役を全免し顔の蒼白い天才らしい男性婦人を保存すること丈けに止めるんだ、僕は強ち決闘を日本學生に輸入し様とはせぬが、度胸の無い剩る虎のソッソの要る様な學者は日本の敵であることを警告する」

と云つたから虎のソッソとはと問ふと

「ソレは在留洋人の新流行語で箱根へでも行かねば暑くつて遣り切れないと云ふものがあれば虎のソッソは如何です」と洒落るんだがソレは韓國新帝に虎の肉と云ふ珍し話から出たのだ」

と云つたとき丁度來宮の楠樹の前に達した、V氏は此大楠樹を何と観る乎

馬來語原

V氏と記者は箱根を越えて足柄に分け入り來宮の大楠樹の下に達した此大楠樹

は神木と崇められて注連を張り玉垣を結ふて道行く人が不敬を加へぬ様に用意してあるV氏はソレを見て

「何れの國でも偉大な自然を鬼神として崇めるのは世界共通であるが日本の様に一本の大木、一塊の巨岩をも神として尊敬するのは却々に興味のある仕方である殊に年經た大木を神視して之を保護するのは老人を勞はれと云ふ好い教訓を含むで居る、コレから見ると物質的、實利的な米國で老衰の末に病に罹つたものは寧ろ一思ひに殺して仕舞つて苦痛を免かれさせる方が人道だと云ふ見地から醫者が毒殺をしても敢て咎めないのに對して反語的の説法を傳へて居る譯だ」

と云つて老木保護を美風としたが

「處で、此老木保護が日本精神界の美點を示して居ると共に又た日本人種の來歴をも併せて後世の我々に話して居るのは妙ぢや無いか、此巨木崇敬は全く南洋的で僕が日外嗤した日本人が蒙古と馬來の混血族だと云ふ説の一證であるが日本家屋の構造から其外總て開放的の特性から見ても日本人の多數少くとも其第一の優勢な上陸軍が南洋人種であることは明白で東京博覽會に出品

された日本建國の繪に南洋的の裸體人が出陣の準備をして居る着想に照すと日本人中にも僕と同意の暗想がある様だ』

と云つて語學上の意見に移り

「ソレに日本の高山の名を考へると日本の高山の多數は火山であつたかと思はれる様に煙りと云ふ意義のある馬來語の *Asap* を發つてゐる山の名が多い……綴字で讀むとアサプであるが發音はプが消えてアサツと云ふのである……見給へ、日本の活火山にアサマ(淺間)山があり九州の高い火山にもアサツから轉訛したと思はれるアソ(阿蘇)山があるぢや無いか、ソレからフジ山と云ふのは日本話でドウ云ふ意味であるか」

と問ふから記者は日本語でフジと云ふ語には格段に適切な意味はあるまい、國學者の間には色々の説もある様だが語學上の定論としては受取れぬだらう、但だアイヌ研究を行つた某洋人がフジは「火を噴く」と云ふアイヌ語だと云つた事はあると、答へるとV氏は

「アイヌ語説は研究すべき價もあらうが僕の馬來語原觀から云ふとフジは馬來語のプトちやあるまいか、プトは白いと云ふ意味だから富士山は白い山と云ふ

ことに成る日本には外に白い山は無いか』
と問ふた記者は加賀に白山があり飛騨にも白山があると云ふとV氏は大に得意氣であつたが更に

「日本人が此神木を祭る以上、富士山にも神事があるべき筈だがドウか」

と聞くから淺間神社があるセン、ゲンはアサマである」と答へるとV氏は

「ソレだ、富士は休火山だから昔はアサ即ち煙つたに違ひ無く、富士は畢竟アサマの神の坐す白い山に外ならぬが此邊の山は何と云ふか」

と問ふから足柄だと云ふとV氏は

「益々面白い、アシガラとは妙だ、アシは今云ふアサで、ガラは馬來語では荒れると云ふ意味だから、アシガラ山は取りも直さず煙りで荒れる山である、富士即ち白山が煙を噴いて居た大昔には丁度今の伊太利のエトナ山が荒れる様に我々が騎行して居る此場所も火や灰で煙るまでに荒らされたに相違無からう、是れから考へると彼の日光の山をフタア山と云ふと君に聞かたがフタ

アラはプトガラの轉訛で、白い山であつて荒れる事を云ひ表はしたものと思はれる、君試みにアサの煙を冠つて地名を考へて見給へ、屹度澤山あるに

「遠く無さ」
 と云ふから記者は一寸記憶して居る丈を考へると信州に浅葉温泉があり青森に
 浅草温泉があることを思ひ出してソレをV氏に咄すとV氏は愈々得意で
 「火山脈から起る温泉にアサ煙の名が多いのは妙ぢや無いか随つて箱根のアシ
 の湯も馬來語系統から出たかとも思はれる」
 と語つたとき僕等は熱海の町に入つたが氏は直ぐに湯本見物と出掛けられた氏は熱
 海の噴湯を何と観じる乎

半月旗

V氏は熱海の町へ入ると先づ以て熱海の神髓とも謂ふべき温泉の噴き出す湯元
 を見様と云ふので現場を見たがV氏は詰まらないと云ふ顔付で
 「噴湯で世界に有名なのはアイスランドの南部に在るのが第一番だ、是れは極
 寒の氷の國から出るんだから世界が喝采するのも無理は無い其次はイエロース
 トーンのナショナル、パークに在る、是れも公園の池の正中から噴き出す趣
 向だから誰れも珍とする譯だが此熱海のは噴湯の最も小型なものであると云

ふ外に取り立て論じる程の事は無いコレに比べるとワイカトリーの噴湯など
 は非常な壯觀で頗る雄大を極めたものだ
 と云つたいけで某ホテルへ投じたがベルツ博士が大に賞讃したと云ふ觸れ込み
 で其れは蒸風呂だが純然たる土耳其式だと書いてある廣告を讀むで其風呂場を
 見物したが、併し暑い時分、別て騎馬の山越を行つて一層暑くろしく感して居
 るから兩人とも蒸風呂入りは御免を蒙むつたがV氏は土耳其風呂から聯想して
 「土耳其と日本とは餘程能く似奇つて居る……と云ふと近東の病衰國と極東
 の第一等國とを一所にされて堪るものかど君は怒るかも知れぬが僕は何も日
 本を侮辱する積りで云ふんぢや無い、似て居る點から日本を東洋の英國又は
 佛國と云ひ此頃では獨逸も其勃興の似寄た點から日本を東洋の獨逸と云ひ始
 めた様だが孰も多少似て居る所があるから爾う云ふのであつて僕の日土の類
 似觀も此等と同じ意味であるから念の爲めに斷はつて置く……扱て土耳其
 と日本との似て居る所は英、佛、獨と日本との類似所の騒ぎでは無い是等の
 國と日本とが類似だと云ひ得るとすれば日土は全く同じだと謂つても差支の
 無い位に似て居る」

と口を切つて日土兩國觀に入り
 「差し富つては今見た土耳其風呂であるが土耳其風呂は日本風呂を少し西洋臭くした丈の咄で全く同種類である上に土耳其人の生活も言語も丸で日本と同様、先づ土耳其の言語は語原學で云ふツラル、アルタイ語であつて其文法も日本と同様なら、其言語の配列も同様で、剩りに目上と目下の區別に従つて言葉の違へる點、即ち敬禮語のあることも兩國は全く同様であり、又た文學の成行を見ると土耳其が波斯に揉まれ歐洲に接觸した末、スライマン一世の時代に成つて全く昔の面目を一變し、土耳其の特色を備へた美文の大發展を遂げた事なども日本の文明が支那、印度の文明の琢磨を経て平安朝の時代に大發展を來したのと同様である」
 と云つて尙ほ日土の類似を挙げ
 「ソレから廣い意味で云ふ文藝の點から見ると土耳其の演藝の中で最も歐洲を驚かして居るのは人形芝居で、非情な人形に活てる人の様な表情をさせ人を感動させる、と云ふ所から土耳其の人形芝居は演藝界の第一だと評判されて居るが日本の人形芝居も演藝界の大勢力で、活きた平凡俳優よりも人形芝居の方が澤山な客を喚ぶさうぢや無いか、又文藝から飛び離れて頗る下等には成るものゝ兎に角、藝に相違の無い土耳其踊りは歐洲の都會を横行して婦人客には持て無いが随分然るべき大紳士も微行の體裁で見物する、其踊りが西洋に大持ての程度は尙も日本に來た洋人が日外も咄した通り日本の雨の踊り(雨シヨポ)に涎を流さぬものが無いのと同様である上に大勢の踊り子がシテ、ワキの區別無しに兵式體操然として揃つて同じ手振で踊る工合も土耳其踊りは日本の踊りと同様である」
 と云ひつゝ一息ついて更に歩を進め
 「又た土耳其人の生活から云つても日本と同様に座るときには疊があり、寒くなれば日本と同様に火鉢を用ひ歐洲人は勿論、支那人よりも日本人に近い、ソレから組織的能力と進取主義とが違つても居るから、將來は今日の相違位で無く、日本はズン／＼進むで行つて土耳其との距離は天地の相違にも成るであらうが實業の工合を見ると土耳其は農業國で盛んに農産物を作り其喰ひ残しを輸出して居るが貿易の商賣は全く他國人の事業で土耳其人は商權を持つて居無い、其様子は開國初年の日本と同様で、今日の日本も對外商業としては

と口を切つて日土兩國觀に入り
 「差し富つては今見た土耳其風呂であるが土耳其風呂は日本風呂を少し西洋臭くした丈の咄で全く同種類である上に土耳其人の生活も言語も丸で日本と同様、先づ土耳其の言語は語原學で云ふツラル、アルタイ語であつて其文法も日本と同様なら、其言語の配列も同様で、剩りに目上と目下の區別に従つて言葉の違へる點、即ち敬禮語のあることも兩國は全く同様であり、又た文學の成行を見ると土耳其が波斯に揉まれ歐洲に接觸した末、スライマン一世の時代に成つて全く昔の面目を一變し、土耳其の特色を備へた美文の大發展を遂げた事なども日本の文明が支那、印度の文明の琢磨を経て平安朝の時代に大發展を來したのと同様である」
 と云つて尙ほ日土の類似を挙げ
 「ソレから廣い意味で云ふ文藝の點から見ると土耳其の演藝の中で最も歐洲を驚かして居るのは人形芝居で、非情な人形に活てる人の様な表情をさせ人を感動させる、と云ふ所から土耳其の人形芝居は演藝界の第一だと評判されて居るが日本の人形芝居も演藝界の大勢力で、活きた平凡俳優よりも人形芝居の方が澤山な客を喚ぶさうぢや無いか、又文藝から飛び離れて頗る下等には成るものゝ兎に角、藝に相違の無い土耳其踊りは歐洲の都會を横行して婦人客には持て無いが随分然るべき大紳士も微行の體裁で見物する、其踊りが西洋に大持ての程度は尙も日本に來た洋人が日外も咄した通り日本の雨の踊り(雨シヨポ)に涎を流さぬものが無いのと同様である上に大勢の踊り子がシテ、ワキの區別無しに兵式體操然として揃つて同じ手振で踊る工合も土耳其踊りは日本の踊りと同様である」
 と云ひつゝ一息ついて更に歩を進め
 「又た土耳其人の生活から云つても日本と同様に座るときには疊があり、寒くなれば日本と同様に火鉢を用ひ歐洲人は勿論、支那人よりも日本人に近い、ソレから組織的能力と進取主義とが違つても居るから、將來は今日の相違位で無く、日本はズン／＼進むで行つて土耳其との距離は天地の相違にも成るであらうが實業の工合を見ると土耳其は農業國で盛んに農産物を作り其喰ひ残しを輸出して居るが貿易の商賣は全く他國人の事業で土耳其人は商權を持つて居無い、其様子は開國初年の日本と同様で、今日の日本も對外商業としては

逆輸入

最つと發展せねば土耳其に似て居ると云はれても仕方が無からう、日土の類似はコレだけか云へば決して左様で無らうと説いて更に日土觀を吐かうとしたV氏果してドンな説がある乎

V氏は熱海の土耳其風呂から喚び起した日本と土耳其の類似論を續げ、「土耳其の言語風俗が日本に似て居る計りで無く土耳其人の尙武的な勇猛も矢張り日本人と同様で其始めは西伯利亞の山陰に蟠まつて居て種々種族の蠻夫であつたのが土耳其族特有の尙武的英氣は年と共に發展して亞細亞北部の蠻族を征服しバイカル湖畔から支那の滿洲に蔓こつて更に中央亞細亞から歐洲へ突進し絶えず征伐を續けて居たが元朝時代の帖木兒には散々に打ち破られ、たに拘らず僅の年月の間に忽ち其の勢力を盛り返して世界の中原羅馬帝國のコンスタンチノープルを奪ひ歐亞の兩洲のみか亞弗利加にも手を延ばして埃及からアルゼリヤ、チュニス、トリポリ迄も新月の國旗の下に收めると云ふ大帝國を建設した遠征的英雄心は日本が島國であり乍ら朝鮮を攻め蒙古を撃退し更に支那を呑まうとした英雄心と能く似て居る日本が若しも大陸に國を建てたか又は大明征伐を企てた秀吉が最つと長生きして居たならば今日の朝鮮半島問題は通り越して明治卅七八年の役はバルカン半島問題で戦ふ様に成つたかも知れない譯で其武力と發展の野心とは日土全く同様である」と云つて更に歩を進め

「ソレだから土耳其戦士の流血の事蹟は數へ切れぬ程で土耳其は勿論、世界の戦史を飾るべき價がある、處で一八七七年の露國との戦争は其結局に於てこそサン、ステフワノ條約を生むに至つたが此ドン詰に至る迄の間には大に露軍を惱まして旅順戦争と同様の悪戦を續けた事は世界に著名な事實だが、其後の土耳其は疲弊に疲弊を重ねたもの、昔の面影は今も残つて居て、先年クリト島問題で希臘が戦ひを挑むた時などは丸で勝負に成らない程の敗北を取つた、彼の時に若し歐洲の監視が無かつたならば土耳其は再び希臘を其領地に加へたかも知れぬ位土耳其の士氣は頗る日本的である」と云つて論法を一轉し

「ソレだから僕は熱海の蒸風呂を土耳其式だと廣告するのを見ると吹き出さう

るを得ぬ、何故なれば外國でころ土耳其浴とかイリツニ、羅馬式浴だとか吹聴するもの、日本から見ると丁度日本の生糸が里昂で織られて日本へ逆輸入する様な理屈で、日本は日本を摸る土耳其へ大昔に輸入した風呂を舶來流行の日だから、土耳其式で候ふなと、事新らしく吹聴する様に見ゆるぢや無いか、又た土耳其風呂の付きものとして、スカンデナビヤや土耳其本國では魔性の美人が按摩をして呉れることは日外も話した通りで、此魔的美風は米國でも珍重されて居る程の勢ひだが、日本には昔からチャンと湯女があつたぢや無いか」

と断定した後、一歩を進めて

「全體、日本人が世界の精神界に侵入した潜勢力は土耳其風呂と湯女と云ふ様な好事家が注意すべきもの計りで無く、最つと活きた大問題がある、日本は北亞細亞の突厥族の土耳其人と右の通り似て居る他の半面には南洋の馬來族の言葉までも今に傳へて山の名にして居ることは前にも云ふ通りで、日本人は支那人の畏れる北方の強者の子孫であると同時に西洋人が煙たがる南洋族の復讐心をも備へて居て、悪く云へば南蠻的である筈の復讐心が南洋から日本へ入ると最も善く鍛錬されて蠻習が忽ち善化し美化した結果が四十七義士を生み

其れが又た生きた教訓と爲つて日本武士道の信條の一つと爲り西洋人もソレを讚美する様に爲つて居る始末で日本人自らも又た其相手も知らぬ間に何時とは無しに土耳其風呂然と飛びでも無い方角へ日本主義が侵入して居る今其手近い實例を挙げ様か」

と説き起した、V氏は何を語る乎

熱海

V氏は日本人が世界の各方面に日本趣味を注入して居る證據として「見給へ、露國皇帝陛下は日本の旅順攻撃に對して何と云はれたか、百倍の復讐を加へずんば止まざるべしと震怒して世界を驚かされたぢや無いか、日本人が南洋から持つて來た復讐の種子を日本で培養して美化し美化した其精神は遠く露國の皇室にまでも侵入して平生復讐の蠻的だと攻撃して居ながら腹の虫の居所が違つた場合には何時とはなしに頭の中に宿つて居る日本の四十七義士主義がエライ勢ひで飛び出すことに成るんだ、併し露國人は西洋の東洋人だから日本趣味が入り易いと云ふかも知れぬが日本趣味は純西洋の、剩も黄

禍論の本元の獨逸皇帝陛下にも感染して居る事實がある』
と云ふから其次第を問ふとV氏は

「團匪事件の爲めに駐清獨逸公使が惨害された時にカイゼル陛下は非常の逆鱗で、團匪掃蕩の第一先鋒として海兵を東洋に派遣さるゝ場合に嗚呼、獨逸の國旗は侮辱せられたり汝等は此無禮に對してハンネン以來の復仇使命を果さるべからずと悲壯淋漓として送別演説を試みられたぢや無いか、コレも非常の事變に際した爲め露帝と同様に四十七義士主義が勃然と飛び出した結果に外ならぬ譯で日本人の世界に侵入する力の盛んな證據である』
と談じて論法を一轉し

「斯う考へると日本人が不言の裡に世界を感化する力は恐ろしいものであるから北清事變の際には日本カブレの復仇演説を試みられた獨逸皇帝陛下も平調に復すると日本の感化力がエライことを悟られると共に日本の此侵入は今に始まつたことでは無く精神的には中古の久しい前からして既に土耳其を征服して居ることを悟られるだらう、斯う悟つて見ると突厥族の土耳其人が日本に化せられて居た計りで無く匈奴族の匈牙利人も怪しいもので、日本の昔

の結婚で無く寧ろ智入の姿であつたと同様に匈奴の祖先も緑女の家へ智入するどきの祝典は智の家での祝典よりも鄭重であつて蠻族の最大財産とも謂ふべき馬ですら智の撰り取り見取りで智に遣つた習慣などに比べると日匈亦頗る類似して居ると謂はねばならぬ』
と云つて又談鋒を進め

「左様して見ると全匈奴族の大王として神の鞭を崇められ羅馬人を追ひ捲くつて歐洲中原のライン河畔から支那の境へ掛けての大帝國を支配したアツチラさへも萬一したら幾らか日本人の血を含むで居はしなかつたらうか、アツチラの容貌は丈は低いが頑丈で、頭が大きく、鼻は低いが小鼻は廣く、眼は小さいが光つて居たと傳へられる所を見るとドウも日本的である斯う疑がつて見るとダニユー河畔の暗の夜に靈が現はれるかど見ぬる燐火の光る時に南洋的の復讐心に富むで居る極東人の枯骨が何かの暗示を今の匈牙利人に傳へはせぬかと聰明な獨逸陛下は杞憂されるかも知れぬ』
と論じて歴史の追懐談に耽つたが更に日本人の南洋種族觀に戻つて
「僕は昔のサムライの畫を歐洲で見て驚いた事がある、ソレは多勢のサムライ

が君侯の御供をする時に日本の廣いズボンに腰の近くまで捲くり上げて居る一條で、コレ程寒い日本に不似合な仕方だと思つたが、日本の實地を見物すると日本人は南骨北肉の混成人種であること、確めた。其に此サムライの習慣も祖先が南洋から来た、昔の風儀を守つて居る現象である事を今では合點した、コレから思ひ合せるに日本の婦人が齒を黒く染めるには………ナニ昔の日本の貴紳は男性でも齒を染めた………ソレは益々面白い、今の南洋人はペーテルで口を眞赤にして居るが日本人の習慣は丁度コレと一致して居る北には何牙利人を動かして白鵞の形ちで黄禍を生みはせぬかと某帝を相愛させる日本人は南には馬來族から自家の主長だとして擔がれる因縁があるから米國は非島を蘭國は瓜哇を心配して居るのかも知れぬ』

と笑つた、冷たいルユデスハイメルで暑熱も忘れ身も軽くなつた記者とV氏は直ぐに小田原へ向はふと相談一決し人車鐵道に乗る手配をホテルに託するとV氏は人車鐵道と聞いて目を丸くした、氏はソレを何と觀る乎

人車鐵道

人車鐵道と聞いて驚いたV氏は「西伯利亞で使ふ雪中の帆かけ橋、樺太で夏に用ゐた犬の曳き舟は露領の名物で且つ珍物だが鐵道の動力を人の足で行らせる」と云ふ發譯は如何に專制君主と歌はれたザイでも思ひ付かれぬ大膽な行き方だ」

と云つたが人車鐵道は熱海から小田原へ向ふべき唯一の交通機關だから何とV氏が評さうとも仕方無い、記者はV氏を導きつゝ停車場へ出掛けた、人鐵の一等車は四人乗りで四人の車夫が機關車の代用をするのであるV氏はソレを見て

「僕が云ふ通り日本人の先祖が如何に南洋から来たにもせよ、人間の勞働を法外に濫用する事はまるで現今の馬來半島其儘であることは實に恐れ入る、今年ハストットガルトの社會民主黨の列國大會には日本からも代表者が出張したさうだが、人夫の賃銀が一日六十錢で四人の人夫が軌道を疾走する世界無類の人車鐵道と云ふ新發明が日本の熱海小田原間に………何と、執海小田原間計りぢや無く宇都宮の近所にも其外にもあると云ふのか、ソレでは尙更の事だ………此新發明がリーベスハルレで報告されたなら本年の同會に提出され

る議題の中の工場と社會主義と云ふ一案には日本の代表者だけは討論に干渉する権利を失ふことに成らうも知れない」
と云ふから記者は人鐵の動力變更問題が人道とか労働とか云ふ方面より寧ろ熱海の交通を便利にするに云ふ方面からして起つて居る近い未來には石油發動の機關車に改良されることになるだらうと説明し尙ほ人車改良に就て熱海で聞いた事などを受け賣して委細を咄した、V氏はソレを聞いて

「動力の改良は少くとも人類労働の向上として賀すべきことである、併し君の咄に依ると雨季には崖が落ちて危嶮だと云ふ此鐵道に機關車を拵らへ車臺も大きくして人も澤山載せると云ふのは雨の多い日本では交通の改良では無く寧ろ交通の危嶮を増すと云ふ意味に成りませぬか、現に先刻も君が注意して呉れた通り此車臺の中には片より座す可らず一ツ人車の悪口を云ふものありとも信すべからずと書てあるさうだが僕は片よるべからず候の注意がある爲め却つて悪口を信すべからずの説論に對し多少心細く感じる、ソレが動力改良の爲め最つと疾く走る様に成つたら乗客の神経は益々過敏に成りはしまいか……尤も昔の東海道旅行には雨の爲めに屢々川止めと云ふ事が行はれ

たさうだから人車改良の石油鐵道が現今の相撲興行の様に雨天順延を行つたら乗客も無事で、熱海と小田原のホテルも萬歳だ」
例の如く皮肉るから記者は其氣焰で人鐵が恐いのですか、何時の間に熱海で虎のソツプを召し上がったたのですかと雜せつ返した、V氏は高く笑つて思はず
「オツと片よるべからず」
と叫びつゝ忽ち話の向きを易へ

「全體何事でも無暗にべからず」を要する間は官僚政治の巾を利かす時代だと思はねば成らぬ、現代の日本は白人種以外の唯一無二の立憲國であるに拘らず「べからず」の流行が餘りに盛んで無いか、馬太傳五章の説法は基督の口から出たには相違無いがアレは基督が叫んだのでは無く彼の時代の風儀が基督を促して彼の様に叫ばせたのであるまいか「一里の公役を強ひなばこれと共に二里行け」と叫むときは詰り其時代に一里行けと云はれても半里以上は動かぬ人民のあつた反映であらう、左様して見ると電車の中で喫煙すべからずと布達する世の中には呼吸器病患者の目前でマニラを吹かす御醫者様があると云ふ

時代ではあるまいか』
と云つて「べからず」談を続け

「左ればべからず」の多いのはべからざることをよくするもの、多い證據であるが其べからず「違犯熱は決してべからず」計りで退治することの出来るものでは無い、處が「べからず」を連發して得意がつて居るのは官僚政治の政權萬能の迷信であつて寝めた話で無いのみならず「べからず」の連發は却つて「べからず」を挑發することに成る様な思存である』
と語つたがV氏は尙べからず「攻撃を止めない、氏は更に何を話す乎

すべからず

V氏は人鐵で小田原街道を驅りつゝ「べからず」攻撃を續けて「べからず」が「べからず」を挑發する證據を擧げ

「人間には本能的に好奇慾がある、悪魔の耳語には天の使でも耳を引つ立て、聞きたがる程の始末だから、況して俗界の俗物は「べからず」を命令されると行つたらドンなものだらうと云ふ好奇心を起すのは止むを得ぬ事で、此好奇慾

は人間の天性だと云つても宜く、獨り歩きの出来ぬ子供に危いから廢せと云ふと子供は却つて歩きたがる、轉ぶ、泣くと云ふのが世界の子供に通有する癖であるが此子供が大人に成ると今度は子供を叱つて居ながら「べからず」破りの慾望は矢張り子供と同じ事で、最初の「べからず」破りに失敗しても懲りる所か、失敗の經驗を利用して二度目には旨く「べからず」破りを行つて見様と工風する有様だから「べからず」は命令する人の思ふ程に効能のあるものぢや無い』
と云つて盛に一步を進め

「全體」べからずの違警罪律が多い國は小さな警察國を意味する、夜間放歌すべからずと警めるのは畢竟政府自身が其國民の公共道德の缺乏して居ることを布告の形で大袈裟に白状する譯で政府の面目でも無い、と云ふと政府は躍起に成つて何でも非公徳の所行を退治し様として例の「べからず」を連發することに熱心するかも知れぬが其れは大きな間違ひである』

と云ふから記者は其理由を問ふと
「公德破りを咎めるよりも公德を養成するのが公德破り根治の良法ではないか其公德の養成は警察や内務省の「べからず」で出来ると思ふのが權力萬能の官僚

政治主義と云ふもので、公德の養成は警察や内務の管轄では無く教育當局者の責任範囲だ、併しコレは「ベからず」の頭ごなし次第では出来無い仕事だから教育者の子弟と雖も教に逆いて公德を汚す様な事が萬一には無いとも云へぬ、其場合には當局者が日本特有のハリキリを行つて公共に謝罪すべき道理で警察や内務省は文部省を多忙にすることに努めるが宜い、左様すれば無名の赤十字が熱海の村には其他の町村にも起つてソレこそ世界を感服させる事に成る譯だ」

と罵つたが熱海は村でなく町だと記者が注意するとV氏は「日本位、虚名を好む國は無い三四千の家がある直ぐに村では無い町だと云ふので町長を製造して人民の負擔を増す事に努めるが乞食の無い村は餓死者を出す市よりも光榮であることを忘れるのは如何にも残念だフリードリヒの字義は平和に富む」と云ふ意味だがフリードリヒと名乗る人が在外戦好の人である通りに名計り奪ふ日本が明治四十五年には内閣博覽會の名義で其實萬國博覽會を開かうと云ふ計畫は日本の奥床しさが現はれて感服するが此主義が萬事に行き渡らない計りか最つと大きな方面でも缺けて居る」

と云ふから其次第を尋ねると

「大きな方面とは立憲政體の名と其實とが相應して居るかど云ふ間違である、僕は日本天皇陛下が此忠君の思想に凝り固まつて居る日本臣民に對して陛下御自身から參政權を臣民に與へ給ふた御徳等は世界史の唯一な御偉績であると深く讃歎して居るが、日本の議會を見ると當局者の命令に盲従する機關だと云つても宜い譯で、日本國民は露國のツアル政治を批評する權利があらうか又憲法制定の聖旨を奉戴する道を盡して居たらうか僕は疑はしく思ふ、有名な日本の紙製林檎は外觀が如何に真に迫つて居てもソレを喰ふものはあるまじ、三鞭政略と肩書のエライ財務官の外國駐在丈で低利の外資は喚ばれぬとすれば熱海は村で宜いぢや無いか、善い村で其儘に置け、悪い町よりれ宜いぢや無いか」

回遊列車とヨツト

熱海、小田原間の人車鐵道は次から次へと沿岸の美景を示して遊覽には最も妙

である、V氏は此絶景を賞玩した後の
「君は此鐵道の利益配當が五朱だと言つたが、此利子の高い日本で、コレ程絶景の場所を通りながら、又たコレ程人手を掛けながら只つた五朱位の配當で満足して居るのは鐵道會社が如何にも無慾であるのをエライと思ふ、併し僕が旅行者として觀察すると此狭い往來を車行者に占領させて徒歩するものに不便を感じさせるのは寧ろ歎息すべき事だと思ふ、思ひ切つて最つと道路を擴げ自動車でも宜し或は電車でも拵へて米國式の遊覽列車にした方が宜いでは無いか」

と云ひつゝ日本の遊覽列車觀に入り
「とは云ふものゝ日本の所謂遊覽列車では困る、アレは矢張り日本の缺點たる名がエラくつて實が伴はない短所を備へて居て僕が評すると日本のは遊覽列車では無く遊覽行き列車と名づける方が相當だ……ナニ、日本では回遊列車と云つて居るとカソレでも矢張り名實は相違して居る、遊覽でも回遊でも遊びつゝ樂みつゝ列車で往返する筈であるのに日本には遊ぶ地點が定まつて居て、途中は純粹の旅行と少しも變らないから、日光回遊列車も只の日光行

き列車で別に違つた特色は少しも無いでは無いか」
と云ふから遊覽車の本筋を尋ねると

「遊覽列車は其設備が遊覽的であることを要するのは無論で、其運轉も亦た遊覽的で無ければならぬ、例へば沿道の中で遊覽すべき景色の好い場所へ掛つたならば日本特有の龜の子列車の本領を現はして悠々と徐行する、徐行するど風當てが鈍くなつて車内が暑く成る、ボーイが電鈴を押す、旋風器が急轉して涼しい風を車内に送る、ボーイは食堂へ駆けつける、直ぐに客車へ清涼の得られる飲料を運びつゝ引つ返して來る、徐行が済むで無趣味の場所へ掛れば流車は猛然として流車らしく疾走すると云ふので始めて遊覽列車に成るんだ、處が、流車には旋風器も食堂も無く、最も龜の子列車の本領を現はす場合は山を切り開いた上り勾配の場所に掛つた時で道の兩側は見た計りでも汗の出る赭色の土堤に瀬切れ景色も見えねば風も來ず、來ずとも宜い煙計りがドシ／＼客車に亂入する地點であつて、終景の場所は之と反對に一瞬間の間に駆け抜けるなどは決して遊覽列車では無さ」
と罵倒して熱海鐵道談に戻り

「併し日本第一の鐵道大王作業局の官鐵でさへ遊覽列車以上の働きが出来ぬとすれば僕の云ふ様な設備のある遊覽列車を此五米配當の小鐵道會社に注文するのは無理でもあらうし鐵道廳から生意氣だと叱られる恐れもあらうから其設備が出来ぬとすれば此狭い街道の鐵路は斷念して、徒歩する人の邪魔に成る交通機關を廢して仕舞ひ其代りに海から此沿岸と對岸との絶景を十分に觀賞すると云ふ趣向を取つてペンシオン發動式の小舟か何かを運轉させることにした方が遊覽と交通と双方の便利に成るであらう」

と説いた、記者は遊船とは船量なりと排斥される虞があると云ふとV氏は「大提督東郷を生むた日本、殊に前後二期の海戦を通算すると二倍に當る敵艦を殲滅して剩りに捕獲船の爲めに戦争前に比らべて五割以上も海軍力を増した勇敢材能兼備の海兵の居る日本は海軍國として畏るべき大勢力だから流石に豪膽なカイゼル陛下も世界問題は最早歐洲だけでは解決が出来ぬとキール週間に嘆息されたちや無いか、ソレのみかパーソンズ式三軸装置のストームタービンと云ふ新式を應用して一萬三千五百噸の大船に十九海里の大速力を出す計畫の天洋丸の模型が博覽會に出品されたのは列國に非常な注意を與へ

英 獨 露

て斯様な大船がタービン式で果して計畫通り奏功するかと云ふ問題は世界の海事協會を開がして居る此日本の大海國民が熱海の遊覽舟に群集するとはドウ云ふ譯か」

と云つて記者の説明を求めた、V氏は何事を説くであらう乎

窮屈千萬な道路に不完全な鐵道を敷くのや止め、互相沿岸の遊覽船を起せと論じたV氏は日本人の船に弱いのを怪むで
「日本は東洋の英國だと英人も日本人も稱へて居るし四通八達の島國でもあるから僕も實際其通りだと思つて居たが君の話を知ると日本人の大多數は大陸國民の様に船を忌やがると思は不思議だ併し君、英國の偉大なのは英國の本國では無い世界に跨がつた政治上の領地と經濟上の領地とを有つて居る點に在るんだ、處が此偉大な領地は船で無ければ維持することが出来ぬのは無論である」
と云つて英國の發達談に入り

「若し英國から領地と商權を除けたら絶海の孤島に過ぎない、其憐れな孤島がドゥして今日の様に大きくなつたかど云へば英人は低地日耳曼族と呼ばれる通りに其先祖がして海を征服したかど云へば英人は低地日耳曼族と呼ばれる通りに其先祖が獨逸の海邊に棲んで居て始終北海の暴風怒濤と戦ひ慣れた爲めに海を陸地と同様に心得て居た素養があつたからで、或る人は英國を評して海賊の發達したものだど云つたが海賊とは少し酷いかも知れぬけれども兎も角も多少の眞理はある、斯う云ふ理屈で低地日耳曼族が英國に上陸して先祖の行つた海荒らしを世界的に續けた爲め今日の大成功を見たのだ」

と云ひつゝ海權觀を續け
 「若し低地日耳曼族の英國が海賊の發達したものだとするれば其兄弟分で日耳曼の山の中に棲んで居た所謂高地日耳曼族は今日の獨逸帝國を築き上げたのであるから獨逸は山賊の發達したものだど云つても宜からう、併し今日は山賊も英國流に海を支配せねばドンな大國も窒息する時代に爲つて來たから山賊の獨逸が海に荒れ出した近年の勢ひはエライもので米國通ひの大船中でも速力が一番強く客室も非常に奇麗だと評判の宜い船は獨逸の國旗を樹て居

る、モルガンが大西洋航路の大トラストを企てた時は英國でさへトラストに加はつたが獨逸のハムブルグ、アメリカ線會社はコレに加はらなかつた位で商船が此通りに發達するに連れて海軍もエライ勢ひで擴張され海の獨逸は陸の獨逸と同様に優勢に爲らうとして居るから英國が躍起と爲つて之に對抗して居る始末だ」

と云つて更に一步を進め

「海の獨逸の進歩は今云ふ通りだからカイゼルは先年ツアルに對して大西洋の提督茲に太平洋提督の健康を祝す」と云ふ信號をカイゼルの御召艦に掲げてツアルの御乗艦に告別され世界を驚かした獨逸は何處迄も海上の大聯邦を主宰し様と云ふ考へを止めない、處で太平洋の提督とカイゼルに祝されたツアルも當時は無論太平洋を支配する積りで居られたに相違無く陸に發達した露國は海にも發達せねば成らぬと云ふので旅順も大連灣も入用に爲り對馬海峡も臺灣海峡も或は此日本に對しても海權の足場として最も必要を感じて居られた事と思はれる併し此大望は消えて仕舞つたがドゥして露帝は失敗されたのである乎」

と問を起した、V氏は「露帝の失敗は無論日本の強かつた爲めではあるが、露國人が海に不慣れな事も考へねば成らぬ、日露戦争の直ぐ前に露國の武官は海軍は無用だ、歐露から浦鹽へ着いた移民が船から棧橋へ上がつても足下に波か來るので戦慄へて居たのを見たが棧橋に畏れる露國人から成立つ水兵と四面皆海で、生れ落ちると海に遊ぶで日本は怪物カツバ(河童)と同様な日本水兵と海戦は出来ぬから軍艦を叩き賣つて野戦砲と海岸砲とをウンと拵へると叫むだ事があるが是れは露國海權喪失史の全體を言ひ盡した真理である、處がカツバ八種の日本人が遊覧船に畏れて熱海行に駕籠を望むと云ふのは意外千萬だ」

粗食の鼓吹

V氏は尙も日本人の船嫌ひを攻撃して「日本人がカイゼルの呼ばれた太平洋の提督露帝の海權を壓倒したと云ふので安心してはならぬ、太平洋提督の候補者は獨り露帝計りでなく提督候補の第

二世としては米國にローズヴェルト氏がある氏は海軍擴張策と巴奈馬逆河の開通とで太平洋は米國のものだと云ふ大抱負を持つて居るから日本人の海權は決して確定したものは云へないぢや無いか、カイゼルは獨乙の將來は海上に在りと云はれたが日本人の生命が海上に在ることばカイゼルよりも最つと痛切な問題だソレを覺つたならば日本人は全國の婦人から子供までが河童に成らねばならぬ」

と云つて一轉語を下し「併し日本の有力者は前にも云つた通り世界を驚かさ程の新式大汽船を計畫する迄に海の價値を知つて居るが國民は此有力者のみ依頼する様ではマカロフが居るから安心だといふので國民全體が棧橋に上がつても戦へる程に海に遠ざかつた露國と同じ道を行くものぢや無いか、國は大海國だが個人は申し譯に少々の巾着錢を義勇艦隊費に寄附するのが關の山で隅田川のボートレースと品川の網打船とが元氣な學生の最大爽快の遊びだと云ふのは決して日本の爲めに喜ばしい現象では無い、日本の青年紳士と貴婦人は何故快走船を操つて東京から熱海へ小舟旅行をせぬのだらうか、コレも矢つ張り日傘とコス

とで容貌を飾らねば紳士貴婦人の體面を害すると云ふ趣意から潮風を畏れる結果だらう」

と結論した時、人車の鐵路修繕の爲め一國の人夫が働らいて居る傍に口に黝けた婦人が人夫の給養班と云ふ役目で食物を煮て居た、見ると釜の中には米四分、麥六分位の飯が煮えて居た、V氏は

「生活の程度が高まるのは文明の結果に相違無いが鹽とパンでも頬の色は赤し」と云ふ格言の通りに、ドンな粗食でもソレを攝る當人達が美味いと感じて居るならば其の人々に取つては相當の美食でもあり、相當の滋養に成つても居る譯で、現は此の人夫等は皆な彼の婦人の煮て居る食物を喰べて居るに相違無いが彼れ等の容貌、風采は勿論立派で無いにもせよ、又た其の身丈が西洋人に比べて低いにもせよ彼等の肉の發達して居る様子と云ひ彼等の筋が張り切つて居る工合と云ひ世界の孰の國民に比べて見ても決して耻かしく無く又立派に生存競争に堪へる丈の體力を備へて居て此の食物が彼の體力を發達させて居るかと思へば寧ろ不思議だと思ふ程の感じが起るぢや無いか」と云つて談鋒を易へ

「處が、滋養分がドウだとか云ふ理屈一方で上等な美食計りしても食ふ人の體が上等で無ければ美食は胃病の母なり」と云ふ新格言が出来て盛んに胃病藥の廣告が出る新聞が万歳であると同時に君も其萬歳の割り前を取る譯だから君は美食に苦情も云はぬだらうが日本國は迷惑だ」と云ひつゝ一步を進めて

「日本の學生が南洋薯(甘薯)を學生の最も美味な菓子として衛生論などには頓着せずミルの自由の理を研究して居た頃には日本の進運に貢献した偉い學者も出来たがピーヤ、ホールに學生客が増加した今日は學問の研究には字書も師匠も圖書館も昔に幾十倍の便利があり乍ら君の咄に依ると羅馬史さへも知らないで前後不揃ひな翻譯書を著述して得意がつてる學者が多いとすればピーヤ、ホールの洋食は南洋薯に劣ること明白だから僕は日本人の粗食を鼓吹したくなる」

と云つたとき人車は、片よるべからずの危機に迫り下り阪を疾風の如くに駆けたときは聊か痛快にも感じたが忽ち前車の三等車へ衝突した、幸に損害は無かつたが車夫の一人は困つたなアと叫びだ、V氏はコ、マ、ツ、タ、ナと口眞似を行つた

が氏はコマツタナ観を尙と説く平

困 っ た 日 本

V氏は人車鐵道の車夫の假辭を使つて困つたなアと叫びだが
「ソラ初まつた困つた」仕方が無いとは日本人の特性を代表する言葉として
世界に有名であるが仕方が無いは露國に「ニエウオ」云ふ兄弟分のあると
は日外も咄した通りだ、處が困つたに至つては不思議な事には馬來語にころ
翻譯は出来るが其他の外國語には譯され無いから僕の友人で英語教師をして
居るE氏は生徒から困つた云ふ事を英語で何と云ふかと質問されて毎も其
答に困つて仕舞ふと咄して居る」

前置きして困つた談を進め
「日本人程困る國民は無い、例へば友人が病氣で困ると云ふのなら不思議は無
く、自分が友人の苦痛を我身に引受けて自分も其惱みを威けると云ふ譯だか
ら丁度英語のソラソラにも獨逸語のライドにも當るが私は風邪で困ります」
云ふのはドウも我々洋人には合點の行かない會話の仕方だ自分が病氣であつ

たら何も強ひて他人の同情を乞ひたい様な困りますを連發する必要は無いぢ
や無いか」

と云ひつゝ困つた觀を續け

「自分の病氣で困るのも宜いとした所で雨が降つて困ります」犬が吠いて困りま
すを振廻すのは此の雄心の勃々として居る日本人に不似合な現象だが南洋人
は慷慨悲壯であると共に非常に神経質で、自分が壁に描いた鬼の繪にすら慄
へる様な流儀だから針の穴程の小さな事件にも悲觀する傾向がある、ソレで
此新興國の日本人も頭の何處かにマダ昔の南洋癖を遺傳して居る爲め無暗と

「困るのではあるまいか」
と困るの原因談から歩を進めて

「處で、蘭國の南洋殖民地は久しい歴史があつても今に不安を免かれぬので蘭
國政府は土人に蘭語を教へることを禁じて蘭人を特別上等な言語のある神
か超人間かと思はせる迄の壓迫政策を取つて居るが瓜哇、スマトラなどの土
人は人種が全く絶滅する迄蘭人と戦ふ氣概を失はぬから土人を征伐する方で
心を寒うして居る始末である之に反して日本の臺灣統治は世界の殖民史に異

彩を放つて居る成功であるがコレは畢竟、日本人が南洋人よりもヨリ熱い南洋の血を持つて居る壓力の爲めであらうと思はれる」

と云つて獨逸との比較談に入り
「日本の臺灣征伐と反對に獨逸は南亞弗利加の殖民地に手を焼いて、ソレこそ本當に困つて居る爲め殖民長官テルンブルヒ氏が自身に南亞旅行を行ふ程であるのは獨逸がルーメル式、遠光式の無線電信で日本人と發明争ひをすると同様に神経過敏の一證だが日本人の臺灣征伐血祭り政策を實見したらジングルや、ペーベルも殖民問題で議會解散の動議を作ることには出来ぬだらう、日本人は此の通り一面には仕方が無い「ニチエウオー」流を行らかす程に大膽不敵で且つ樂天主義でありながら他の一面には詰らない小事伴に困つたを叫ぶのは大陸的樂觀と南洋の島嶼的悲觀の混成して居る證據である、共に大局を達觀せずには外國の世辭と小同情を目前に行つて借換公債の利が高いのに「困る」などはマダ日本人が南洋病の困つた患者である證據だ」
と論じて談鋒を一轉し
「次に日本特有で外國語に譯せないのは秘密病の病源とも謂ふべき都合と云ふ

言葉だ都合に依り轉居都合に依り不參と都合の一語で萬事を咄すのだが君試みに此都合を外國語で云ひ現はして見給へドゥにも持つて行き様が無いぢや無いか、外國人に取つては日本語の都合程不都合千萬な言葉は無い、勿論、一國には一國限りの言葉が有り得られる譯だから外國語に譯せないからと云つてソレに苦情を云ふ理屈も無いが、此都合は相手方に對して極めて不都合に適用される不都合な言葉だ」
と口を切つて今度は都合談に移つた、V氏は都合を何と觀察する乎

都合の日本

V氏は日本語の都合を罵り不都合千萬な言葉だと云ひつゝ語を續ぎ「假へば君と箱根行を約束する、此方は其積りで差繰つて準備をして居ると君は都合が悪いから見合せると云つて違約する、君はソレで宜いだらうが此方は不都合な目に會ふ譯ぢや無いか處が日本人は此都合を勝手次第に振り廻すことを何とも思はずソレを振り廻された方でも案外冷淡を構へて左様ですか位で済まして居るものゝ所謂都合とはドゥ云ふ事情であるかは少しも分ら

ないといふのは如何にも不思議ぢや無いか兎に魚都合に依りて解する人は東西を知りながら南北の方角が分らぬ人かも知れぬ』

と罵倒して尙は一步を進め
「此不思議な都合」といふ日本特有の言葉は詰り日本の仕方が無いが生むだ愛子であつて露國では首相ストリピンが議會を解散してもニチエツオ一の仕方が無いで通用して居るが全露大帝國の大宰相ストリピンも流石に都合に依り解散を命じると宣告する丈の度胸が無く日本人に比べれば頗る神経質である、處が露國外相のイズヴォルスキ―は随分豪膽家の評判が高いから日本人が人を雇つて置きながら都合に依り解雇する」といふことの消息を解したならば都合に依り協約を廢棄す」と出掛けるかも知れぬぢや無いか仕方が無いは大領土を支配する國民の様に聞ゆるが困つた」と都合に依り又は日本を愛する僕が日本の爲に斷然之を廢止して貰ひたく思ふ』

に東京行の列車に乗り後れるかも知れぬ、V氏はこの場合こそ仕方が無いといひつゝ人力車を雇つて電車の軌道に従ひつゝ人車を走らせる愚を演じたがV氏は

「斯う云ふ様な行方は日本で往々出會す事で、交通機關と旅店との善意の聯絡は萬歳であるが旅人引留め策として或は時間後れに着車したり又は到底瀛車の時間に間に合ひませんなど詐はつて無理に宿泊させる様に仕向けるから日本の旅人さへソレこそ困るだらう況して土地不案内の外人は狼狽するよ』
と云つたとき、人力車夫が特別の賃錢の爲めに全力で駆けつけたは宜かつたが途中で一人の子供と衝突した、スルと車夫はイキなり車を投げ出して

「大變だ〜」
と大群に喚き立て子供を見向きもせず四邊の人を喚び集めた、我々は子供を檢べたか別條が無いの喜びを喜び開處へ駆けつけて来た母親に挨拶したが車夫は此儘では済まされいながら是非療治代を遣つて呉れと迫つた、面倒だから幾らか與へて進行を續けたがV氏は
「僕は君の機嫌を損ねまいと思ふから我儘して此不法な車に乗つて居るものゝ

今の所行は實に許し難い罪惡だ、交通の頻繁に成るに連れて種々の災害も生じ車と人との衝突も往々起るであらうが其衝突の度毎に乗客を攻撃する習慣があるのは無法極まるぢや無いか、例へば自動車走らせるときに僕が運轉して居て通行人を傷けたら僕は確かに罪人であるが他人がソレを運轉して僕が單に乗客に過ぎぬ場合には僕に何等の責任も無い、但し僕の肉體の重みが負傷者に苦痛を與へたことを感じて負傷者を慰撫するのは人情問題であるが其人情は他人の請求に依つて動くもので無く、自動的のものであることに注意せねば成らぬ」

責任の移轉

V氏は車夫が過失の責任を乗客に塗り付ける様な日本弊風の攻撃を續けて「同情から起る義捐と責任との間には明らかに區別があることは丁度道徳と法律との區別があるのと同様であることは疑ひも無い事實で、幾ら日本が乗客窘めを得意として居るにもせよ、流車や電車の轢殺又は轢傷の起つた場合に

乗客一同の聯帶責任として弔慰金又は治療代を負擔しろとは責めぬに相違無い、ソレで電車と人力車の乗客の間に何の相違があるかと問ふたら日本人も其辯解に苦むであらう、處が車夫の過失があつた場合には恰も乗客と車夫とに聯帶責任がある様な強請を試みたり甚だしきに至るに客種を見て其身分が好いと見れば客のみに責任を課するなどは一種の脅喝取財だと云つても決して不當で無いと思ふ」

と云ひつゝ更に責任論を進め「尤も乗客が自分の乗つて居る車の爲めに犠牲に爲つた不幸の人を見向きもせぬのは没人情に相違無いが某大臣の夫人の馬車が或る婆アさんを轢き倒した場合には大臣夫人、老婆を傷くと云ふ様な筆法で記載する新聞があつたならばソレこそ米國黃紙主義で、平和の福音か響いて居る最中に無理に十六隻の戦艦を太平洋に浮べるなど、叫ぶ無謀の舉と同様ぢや無いか、ソレで運轉手は運轉手の責任を盡す事と極めて例へば自用馬車が人を傷けた場合には取手と馬丁とは一ケ年の収入を棒に振つても怪我人に對する責を果すとすれば自然と將來の注意と爲り不幸な怪我人も少くなる左様して主人は取手等の盡し

た責任に對して相當な同情を表せば八方四方が規則正しく且つ圓滿に治まる
ぢや無いか』

と云つて日本の責任推移觀に移り

「と云ふと、君は僕が單に馭者や馬丁や車夫などの責任を論じるものと思ふか
も知れぬが僕は日本を愛する同情からして是非とも日本全對の反省を煩ぼし
たいと思ふから僕は思ひ切つて苦言を日本の社會に呈するが日本の責任讓
りは獨り車夫間のみの弊風では無い、日本の上中流も下流と同様に責任を責
任と思はない弊風が盛んである、例へば九時十分訪問する約束をした人が
九時二十分に出掛けに來て丁度出掛けに來客に邪魔され十分間遅刻しました」
と云ふ様な辯解をする事は少くないがコレは遅刻の責任を他人に嫁する卑怯
な仕方ぢや無いか九時十分に分は自分が他人を訪ふ約束をしたならば假令ドンな
珍客が來ても謝絶してこそ始めて自分の責任を全うする譯ぢや無いか處が斯
う云ふ無責任な辯解も相當な理由のあるものとして日本上中流の間に受け取
られて居るのは日本の失態だと云はねば成るまじ』
と論じて更に一步を進め

「日本に此責任塗りの失態があるから大學卒業の學士が英語の會話に窮すると
ンレは大學が悪いのだと逃げ、大學は高等學校を責め高等學校は尋常中學を
中學は小學を、小學は日本の家庭を責める、家庭の主人は又無教育の母の血
が悪いのだと攻撃し結局日本人は外國語の練習に不便だと云ふ事に成て責任
は泡の様に消えて仕舞ふが自分の悪い事は男らしく責に任ずる美風があれは
こそ日本のハラキリが世界語と爲る迄に世界に有名になつた譯で、「英國の偉
大なのは自分の拂ふべき義務の無い一ペンニ一の爲めに十磅の訴訟費用を吝
まぬ權利尊重の觀念に在るとイーリングは叫びだぢや無いか其英國は日本の
ハラキリに見込を付けて同盟したに相違無いのにハラキリを他人に譲るとは
何事だ』

と叫んで少しく談鋒を緩め

「昔の日本は主従の關係が家族的であつたから其餘勢が残つて居ることは認め
ねばならぬが今日の主人と召使とは米國流に單に金錢の問題と爲つた限りは
責任もキチンと其範圍を極めねばならぬ、處が外人と見れば皆ロツクフェラ
ーやカーネギーと同視して一厘でも餘計に引つ奪らうなど云ふ小愛國心は日本

の汚點である汝の友に友あり其友に又友あり故に世界に知られざる一物もなしと云ふぢや無いか一人の聲は萬人の聲世界の聲に成る、外人に親切な此些細な事で日本人に人種的憎悪心ありなど云ふ材料を外國通信員に與へるのは大失計だ』

と結論したが列車は無事に新橋に着いた兩三日の後我々は富士登山を試みたが氏は富士を何と観る乎

俠 客

V氏は富士登山を試み様と云ふので余と一所に朝七時飯田町發の列車に乗り込むだが此列車には一等室が無いから二等室へ乗つた、V氏は始めて二等へ乗つたのだから居心地は如何と問ふとV氏は

「一等と二等とは餘程違ふと思つて居たのに殆んど區別が無い位だ、コレなら僕が今迄一等に計り乗つて居たのは頗る愚であつた」

と満足したがフと左の席を見ると一人の肥つた男が三四人の取巻連中と共にグルリツと衣服を捲くり上げ丸で臀部を暴け出して手先から胴を掛けての點をチ

ラく見せて居た、V氏は

「コレはドウ云ふ階級の人か」

と問ふたが、彼れは確かに「俠客」である併し記者は「俠客」と云ふ洋語を到底發見する事が出来ぬので大に閉口した末に先づ俠客の事蹟を咄して漸つとの事に其説明を終るとV氏は

「露國にハリガンと云つて破落戸が居る此連中は憲兵やコサツクの手先に使はれて革命黨員を殺したり暴動でも起ればドサクサ紛れにウオトカ酒の勢ひで良民をも殺して平氣で居るが日本の様な文明國に开んな亂暴のゝ居る筈はない、處で、今君の説明を聞くときョーカクとはガラントな男を云ふ意味ださうだが歐洲で云ふガラントとは弱い女性に對して男性が自分の勞を吝ますに世話すると云ふ女性本位の歐洲騎士道から割り出した義俠の意味である、併し君の説に依ると日本のキョーカクは他人の爲めに自身を忘れる義人だと云ふんだから狹義に解するメシヤスで先づ基督の様な聖いものであるが自分分を正しくして他人を正しうさせるとするに俠客は小なる基督であると云つても宜し」

と汎論したが更に俠客を解剖し始め
 「處で、其義人の俠客が博奕と云ふ不善なことを行ふとすると無論基督と比べ
 らるべき資格は無い、成程警察制度が不完全で且つ國民の上に立つたサムライ
 の威權がましい暴行も起つた封建時代ならば國民の中に社會の制裁權と良民
 に對する保護權とを行ふものがあつたのは多少自治制の基礎にも成つたであ
 らうが立憲政治の今日、殊に立派な警察のある日本で何故に俠客が博奕を行
 ることが知れて居てもソレを見逃がして置いて個人間の市井の出来事に對し仲
 裁々判の大切な役目を任せて置くのである乎ドウも日本の警察の威權に關す
 る様に思はれるが他の一面から考へると緑蛙は緑草のある所に棲むで居て草
 の保護を受け蛙の敵から發見され無いのは丁度滿洲の風土に對しカーキー服
 で武装して戦争をするのと同様な理屈で蛙は草に對して感謝せねばならぬが
 其又た草の根を食物にして草を枯らさうとする小さな蟲は蛙の爲めに食はれ
 て仕舞ひ、草は蛙に對して感謝すると云ふ順番に成る、萬物はコレと同様に
 自利々他と云ふ原則の下に存在するのであるから俠客の存在と警察の存在と
 は此原則で兩立して居るかとも思はれる」

と云つたが更に論鋒を改め
 「併し市井の出来事に對して保護役や仲裁役を演ずるものや其外にもマダ君の
 咄した町内の若い衆の様なものがあるとする日本文明の一疑問と成つて
 来るぢや無いか、全體日本の政府はエタを離隔した巧妙な腕を有つて居なが
 らドウして封建時代の遺物の俠客や明治新時代の壯士なを退去させる策を
 取らぬのだらうか、否、コレは僕の思ひ違ひで君も彼の人を見損つて居るん
 ぢや無いか、公使館員の儉まれた時計が一日の中に戻つて来る程に秩序のあ
 る日本に俠客の居る筈は無い、彼の席に居る人は肉屋の主人だらう、アノ肥
 つた肉は一斤五十錢でも貴いと思はない肉屋に相違無いと」
 と云つたがV氏は更に其男を見て
 「あの人のキモノは半分か」
 と云ふ奇問を發した、此奇問はドウ發展するであらう乎

尻捲り

流車に同乗の俠客のキモノが半分かとのV氏の奇問に記者は俠客連中が座る時

分には毎も尻を捲くる癖のあることを告げた、此時某國大使の一行も此車室に入つて来て一行の中には貴夫人も一人加はつて居たが俠客連の一行は手荷物をウソと室内に積み込み座席が無いから記者等は止むを得ず、席を大使一行の人の手に譲つたが貴夫人は俠客連中が一齊に肉體の下半全部を露ぎ出して居るのを見て震へつゝ怒つて居る、窓に近づいて来た驛夫に聞く彼の顔役の一行の一人が此驛の助役さんの知己ですから荷物は改札時間の前からチャンと積み込むで仕舞つたのですと語つた、V氏はコレを聞くと非常に激昂して

「今こゝろ始めて二等と一等と區別のあることが分つた、車室の構造は一二等とも殆んど變りが無いにして、二等には斯う云ふ無作法千萬な乗客があるから紳士には乗れないのである、僕は日本人が南洋流の遺傳から封建時代の君侯の怒籠脇に居る時さへ兩刀を帯びた武士たるものでも君の云つた通りモノ、ダチを収つて袴を捲くり上げたことを知つて居るから、西洋流に肉體を現はすこと其れ自身を責めせぬが、武士のモノ、ダチは警護の爲めであらうし、日本人の跣足も往來に限られた咄で、室内を土足で歩く譯ぢやあるまい、又室内で裸體に成ることがあるとしても他人に對するときは肩を入ると君は話

した通りで日本人でも裸體を禮装として居ないとは無論だらう、假令赤道直下の純蠻族でも肉體の或る部分だけは隠して居るのは然るべき人の乗る流車の室内で膝の上まで強ひて裸體になる必要がない計りで無く其無禮を行つて耻ぢ無いとは驚き入る」

と論じて語を續ぎ

「殊に日本では美術家の裸體畫作品にさへ警察は干渉する程に風俗に注意して居るのに此醜態が絶ぬのは残念だ、コレで見て何々すべからずと揭示する必要のある國だと云はれても日本は其侮辱を忍ぶ外はあるまい、ソレから車室に荷物を満載して他の乗客を困らせる無作法に對して何の注意もせぬ鐵道は世界に無類であるが是れも鐵道國有を實行した爲め今までは多數の會社に社長があつて分業的に責任を帯びて居た爲め目も届いたが今は一人の總裁で澤山な線路を監着するから斯うダラシの無い姿に成るんだらう、鐵道廳は何故各線は一人の副總裁を置かぬのだらうか、南滿鐵道の發達を計るのは日本の急要な仕事に相違無いが國の内部の鐵道が無秩序であれば肺の無いのに呼吸をしると注文するに類してゐるぢや無いか」

と罵つた時、流車は玉川を通過した、V氏は此川の鵜漁の咄を聞いて
 「西洋の鵜は自分で食ふ爲めに魚を捕るが日本のは他人の食物の爲めに折角呑
 むだ魚を吐き出すとすると君の咄した義侠は人から動物まで日本の特性だと
 云つても宜からう併し鵜は間違つて人間に有害な魚を取つて呉れる事も無い
 とは云へまい、動物の本能は人間より優れた處があるにせよ理性は人間の
 の特有物だとすると、幾ら義侠狂の日本でも不正な義侠は排斥せねば成るま
 い、併し日本が世界の爲めに満洲の門戸開放を行つても色々理屈を云ふ國が
 あるとすれば盗賊鼠小僧の墓にさへ参詣する詩的な日本人は此鵜の爲めに一
 掬の涙を注ぐべきは當然で此玉川や岐阜に鵜の爲めに神聖な墓を建て遣つ
 たらドウだ」
 と語つたとき大月に着いたが小沼行の鐵道馬車に後れること十分であつた事は
 例に依つて例の通りで其爲めに旅店で中食すべく餘儀無くされたが馬車を買ひ
 切り別仕立にせねば出發が出来ぬので時間の乏しい成々は餘儀無く馬車を買ひ
 切つたが某國大使の一行も大月に降りて大使は自身に食物入の籠を運び來た
 V氏はコレを見て

紳士の怠惰

「日本の紳士に果して彼の大使の眞似が出来てあらうか」
 と口を切つて日本紳士の怠惰論を説き始めた、氏は何とソレを論じる乎

大月停車場の小旅館で某國大使が書記官譯官等の下僚と同行しながら自身で辨
 當籠を運び居るのを見てV氏は日本紳士との對照談を始め
 「日本人は少し彼の大使を見習ふが宜い、勞働が殆んど無代價であつた昔の遺
 傳性で日本紳士は靴を脱ぐも召使を煩はすが人は己の主たるらざるべからず
 と云ふ金言もあるのに日本の紳士は丸で僕が見た芝居の大名の様に少しも動
 かす活きてる人間か木像と同様に口を利くのが不思議な程に他人を使ふのは
 驚く尤も僕は故李鴻章が百餘名の多人數を率ゐて歐洲へ來たのを見たが李鴻
 章の生活を聞くとき食事の時にも數人の召使が李鴻章の食卓に伺候して居て李
 鴻章は支那匙と支那箸すら持たず飲料から食物まで皆召使が李鴻章の口へ運
 ぶと云ふ始末だから僕は流石に專制國の大宰相だと驚いたが、併し李鴻章は
 世界屈指の財産家だと囃された富豪だ」

と云ひつゝ例の皮肉談に入り
 「處が家の入口で車夫の鼻先へ足を突き出し靴を取らせる日本紳士の収入が車夫の収入の五倍程だ」と云ふのは李鴻章に比べて随分心細い大名ぢや無いか、獨逸の無妻紳士は珊瑚茶碗が一つしか無くつて客が來るとコレで飲むで下さい位は平氣だがソレでも立派な紳士で時間の狂ふ金鍍金の時計を時間の正しいニツケルの時計よりも賞美する日本紳士とは大分違ふ」
 と云つて更に一步を進め
 「獨逸式は此通りだからライプツヒの大商店フレーゲ商社の晩餐に招待を受けボーイに酒代を遣るのは愚だ」と云ふんで居酒屋へ入りサウセージを食つた男がヒドクフレーゲの氣に入つて一番重くフレーゲに信用された咄もあるが山東省鐵道の大發展は此獨逸氣質の結果だ之と同様に某國公使が新橋に着くと自身で荷物を検査して手帳に記入した事を東京の或新聞が「公使として貫目がない」と記したら某公使はコレを見て此記事ころ乃公の實力を認められた新聞だ」と云つて今でも其切抜を寶物にして居るさうだが大臣でも大使でも自分の用は自分でする事を日本の紳士に教へた」

と云つたとき小沼驛に着き此處でも第二の鐵道馬車に乗り換へたV氏は「何故車を換へるのか」と怪むから會社が違ふ爲めだ」と云ふ
 「日本人は小黨分裂好で競争の外には一致を缺くと洋人仲間で評するが、同じ事業が斯う連絡して居て合併が出来ぬ様では到底大トラスト組織で世界の市場に世界的の大商戦を試みるとは出来まい南洋的の猜疑心で小競合の小功名を心掛け他人の成功を祝ふ聲が小さく自分獨りに萬歳を大呼させ様とするのは我も生き人をも生かさしむ」と云ふ獨逸の格言に逆いて居る」
 と概したが今は養蠶の二眼時で多勢の女が働いて居るのを見、此地方の女權の盛んな事を聞いてV氏は
 「製絲の盛んな上州地方でも嗚ア天下に焼き燂頭を名物として居ると聞いたが女が働く爲めに此地方に女の權力がエライのは當然の結果だ、處で女が働か男が遊ぶのは矢張日本人種發祥地方の南洋風で蜜蜂の國家と同様であるが日本の紳士が動かぬのに對して日本の奥様も臺所を女中の勢力範圍と極めてソレへ踏込むとを奥様の品格に關はる様に思ふ位だから馬鈴薯一磅の代價は何

程するか分らないのは勿論、良品の吟味旁々自身で籠を提げて八百屋へ出掛けることなどは操を破るよりも耻辱として居るさうだ、僕が日外君に案内された中流人士の夫人とは丸で違ふとを其後に聞いたが日本人はドウか最う少し奮發して自身が勤むべき自分の義務を全うする様にして欲しい、と嘆じたが吉田に就て更に別の馬車を買切り富士山麓の北口へ達したのが午後六時であつたが、又々別の馬車を買切つて馬返しに行かねば成らぬと云ふ混雑を重ね月明りを浴びて馬返しへ向つたV氏は富士山麓を何と観る乎

山は下より見よ

吉田口から馬返しまで徒歩で進めば時間が非常に費へるから荷車を馬に曳かせる古代式の馬車を雇つて金剛杖と草鞋を買ひ剛力をも雇ひ入れた、富士登山の草鞋は一人前五足が原則だと休憩所の主人が云ふから其通りに仕入れたがV氏の足の指は五本揃つて居るもの、靴計り用ゐて居る洋人の通態で足の指は全く自由を失つて居るから第一指と第二指との間に草鞋の緒を挟む事は出来無かつたV氏は幾度も試み失敗した後

「日露開戦の當時に獨逸のシューマツヒエル、ツアイトウング(靴屋新聞)は日本人は生れながらの歩兵で蒸製の特別靴ワラジを穿き云々と記載して暗に獨逸人の徒歩主義を鼓吹した、其議論の裏面には靴を買へどの謎を含むで居たが兎に角日本の草鞋は此通り世界的名物である併し洋人には到底之を穿く事は出来ない稀に試みた洋人も歸宅すると足が痛むで堪らぬと澁面を作るが、全體富士登山に五足の草鞋が要るとすれば一足の足鞋の壽命が如何に短かいかが分る、尤も新陳代謝の速いことは肉體の衛生には結構だが品物の新陳代謝が火急なのは丁度世界に有名な日本の酸漿提燈の様に一夜點せば翌日は使用に堪へぬと云ふことは堅固に進歩することの必要な日本の爲めに決して褒められぬでは無さう」

と云ひつゝ更に一步を進め「ソレに日本は新陳代謝の流行り捨たりも中々速い様だが其日本が矢張り流行好きの佛國と握手したは日本人の云ふ似たもの夫婦の意味にも成つて提携の堅固なことを證據立て双方に萬歳を唱へねば成らぬが、ウンと借金を拂つた佛國が忽にして露國にも金を貸し進んで日本へまでも資本を入れやうとして

中々全盛であるのは佛國人が巴里美人に酔つた翌朝でも断じて二日酔に打ち勝ち勉勵する偉大な國民であることを忘れては成らぬ、處が日本の酔は存外新陳代謝が遅くドウも二日酔が流行する様に見受けられるが其二日酔はメゾン、ドウ、ランデグー(待合の奥座敷計りで無く随分商店の奥にも行はれるさうだが二日酔の持続性と反對に富士登山だけに五回も穿き物を取り代へる必要があるのは喜ばしい現象では無い商品の壽命延長と共に差當り山行きの別製草鞋の發明位は富士山下の住民に出來ぬ道理も無からう」

と云つた後剛力の意味を問ふから其次策を説明するとV氏は笑ひつゝ「君は剛力を見ぬ前には大きな雲を突く様な男だと思ひはしなかつたか、取り別け此剛力は恐ろしく小さいぢや無いか、尤も大きい計りでは何にも成らないから大は小を兼ねぬと雖も牛は兎を捕ふる能はずと云ふ格言もあるが剛力とは一時に強い力を出して後で直ぐに閉口垂れることは丁度祝宴に大騒ぎを行つた翌朝には昨夕は何事を祝したのか其事實を忘れると同様な一時性のもので無い事を富士登山者の頭に刻む程の力があれば剛力は日本の何人よりもエライ教師だ」

と例の諷刺を試みた時は丁度暮色が天地を包むと共に月は一層光りを増し記者等は此光を浴しつゝ富士の麓を馬返しへと進むで居る時で遠方に馬返しの上の燈火が一行を迎へて居た頃で記者等は風景の美に恍惚としたがV氏は興に乗じて伊太利語で

Loda il monte un kent alpiano.

と口吟むだが記者に向つて

「實に此通りぢや無いか山は下より見よとは穿ち得た伊太利の格言で、山は下から見るに限る伊太利のエトナ山は先年の噴火で形を損じて逆も此富士の美には及ば無いが此通り美な富士の美も此邊の下から見ると一番の美に相違無い、と計りでは君は餘りに平凡な説だ」と云ふかも知れぬが「下から見よは富士の美計りで無く最も廣い意味に解釋すべき明言だ」

と云つて忽ち貴族論を説き始めたV氏は貴族と富士とをドウ観じる乎

貴族と登山心得

V氏は山は下より見よと云ふ伊太利の諺を褒めて月下の富士を仰ぎつゝ、

「勿論、富士の山上には下界で見られる美景があるに相違ないがソレは富士其のもの、美ではなく富士の絶頂から見た偉大な自然界の美であつて富士其もの美は上ぼるに連れて消えて仕舞ひ遂に富士の見體を見ることが出来なくなると言ふから富士の美は今此汚い荷馬車で揺られながら苦しむつゝ行く途上から見るのが一番美であるのだ、併し遠方から見た富士の美は近寄ると益々雄大に見ゆるから何人でも富士の上へ上へと行きたがるのは當然だが此上は下で思ふ程美で無いのと同様は日本人が無暗に美望する貴族とか高い位地とか云ふものも下から見れば結構だが其御當人の身に成ると下級が羨む程に結構づくめでは無く位地に伴ふ苦みと樂みとを差引くと寧ろ苦みが多い方であらう、して見ると貴族や高地を美望するのは恐の至りで山は下より見よの教の尊い事が分る譯ぢや無いか」

と語つた、此時記者は山登りの秘訣を剛力に尋ねると剛力は

「上を見ると可けません、歩んでいる中には屹度頂上に行けると覺悟をして休まずに歩くのです、歩く時は右を踏み出し次に左が右の足と併むだ時に又た右を踏み出す様にすればイツの間にか樂に頂上へ行けます」

と答へた、V氏はコレを聞いて

「實に立派な教訓ぢや無いか、見給へ、富士の頂上は彼處だ、此處から見れば頂上までは譯も無さうだが彼處まで行くにはドレ汗を流すか知れない、ロンプスが亞米利加を發見した後には彼れ位のことでは誰でも出来さうに思はれるのと同様に或る事業の成功者を傍から見れば譯も無さうに思はれるので駆け足で富士山頂へ突進する様な盲進を試み途中で仆れるものは數知れ無いが目的地點を見乍ら進めば自然と急ぐ、急げば勞れて仆れる筈だから目的物に達するまではソレを見ず只だ只だ自分の足元に注意し *Etie mit Welle* (閑日月的に急げの原則に従ふのが大成の秘訣だ)」

と云ひつゝ談鋒を進め

「一體、無暗と急ぐ人は脚が宙宇を飛びで居るから小石にも躓いて倒れるのだ、一步進むで進むだ地點に確く立ち地盤を確めて一步を進めれば少しも無理なしに整々として目的に達せられる譯だが移民條約も確立せず定期航路も出来なない中に南米へ出掛けて俄死に陥るものが日本人中にもあるさうだが此等の人は此の剛力の教訓を謹聽する様富士登山を勧めたい、又た三鞍の泡と共に

消ゆる様な事業にも出資を求めて御馳走をする投機者流は一度は富士の御山へ登るべきである」
と咄つたが記者は「瑞西通の君は同國の登山心得を知つてる筈だからソレを聞きたい」と云ふとV氏は

「瑞西の登山心得は八ヶ條ある即ち

(一)山中にては自身の位地教育等を説き誇るべからず

(二)登山し得ざるものは登る勿れ

(三)登山者は前以て幾時間の歩行に耐ふるかを自身にて試験すべし

(四)山の石室にては謙遜なれ金の爲めに收容さるゝホテルと思ふ勿れ

(五)アルコールを同伴する勿れ

(六)硝子の破片等を山に捨つる勿れ

(七)山の水を汚すこと勿れ

(八)山の植物を取る勿れ、アルプスの花はアルプスの飾りなるを知れ

以上の通りに瑞西人は極めて居る、處が瑞西への漫遊客は往々アルプスの植物を害するので「アルピユスよ、美るはしきアルペン山を、外國の強盗團に對

して自守せよと云ふ流行歌が出来て居るが富士には花が無いから花守りの厄介だけは無用だ」

と云つた時馬返しに着いたが晩涼に乗じて直ちに徒歩を始め夜の十二時半に五合目の小屋に一泊し翌朝は四時に出發したが朝餐には味噌汁を嘗みた、V氏は

「僕の知らなかつた一大名物を得たのは嬉しかつた」
と云ふから記者は何が左程に嬉しいのかと聞くにV氏は途中で話さうと云ひつゝ五合目を出た、氏は所謂一名物に就いて何を語る乎

味 噌 汁

V氏は五合目を出發して上りつゝ

「先刻僕が君に咄した一大名物とは味噌の事である、空腹であつたから旨く感じて褒めるのでは無く味噌は確かに僕等洋人のソップとして用ゐらるべき品物である、其味噌と兄弟分の醤油は日本のソーヤ豆ソース又はソーヤ、ヒスビ豆とも呼ばれて歐米で受けが宜いが日本の商人が醤油の輸出に努めないから今年一月から三月までに僅かに九一三九五三升しか輸出しない上に歐洲

へは其一小部分しか行かないのは甚だ不勉強だ、日本人は何故歐洲の何處の店にも醬油がある様に輸出しないのだらうと僕は日本醬油の爲めに大に憤慨して居る」

と云ひつゝ味噲談の詳説に入り

「开處で、僕が大名物として喜んだ今の味噲も醬油と同様に、イヤ醬油よりも今一層日本商人の虐待を受け、チース即ち豆チースと歐米の好事業界には持て囃されて居るに拘らず其實物は歐米の市場に皆無だと云つても差支が無く矢張り本年一月から三月迄の輸出高を見ると一〇五八六〇五升と云ふ僅の高であるが其殆んど全部は皆在外日本人の需用に應じる丈けの咄だから豆チースの名があつてもソレは虚名で歐米では一度でも味噲ソツプの御馳走に與かつた例は無い、處が今此ビ、チースを試みると却々の美味が日本然と與床しく何處かに含まれて居て確かに洋人の食卓に上るべきものであるのに日本人は少しも此邊に注意せぬのは商略として不思議である」

と語つて今度は富士鐵道談を始め

「伊太利の技師ビルフイナ男爵はカナダや南米で數萬哩の鐵道を敷設した鐵道

工業家で先頃死去したが此男爵が五六年前に日本へ出掛けて來たとき富士の昇降を便利にしたいと云ふ考へから自費で富士山へ鐵道を掛けたいと云ふんで其向々へ色々相談を試みたが日本人中に反對者が多かつた爲め遂に男爵は其目的を果さ無かつた、併し今日に成つて見ると電話も出來れば電信も架設されて居るから、若し男爵が此有様を見たら一層の事に思ひ切つて自分の目論見通り鐵道を敷かして呉れば宜いのにと彼の世で怨むで居るかも知れぬと云つて僕は決して男爵と同意見でも無いが、兎に角日本人が高山を神として崇め奉つて置くのは瑞西がアルプス山を世界に向つて千客萬來的に開放した爲めに客の中には惡戯者も雜つて來て其結果外國の花盗人や石盗人に對して自ら守れなど云ふ厄介を招いて居ると趣が違つて惡戯者退治の良策だ」

と云つたとき昨夜六合目に泊つた連中と出會した、V氏

“Le montagne non si rincantano, magli nomnisi”

と叫びつゝ語を續ぎ

「ドゥだ君人の身は分れても復た逢ふことあり、山は動かねば山と山とは遇ふ

こと無しと伊太利人は云ふが一寸乙ぢや無いか、僕等も歩けばこゝ此富士へ近寄つて見物も出来るのだ處が動ける人間でも動かねば山と同じ事で一室の中に好きで禁錮されて居る様な動かない日本人は此伊太利の格言に弄戯れて居る様ぢや無いか」

と云つた、此時道連れに成つた日本登山客の一人が記者の携帶して居た水壺を所望したので記者は「タンと召し上がれ」と云ふとV氏は

「タンとはドウ云ふ意味か」

と聞くから澤山と云ふ事だと説明するとV氏は深く感じた様な顔をして

「日本が伊太利に似て居る事は風景の美で世界の二幅對に成つて居る程で此事は日本人も能く承知して居るだらうが僕等洋人から見ると不思議な程に一層能く似て居る、今君の云つたタンとは澤山と云ふ意味ださうだが伊太利語の澤山はタンとで日本と少しも變らない、ソレに言葉の發音の調子が日伊全く同様で風俗も氣候も火山も剩りに生糸が日伊兩國とも最も重要な物産で珊瑚も日伊兩國共に産地として名高いぢや無いか、處で伊太利は獨塊兩國と握手して今日も古代の全盛の幾らかを維持して居るが羅馬の威光とは比べものに成

らぬ、日本は之に反し日々に進取して今は極東の大王と云つてもよく威望が目を逐ふて高まつて居る其日伊兩國の對照は丁度羅馬の盛衰記を讀む様な感じを起す計りでなく世界の歴史が盛者も衰へ合ふものも離れる道理の教へて居る事が分る」

と云ひつゝ語を續いで

「併し衰へるものは必ず衰へる丈の原因があつて衰へるのだ」

と口を切り何事かを論じ出さうと構へたV氏は日伊兩國をドウ観る乎

母音亡國

V氏は富士山上で日伊兩國の比較から一國の盛衰談を始めて語を續ぎ

「斯う云ふと君は僻説だと云ふかも知れぬが僕の耳にはドウも母音が亡國の調子に聞ゆるがドンなものだらう、處が西班牙語も葡萄牙語も伊太利語も度々引合に出した通り洋人調から云へば間の緩い方で皆な母音で終るが、アドミラル、ネルソンは如何にも古今の海將の様に響くのと反對は西班牙のアルミラント、オケンドーと來ると何と無く果決が缺けて居る様で悠長の様に響くの

は單に僕限りの神經でもあるまい、處で日本は頗る此母音好きで日本人は絶頂の洋語トツプを發音し様としてもトツプーと訛る癖があつて何にでも語尾には必ずアカイカオを付ける様に思はれる、尤も日本は北から南に伸びた國だから氣候の關係で非常に風土人情も違ふから一概には云へぬかも知れぬしソレに關東と關西では大分語調が違ふと聞いて居るが、果してドウ云ふ風に違ふのか』

關西調

- トクス
- ヘゲタレ
- ヌケサク
- オー
- ホベタ

關東調

- チンバ
- トクス
- ヘゲタレ
- ヌケサク
- オー
- ホベタ

と聞くから記者は一寸考へると成程、語調が人氣と一致して居る様に思はれる試みに二三の例を擧げると

と云ふ様に關東は短かく約まる入聲が多く關西は長く伸びる平聲が多い様であるからソレを咄すとV氏は得意で

『關東調と關西調との會話の様子を聞かせて呉れ給へ』

と注文したから喧嘩の場合を想像して

『迂奴、打ちやがつたな、黙つて居りや宜いかと思やがつて、酒落ッ臭い、ド

テッ腹へ風穴ア打つ通すから覺悟しろい、此トンチキ奴ッ』

コレが關東の喧嘩調だがコレを關西調に翻譯すれば

『己れ、叩きくさつたな、素直にして居りや宜いかと思ふて、イチビルない、

已れの腹へ風穴を明けて遣るさかい、覺悟さらせ、此アホダラ』

と成ると記者は呑氣千萬にも富士山上で落語家の假聲を使ふべく餘儀なくされ

た、V氏は熱心に聞き終つて

『勿論、僕には關東調も關西調も何事を意味して居るのか日本人の云ふチンブ

ンカンで少しも分らぬが、分らぬだけに調其ものゝ激して居るか穏かである

かは公平に判断されることと思ふ、其處で君の云ふ關東調は如何にも殺氣を

帯びて假りに僕が其馬倒の矢面に立つとして、僕は分らぬながらも何と

無く薄氣味悪く感ぜるだらうがソレを直譯した關西調と爲ると相手に對する
 抗議と云ふよりは寧ろ自分の不幸に對する弔詞の様に僕の耳へ響く様だ、尤
 も語勢其外君の意思が籠つて居て其響き方が多少不自然であるかも知れぬ
 が兎も角も關東調の方が男らしく、關西調は優しく聞ゆることは疑ひも無い
 ソレで明治の革命迄は關東が關西を壓迫して居た理由も分る譯だ、但し幾ら
 語調が急でも盛んな爲に腐敗すれば口先計りで腸の無い日本の鯉帳と同様だ
 から關東が敗北したのは是非も無い』
 と云ふから記者は明治の革命は全國に公憤の滿ちた結果でもあるが革命の主動
 と爲つた九州中國四國は餘程語調が關西と違ひ九州でも分けて薩摩などは、宜
 ろしいを宜かたで済ます位に武張つて居ると説明するとV氏は益々得意で
 『して見ると僕の云ふ母音亡國説は頗る眞理らしいぢや無いか、西洋でも母音
 國の西班牙、葡萄牙、伊太利の國勢を見れば母音國は決して第一流ぢや無い
 但し日本には關東も關西も九州も東北も臺灣も北海道も取り分け近頃は朝鮮
 迄も領土があつて一概に母音國と云ふ譯にも行かぬから僕は決して日本は荷
 荷牙なりと云ふのぢや無いが、旅館に入れば少くとも一時間後で無ければ食

事を出して呉れない母音語尾的の優長さ加減はドウも感心が出来ない、但し
 急電的に日韓新協約を結んだ中國武士の伊藤公爵の手際を見ると旅館とは大
 分様子が違ふので僕は日本の語尾から段々母音が無くなることに成るだらう
 と日本語の將來を豫言するソレで日本は近い未來にサカナのナノ代りにンを
 用ゐて

「サカンを持つて來S」

と云ふ程氣短、語短に成るだらう」

と云ふ奇論を吐きつゝ八合目に達した、V氏は記者に勞れたかと問ふから記者
 は「ナニ、大してと答へたのを捕へてV氏は忽ち

「日本人の偽善！

と叫びだ、氏は何を偽善と云ふのか

偽 善

富士の八合目で大して勞れぬと記者が答へると偽善と叫びだV氏
 「誰れだつて此れだけの山道を歩るけば勞れるのに君がナニ、大してと云ふの

は偽善に近いぢや無いか、併し此偽善には賞すべき點と非難すべき點との兩面がある、例へば外交が單に權變の術であつた時代は既に過ぎ去つてポツクの正直に暴け出して對手双方の國民に協約の内容を知せる新時代に入居るのに獨逸人は卅七ヶ年も戦つた事が無いから獨逸が平和の本元だと云ふ様な辯明を行らすが世界は此平和を只だ偶然の結果に過ぎぬと解釋するのを見れば寧ろ好戦は好戦、財力に勞れたら勞れたと有り體に云ふ方が所謂正直は最善の方略なりに適ふ時代だと思はれる、ソレで今日は少くとも自身の友人又は自國の國民には真相を打ち明けべき時代だのに君が僕にまでも見榮坊を極めるのは頗る残念に感じらるゝ

と先づ一撃を加へて一步を進め

「處が日本人に御菓子は何と勸めると大概澤山です」と答へるが食はぬ先から澤山とは虚言も甚だしいぢや無いか……ナニ腹が空つても飢じう無いのは日本の武士道でソレを瘦我慢と云ふのか……結構々々、其瘦我慢を非難するのは間違つてる、人に知覺がある限は斬られれば誰でも痛い、痛いと呼びでも痛は去ない、但し痛ければ本能的に何か叫ばねばならぬから寧ろ思ひ

切て「ナンゲー、痛くないや」と絶叫するのは苦しい中に活氣が含まれて居て確に痛快だ、一時は非常の危機に陥つた遼陽役で日本軍が苦戦の後に勝利を占めたのは戦術も戦術も何も有つたものぢや無く最大原因は痛くないや流の瘡我慢に在るから瘡我慢は日本武士道の枝に咲て居る花である併し誰に對して「何事に就て」と云ふことが問題で、瘡我慢する價値の無い事や、瘡我慢を見せる必要の無い親友にまでも瘡我慢を擴張するのは一村雨に消れて仕舞ふ日本の紙製造花と同様だ」

と切り込むだ、記者は瘡我慢に就ては故福澤先生の著述があるが記者はマダ其れを讀まぬことを告げるとV氏は

「君がソレを讀まぬは感服だ、人は自分で考慮して一定の自説を持つて居て他人の説を聞かぬと他人の説が先入主と爲つて自分獨特の見識が無くなる、一體日本人に讀書の樂みの乏しいのは缺點だが他の一面から見ると日本の學者程参考書を要するものは無い、ボン、ジュールども咄せぬ先生の著書にさへ少くも二十や三十の佛人の著書が載せられて居ると云ふ事だが其先生の外國文讀書力は字引が入用で一ページに三十分も費るさうだから其先生は少くも

百歳以上の老人である筈だ、處で日本程字引流行の國も無い、エンサイクロペチヤ、ブリタニカを月賦で云ふマリヤ的の温顔に惚れて讀書社會の人士が我れ勝にソレを買ひ込むだ爲め讀書界の財力に少からぬ影響を及ぼし日本大書店の書物賣上高が一昨年以來一割三分も違ふと聞いたが、ソレが日英同盟の賜ものとすると同盟も餘り廉價で無い』

と冷かしたとき、富士山ホテルと云ふ名刺を持参した男がホテルは一夜一圓で蕪蒲團があると説明したのを聞き

「一圓ホテルが發達して若しも本當のホテルでも此富士山に出来たら先刻咄した伊太利の男爵技師が彼の世から喚び返して富士鐵道でも敷がせたく成るであらう、併し其れは考へものだ、僕から見ると富士と云ふ日本第一の一大自然は何處くまでも其の自然に任せて人爲的の小刀細工を施さぬ方が宜い、僕は富士山に電話を設けた事丈でも幾らか富士山を俗化した様な氣がするから鐵道などを尙更御免だ」

と云つたが記者もV氏は流汗淋漓として中々止まらないのにV氏は依然と厚い外套を着て居て記者に向ひ

「今迄は黙つて居たが最う猶豫は出来ぬから注意する 君も外套を着給へ」と云つた、此汗に外套とは何故乎

水晶と葡萄

V氏は富士の八合目で記者にも外套を着る様に勸めて其理山を説き

「君、此處の温度に注意し給へ、寒暖計は四十度以下だし我々は麓から三千米突も上に居るのだけ、全體一センチ平方米突(三分三厘四方)に對する氣壓の重さは一キログラム(二百六十八分)だから人間一人の總面積を大小平均してザツと一萬五千平方センチ米突(約四尺一寸四方)とするといやが受けて居る氣壓の重さは一萬五千キログラム(約四千二十貫)だ最う少し手短かく英國に流行する口調で云へば一人前の人間は凡十四噸(約百石目)の氣壓を受けて居るのだ、人間が此大荷物を背負つて居ながら左迄に重いとも思はぬのは壓力が一部で無く平ら一面に来ると其壓力の本元の空氣が人の體內にも満ちて居て内外で突つ張り合ふ、結果とであるが廣い所へ來ると外の空氣が薄くなつて内外の釣合が平地の様に行かぬ爲めに脆い血管が第一番に影響を受ける」

と云ふから記者も心細くなつて汗ビツシヨリの上へ外套を着るとV氏は更に
「其れだから風船で餘りに高上がりをすると思は勿論、事に寄ると眼からも出
血する様な危険がある程だから高山に昇ると假令へ血管が破れて出血する迄
には行かすとも血行の全身病見た様な容態に成つて顔は蒼白、脈は亢進
呼吸は困難と来て眩暈を起す事もあるのだか弱い女や子供や病人が見榮坊で
登山するなどは弊の美くしいのを褒められるが嬉しさに折角喉ひだ食物を落
して啼た鳥と同様の愚であるコレと同時に假へ健全な人でも運動から生じる
体温に氣を取られて外氣の冷たいのを構はぬなどは間違つて居る空気が寒け
れば暑く感じても衣服は増さねば成らぬ」

と云つて談録を易へ
「一體日本人は眼鏡狂ひで眼性の善い人でも眼鏡を掛けたがるのは西洋の浮氣
女が戀人と會見する途中では大きな黒の眼鏡を用うる流行と好一對だが眼鏡
入用の此山へは何故眼鏡を持つて來ぬのだらう富士登山は歩く足下の焼土
を見に來たので無く下界を見る爲めに昇る筈なのにツアイス鏡もヘンゾルト
鏡も持たず稀に携へて居る人は半寄席式の小さなアンフイ芝居でも使ふ

様な観劇鏡を手にして居るのを見掛けるのは不思議だ
と云ひついでヘンゾルト式のプリズム鏡を取り出して記者に渡したから丁度九合
日の所から下界を見ると六合目に歩いて居る人々の顔まで分明と見ゆる、向
きを易へて北口を見ると馬返しの際に居る人の數を勘定する事が出來た、記者
は剛力にソレを貸して遣ると

「旦那コレが富士山にあると日に一圓づゝは屹度儲かりますせ」
と剛力が叫びだしたので記者は吹き出しV氏も腹を抱へたがV氏は
「甲州は水品と葡萄とで有名だが水品は多く印形に使はれるさうだ、此望遠鏡
の骨とも云ふべきプリズムは水品だのに甲州は頓とソレを顧みない、又た葡
萄の質は確かに上等だが醸造術を知らぬらしい上に幾らか葡萄酒らしい香氣
のある甲州白葡萄酒は東京の下の料理屋にも見當らない、料理屋での飲料は
怪しげなラムネと茶と酒とビール丈けでビールを命じると女中はビールセル
ですかキリンですかと聞くが酒と云へば只だハイと云つて酒を持って來て酒
に幾種類もあるのに向頓着しない様な無趣味な日本だから日本の政府は酒
の專賣を行つても儲からぬと斷念たのか」

と皮肉つて頂上に達すると
 「御目出たう御座います御淨手を」
 と云つて清水で嗽ひをさせられV氏は「アリガトウ」を連發して行かうとするど二
 錢と呼び掛けられ「ホィ、折角登れたアリガトウの云ひ損をした」と戯れたが一時
 間の観覧の後ちV氏は
 「世界で五十何番目の此高山も銀貨と銅貨との臭ひには聖さが減じ富士の女神
 は祖先の地に近い新高山へ轉居しはせぬか………少くも僕に一策ありだ」
 と叫びだ氏の富士神聖維持策とは何乎

金 券 案

V氏は富士の絶頂に諸所の角面を廻つて景勝を見た後ち富士山を銅貨の汚れか
 ら救ふの一策だと云つて
 「此聖山で右から左へ現金の取引とは餘りに物質的過ぎる、ソレも金次第で巡
 査が怪しからぬ場所へも案内する程の米國ならマダしもだが、茶屋の女中に
 呉れる廿錢の祝儀すら紙に包むで渡す程に裸體の貨幣を卑む日本であるから

一層厭に感じるのだ、併し富士登山は無錢に限ると云ふ譯には行かず確かに
 幾らか要るに相違無いとするど僕は裸體の金………ナニ現ナマと云ふのか：
 ……ソレを卑む日本の美風と照應する爲め富士登山金券と云ふものを發行
 して現ナマに代用したく思ふ」
 と云ひつゝ登山金券の方法談に入り
 「ソレで富士の上り口に此金券を備へ登山客に賣り渡す趣向にするのだが金券
 の多寡は客の好み次第にして客は自分の費ふ程を豫算し此金券を現ホマで買
 つて登山する、山上に於る一切の支拂は休息する茶屋くで其れく此金券
 へ記入する、登山客は歸りに上り口の茶屋に金券を示す、客の費つた丈けの
 金額は金券面で明白だから其費消額を差引いて釣錢を客に拂ひ戻せば一方に
 は日本人の卑む現ナマを聖山の上で少しも受渡しせず他方には登山客が勘定
 に面倒な且つ重くろしい銀貨や銅貨を携へて登山せねば成らぬ苦痛を免かれ
 るぢや無いか」
 と奇説を吐き下山の途に就いたが記者は目的地に着た後の下山だから勞れが出
 てエラいと云ふとV氏は

「行くべき場所へ達すると楽しみは消ゆる筈だ西洋の機械力文明も運轉自在の輕氣球がマダ完全に出來上らぬ中にソロ／＼降り阪の傾向が見ゆる程で頂上に達すれば下るのが運命だから上ばかりつゝある間が花である、既往四十年間に日本が進歩した爲め富士で云へば今は三合目見當へ上つた時でコレから悠々進むのが日本の樂みだが文明山に登り始めた日本を見て下り阪に向つてゐる歐洲が心配するものも無理はない、其一例を挙げると」

と云つて獨國宰相の極東觀に入り

「佛國の記者ユーレが獨逸の宰相ビユーロー侯と會して日本の進取と支那の覺醒を説き全歐洲同盟で極東に備へる必要を説くと、侯は其の理想も可からう但し遠方に聳ゆる山に登る必要があつて其目標を眺めると假定すると、今日は迎も頂上に達しぬと覺悟するのは視力の正しい向だが視力が不健全で空中樓閣的に眺める向きは絶前が目前だと思ふであらう、開處で今日の登山は叶はずとも明日は叶はうと云つても宜い、登山するものは足を傷けては成らぬ我輩は足を丈夫にする爲めに、途を撰まずに歩くるのは廢さう、我輩の旅の邪魔になるものは避けて進まう先づ生活して然る後ちカンチードの様に庭

園を設け様よと答へたさうだ、此一言でも歐洲政治家の對極東政策の心は讀めるぢやないか」

と云つて更に一步を進め

「開處で日本も急進して足を傷けては成らぬが歐洲には生活の厭きと云つて富貴に過ぎてドンな娛樂も厭きたと云ふ厭世家すらある程、富を重ねた恐物もあるのに日本の一人残らずが進取的に生活を喜ぶ現狀を見ると此頃伯林大學を卒業した清國人の法學士馬某の論文に「極東は先に教へ今之を學ぶ今後再び教へん」と云つたのも尤もだ、但し日本には歐洲の富貴厭世と反對に絶望的の貧困の爲めの厭世家もあるさうだが厭世と云ふ吝嗇な語を日本から放逐せぬと日本の富の神の大黒様は笑顏を見せぬだらう」

と云つたとき洲走り口の一合目に達したが馬術家のV氏は直ぐに馬を雇ひ馬返しまで來ると六合目の派出所へ行く一人の巡查が汗を拭きつゝ馬車の雇ひ入れに助勢して呉れた、V氏は巡查に感謝して馬車に乗ると今度は巡查談を始めた氏は巡查をドウ観る乎

巡査の保護

V氏は一合目の茶屋で親切に世話して呉れた巡査が六合目へ交代に行くのだが半袋の米飯に我慢する苦痛のある事を咄したのを聞いて巡査に同情し「下の國でも武士的時代の末期には日本でも切奪り強盗は武士の習ひと云ふのと同様にリッテルブルヒ(武士の城)がロイベルブルヒ(強盗の城)に化して武士の墮落と爲り自由平等の主張と爲り革命と爲つたのだが此時でも武士的精神の精力は残つて一口のサーベルが俸給の三倍に値る程に利害よりも光譽に傾いた爲め官吏の俸給も頗る手薄かつた、其中でも獨逸は日本と同様に官吏の俸給が特に低いが其時分と今日との物價は天地の相違だのに俸給額は古の標準に依つて極少々増した丈だ日本も同様で今日から廿年前に來た米人が日本の下女に半非與ればソレで一ヶ月の米を買ふと感服して居たが今日は二ガロンの米が一圓二三十錢もするのに官吏の俸給が今も廿年前と違はぬのは俸給制度が官吏に加ふる大罪惡だ」と論じて語を續ぎ

「开處で清廉は日本に限らず世界一般何處もソレを重んじるが特別の盛徳のある人は別として一般の平均人間は本能には勝てぬもので譬敵の如くに互に憎み合ひつゝある一男一女を無人の島に置き置かば彼等はイツか夫婦と爲るべしと叫だ哲人の聲は眞理だ如何に克己心が強いにせよウイルム、テルは二本の矢を手を持って居たぢや無いか、然るに殆んど生活の出來ね程度の俸給を宛てがつて置くのは罪惡に相違無い空飛ぶ鳥にも餌はあり人には住ふ家も無しとの嘆聲が薄給國の日本でも取別け薄給であつて路行く我我にもアレ程親切な巡査の口から洩れぬのは流石に腹が減つても飢じう無い式の日本武士道の染み込むで居る奥床しさが偲ばれる」

と云つたが一轉して「併し巡査が黙して居るのは個々の巡査が善良な爲めで一般の巡査が毎も此徳操を失はぬことを期するのは巡査が人間である限りは無理な咄で日本巡査の清廉は寧ろ之を天祐と云つても宜く生活難に伴ふ危険な水雷が何時爆發するとも限られ無いから貴婦人が流行に後れる爲めに競争して慈善會に熱中して居る力を巡査の方面に用ゐて其妻子を泣かさず生活させる丈の人道が無くば

日本は赤十字の大成功に比べて對照の材料を供しはせぬが』
と論じたが次に一步を進めて

「此構むべき日本の巡査が廿年間勤続したことを賞讃した英字新聞を見たが此賞讃の裏には何かの謎があるまいかドの職分にも向上の道は必要だが一人の巡査が二十年間巡査を勤めた根氣はエライものゝ何故其間に警部に昇進し無かつたのである乎は僕等外人の疑問だ學校を出たての學士が世界に有名な柔術を知らぬ代りに刑法を暗記して居るからと云つて何も警部にせずとも可いぢや無いが無罪で勤めれば軍人は順送りに昇進するのに巡査計りは何故巡査で終らねば成らぬのか』

と論じて亦た一步を進め

「若し日本の制度が何處迄も巡査据置の必要があるなら少くも市民が巡査の精勤に感謝する爲めに贈る義捐は警察長官が快く之を受けソレを蓄積して置てクリスマスにでも一般の巡査に分配する位の骨は折つても宜からうと思はれる但し巡査が汝の代りに何人に對しても「貴君」を使ふことを條件として！」
と云ふから「オイ、コラを使ひ慣れてる巡査が貴君を使へば一足飛びだ」と記者が

云ふとV氏は眞面目に成つて

「オイ、コラは封建の陋習だ現に獨逸では今年度から罪人に對してさへ「貴君」を使ふことに改めた位だ」

と語つたが記者等は疲れはて、東京に戻り數日の後に一隻の船を雇つて川開きを見物した、V氏は川開きを何と観る乎

蚊軍根據地

記者が兩國の川開きへV氏を招いたに就て一寸喜資會へ注意したい事がある、同會は外客の爲めに中々盡力して居るが同會の案内書には工場、後樂園、監獄署など理屈ッばい場所は吹聴されて居るが日本人の普通生活、普通娛樂の方面が洩れて居るのは遺憾である

例へば入谷の朝顔、不忍の蓮、大久保の躑躅、龜井戸の藤など云ふ最も一般的のもの高々ホテルの讀書室に時々揭示される丈だが此一般的方法が一般的外客に一番趣味が深いものだから喜資會が今一層クダけた案内方法を執る事は望ましく又た必要な事である又假へ法律家、検事、辯護士方の爲に「と云ふ斷り

書が付けてあるにもせよ監獄署を見物させるのを見たら多情多恨なヴィクトル
ユーゴーは憫れな罪人の爲めに泣くだらう日本が其敵兵にさへ親切を盡した義
舉は世界の歴史に刻まれた事實だから自國の罪人を見物の材料に虐待するのは
異様でもあり且つ又た監獄を外人に見せて文明を示す時代は既に過去に屬して
居る事を記憶せねばならぬ

何が扱川開きは東京の名物だからV氏は喜んで記者の招きに應じ雇ひ入れた舟
が神田川の下流に待つて居たので其れに乗り込むと舟は清楚な岐阜提燈の満鑑
飾を施し景氣好く押し出して御茶の水を下り大川へと向つたが水が浅くつて舟
が度々坐礁し生憎にも繁留して居る肥舟が多く悪臭に包圍されるとV氏は

「君は何故下水溝を航路に選んだか」
と問ふから記者は「コレは溝ぢや無い神田川と云ふ川だ」と答へるとV氏は

「コレが川か……川で不都合なら運河だと云ふのか……箱根から落ちるチ
ヨロく流れも川、此溝も川、隅田川も川扱てく日本語は貧乏な事だ、僕
に云はせれば此流れは無論溝で、若し斯んな不潔な溝が世界の都市に現はれ
出れば衛生警察長官の引責辭職は當然の結果である、ソレが川で通用するな

ら雨が降つて低地に水が少々溜つたら日本では矢張り川と云ふか、僕は川と
云はずに流れと云つたが此溝には流れも不適當だ、一秒に千分の一インチも
動かぬ水は水溜りで神田川は寧ろ神田の細長い溜り水と云ふのが相當だ、處
で此溜り水の爲めに日本は蚊の國に成るのだ」

と云つて蚊論の録を進め
「富士山に蚤が居たのは文明の罪であると共に南京蟲が蔓こるのは支那的個人
主義の權化だがモスカウやベルヌブルグに南京蟲の多いのは舉國一致を欲
いた敗戦の原因でクロバトキンの退却は南京蟲が案内役をしたとスワロフ翁
が云つたのは日本が蚊の多いのに就て反省すべき警句だ」

と云ひつゝ蚊と文明の關係に入り
「一體日本には何故蚊が多いのか、以前は發見の出來無かつた蚊が中禪寺の
聖地にも宮の下にも居るのは日本の耻辱ぢや無いか、勿論文明は富士山に蚤
を運ぶ程に罪惡蔓延の速力も増すが罪惡を殺す機關をも具へて居る文明で無
くば畫に描いた美人と同樣に後ろ姿の無い文明である、例へば宮の下に蚊が
彼處のホテルには清潔なウオーター、クロセツトがある、併しクロセツトの

汚物が何處へ流される乎と云へば不潔な場所へ溜る譯でクロセツトは清潔でも下水工事が無い、コレが「蚊の國」を建設する理由だ」

と痛棒を下して一步を進め

「但し蚊の國の日本人は皮膚が強く一匹や二匹の蚊は何とも思はぬ様だが皮膚の弱い僕等洋人は一匹の蚊にもネボガトフを極め込まねばならぬから夏は何處でも蚊軍が東郷の様に遊撃すると極まれば在留洋人は夏期だけ日本から去ることに成るのは近い未來の一件件かも知れない、東京市の中央に神田川とか云ふ名の下に蚊の根據地の溝があるのは蚊の國の一大證據ぢや無いか幾ら日本が馬來種だからとてマラリヤ熱を傳播する蚊の養成に努めるには及ぶま

51

と皮肉つて更に「東京の川に説き進まうと構へた、V氏は何を論じる乎

川の不潔

V氏が神田川を神田の細長い溜り水と評し日本を蚊の國と罵つたのは皮肉に相違無いが眞理を含むで居る、論より證據には柳原通りの兩岸から町々の横切り

下水が泡雜りの薄汚い流を神田川に落して居る其の中を川開き行きの舟が航行してゐるんだから記者は心中頗る耻かしく思つて居るとV氏は

「併し僕は東京市中の川を無用有害とは云はぬ、東京の市中は電車と馬車と自動車とが併行する事の出来ぬ程に狭いのだから君が咄した市區改正が出来上つたとしても運輸道として川の存在は東京市の爲めに喜ばねば成らぬから僕は決して東京市に川の禁止を勤めるのでは無いが現今の川の存在は都市の體裁を爲さぬぢや無いか」

と云ふから記者はコレに對して

「某洋人が東京を評して「東京は都府と云はんよりは寧ろ村落の集合せるものなり」と云つたのは廿餘年前の咄であるが更に遡つて將軍の御膝元の江戸時代を考へると「江戶名物、大名に犬の糞」と云つた位だから今日の東京は餘程進歩したに相違無いものゝ完全な都府としてはマダ一前途の遠いことは僕も認める、併し兎も角も十六平方里八百八町を武藏野に開いた先祖もエライもので此川も此邊は仙臺堀と云つて仙臺侯が掘り割つたのだ」

と説明するとV氏は

「扱は左様云ふ歴史が此川に伴つて居るのか、見給へ、昔の大名は只だ一人の力で、東京市の交通に貢献する爲め此水路を新たに掘り割つたのぢや無いか、ソレに世界の一等國と爲つた日本の首府で二百萬の人口を打つて一團として居る東京市が封建の昔に田舎大名が作つたものを其儘使用して少しも改善を加へぬのは餘りにノン氣で餘りに意氣が昂らぬぢや無いか」

と云つて川の改善案に入り

「此川も隅田川と連絡して居るので干満潮の影響を受けるから四時中此吃水の浅い遊散舟が方々で擱坐する程に浅いと云ふ譯でもあるまいが今見る所では水深が五寸开處々々の此水溜りを浚つて最う少し深くする位の事は何でも無いぢや無いか其何でも無い事を打つ捨づて顧みないのは確かに東京市の耻辱であると共に何時でも交通に自由な水路の存在は東京市が外債の募入に成功するよりも遙かに幸福である但し川浚へを行つて水を深くしても護岸工事が不十分ならば川は直ぐに淺くなるから兩岸をコンクリートで固めるのは勿論だがコレとて何も大して六つかしい事業ぢや無し」

と云ふから記者はソレも宜からうが日本の肥料は人糞が主力だから奇麗に成つ

た川にも悪臭を放散する舟の繋留と往來とは避け難いと云ふとV氏は

「日本の農業が人糞肥料を使つて洋人を驚かし且つ洋人に鼻を摘まらせるのは日本一の大特色であると共に洋人が近郊散歩を試みて悪臭に辟易し這々の體で逃歸る様な滑稽談もあれば又洋人の一團體が毎年の避暑地と極めて居る御殿場地方では避暑の季節だけ洋人が團結して幾らかの對價を佛ひ其近所の田畑地には一切人糞肥料を用ゐぬ様に地方の農民と約束する發澤談もある程だが僕は収益の薄い日本の農家に人糞肥料の廢止を勧め程突飛でも無いから僕は日本農業の人糞肥料を認める、コレと同時に肥料船の存在も當然の事と思ふが現在の肥料船は東京市の認容すべきもので無し」

と云ひつゝ肥料船の改良談を始め

「日本は石材と貝類とに富んで居るから石製なりセメント製なりで悪臭の洩れぬ肥料の容器を作つてソレを肥料船に載せるのは是れ亦何でも無いぢや無いか、東京市は何故ソレを肥料船に命じないのであらうか、木の外に水に浮ぶものは無いと思つた時代は今日既に葬られて居るぢや無いか」

と云つたとき舟は大川に出た、V氏は大川一帯の壯觀に打たれて記者を顧みたら

氏はドンな観察を下す乎

花 火

川開きの大川は舟と人とで川を埋め、兩岸一帯には人の山を築いて居る、慣れた記者さへ驚く景氣だからV氏は

「コレは大變だ、如何にも盛んだ、僕は君に白状するが、君は川開きを中々の壯觀だと云つたが僕はコレ程とは信じ無かつた、但しソレは僕の罪ぢや無い廣告國の日本には僕も度々失敗つて君の云ふ咄半分は日本萬事の真相だと思つて居たからだ、早い咄が眺望第一の景勝を占むと云ふ様な廣告のある茶屋へ行つて見るに其部屋から五米突も向ふの方は隣家の板塀で嚴重に閉鎖されてる様な事に遭遇するのは珍らしくも無いので自然川開きをも踏み倒して居たのだ」

と辯解をして後ち語を續ぎ
「ソレにしても日本は實に不思議な國だ盛んな廣告のあるものが咄半分は餘程大目に見た勘定で……何と云ふか、千三つに萬八か……マサカ左様でも

火

花

花

無いが兎に角、實物は廣告の半分以下なのに、此川開きは丸ッ切り廣告がゼロだ、ソレにコレ程盛んなのはドウも魔法の様だ、日本人はコレ程花火を愛するに熱心であるか」

と問ふから記者は花より團子と云ふ諺があることを説明するとV氏は
「舞踏會と云へば舞踏専門の様だが實際舞踏するのは第二で結婚の緒を開くのが第一であるとは世界に共通の人情だと思へる、ソレは兎に角日本人が花火を愛することは此盛況で見ても分る咄で、今でこそ歐洲にも花火とイルミネーションがあるものゝ實は文那人の賜ものである歐洲の花火は十三世紀の頃に始めて支那から傳へて來たもので花火と花火から出たイルミネーションの先祖は支那だ」

と云つて花火談を進め
「歐洲は花火に掛けては後進だが佛人シエルチエの花火論やウエプスキイの花火術など云ふ著述は花火に巧みな日本の専門家の參考にも爲るだらう、ソレで日本が花火と云ふ詩的の名を付けたのは流石に日本的であるが佛人はコレをフエー、ガルチフェイス(美術の火)と名づけコレも日本と同様な美術國の佛國

火

相當の詩名であるが其他の歐洲諸國では火技と云ふ様な意識的の無細工な名を付けて居るのは物質的である」

と云つたが花火の賑ひを評して

「川開きは之を要するに國民的の祭である斯う云ふ祭は何處迄も保護せねば成らぬ歐洲でも大に悟つてオリムピアの祭がある程だから川開きに限らず花見でも何でも丁度西洋のカルネワル祭の様に異様の装束でも行つて楽しみ騒ぐのは舉國上下一致の樂みで娛樂の上乗であるし、其又た日本人共同の大娛樂は之を見物する洋客も其喜びに均霑して世界的の萬歳だ、殊に川開きの小舟には容積に限りがあるから多食國の日本人も花火より團子と無暗に詰め込む譯に行かぬので幾らか胃に空虚が出来て衛生にも適ふ」

と評して又た一步を進め

「併し例の日本人の懶惰が此處にも現はれ舟は皆な船頭任せの様子だが海國の日本に不似合だ、一家の主人がなせ自身に舟を操つて平生家庭に忠實な主婦や家族を正客としせめては今日一日だけ何故婦人連を主人にして遣らぬのかソレに此暑の最中に見物舟を一ヶ所に集合する様に注意する警察の保護も結

構だかドウで娛樂の事だから四方八方自由に漕がせたらドウだらう……街突の憂ひがある……斯んな面白い祭に多少の怪我人位は構ふものか怪我した人位は未來には自身で注意する様になる一體警察の干渉無しに國民が自制的出來ぬと云ふのは日本人に對する侮辱だ、僕は日本人が獨立獨歩の出來る文明の民だと信じる」

と云ひ警官が携へる提灯の橋に駢列するのを見た、V氏はソレを何と観る乎

牧野文相と兩國橋

V氏は吾妻橋の上で巡査の提燈がイルミネーションの様に澤山輝くのを見て何の提灯かと問ひ記者の説明を聞いて

「人力の濫用は日本の通態だが官吏までも斯程不經濟に使ふとは思は無かつた橋の負擔力に限りはあるが満載すれば落ちる様な橋は工術の不進歩か又は市民が工術の無識を意味しはせぬか、市民が橋の搭載量を知つて居るなら自衛上、無法に橋の上へ集まらぬ筈だ、ソレを五六歩に一人の巡査が居て注意せぬと危険が起る様では世界の大都市たる東京の耻辱ぢや無いか」

と一棒を下して一步を進め

「次に警官が歩哨と同様の態度で動かすに付むから斯んなに多数の巡査が要るのだらう、ソレでも日本の火の神はフドーと名づけられて動かぬ」と云ふ意味ださうだから火とフドーとは剣と鞘の様に密接して居ると云ふ理屈で今夜の花火興行に對し巡査が火の神の手先に爲り剣を握つてフドー姿を現すと云ふ様な詩的の意味でも含むで居る次第か」

と冷かすから記者は「マサかに警察は其れ程、粹でも無い」と云ふとV氏は

「併し君、日本の警察官は却々隅に置けない粹な所がある、僕は巡査の交番所に往々一輪の朝顔が咲いて居るのを見掛けて日本の警官が如何に詩的であるかと思ふと共に花を愛する人の中には悪人無し」と云ふ文句を想ひ日本の警官に對して嘆賞を喋り得なかつたが不動の姿勢で直立して居る所を見ると他の一面には伯林の巡査を思ひ起さずには居られ無い」

と云つて伯林の巡査談に入り

「獨逸では巡査の事をシュツツマン即ち保護する人と名づけて居るが例へば停車場でドヤ〜と流車から吐き出された大勢が馬車を雇はうとする」と一人の

巡査が多数の客にチヤんと馬車の番號札を渡し多勢の客は何の混雜もせず一糸紊れず整々として指す方へ行かれるが此整頓は畢竟巡査の動く結果であつて彼の眼も動けば手も動き體も動いて居るコレが若し動かぬとすると五歩に一人の巡査が要る理屈であるが左様云ふ不經濟な巡査濫用を試みたら南阿の土蕃征討費を請求してさへ議會でペーベルに叱られるビユーロー内閣の財政が危くなる、开日で伯林の巡査は千歩一人主義であるのだが日本では幾ら廉價に人が使はれるからと云つて此一條の橋の上には巡査の提火行列は甚だ贅澤で、丁度日本の紳士が宮中の官女も宜しくと云ふ服装で徒歩に堪へない絹の裾裏を着て居ると同じ様な不經濟ぢや無いか」

と語つたとき大川一面の多数の舟が不動の姿勢を取るべく命せられて一つ所に釘着けの姿であるに拘らず仕掛花火のベンガル光が閃いて川の全面を照らすと牧野文相閣下の御座船計りは何の咎めも受けないうで川の中央を自由に漕ぎ廻つて仕掛花火に突進して居た、多数の見物船は何れも不快らしかつたがV氏は「彼の舟の主人が文部大臣であるか僕は牧野の様な人が其任に膺てるのを祝する、一體貴人は賤民に近寄れば自分か賤しくなる様に心得て賤きを恐れ其れ

に遠ざからうと努める臆病は丁度敵前に出るのを恐れて穴に隠れる弱兵と同様の卑怯だ、ト云つて僕は牧野閣下が此平民舟の列から漕ぎ抜けて中流を走る風流を攻撃するのでは無い、教育を監督する文部省は貴族の子弟を教育する計りで無く最つと廣い第二の大國民を仕立て、ソレを人材にし上げる事大事業を監督して居る廣大な機關であるから貴人生活計り見て居る様な狭い事では其大きな任務に應じる事の出来無いのは勿論の咄だから開處で牧野閣下が此のポピュラルな一般的の社會生活に接觸し賤しい多勢の中へ飛び込むだ用意を頼もしく思はずには居られぬ」

平民教育

V氏は牧野文相が川開きの見物に來たことを褒めて語を續ぎ「文部大臣が貴族に偏する以上は貴族學校學習院の卒業生が急進的の速力で大學に入校することの出來る特典を興へるやうな點には盡力しても平民の側に對しては二重三重の難關を設けるやうな不公平を顧みぬに極まつて居るが是

れは確かに文部大臣の偏見で少數貴族の便利を圖るよりも多數國民の希望に適ふ様に平民の大學卒業を一年でも二年でも速める様に心掛けねば成らぬソレには成るだけ廣く成る丈け深く平民の間に飛び込むでポピュラルの社會生活を観察しソレに因て教育の方針を定めねば成らぬ」

と云つて又た一步を進め「牧野閣下は外交官として深く海外の形勢にも通じ日本の政治家中では最も多く世界的の知識に富むで居る側の一人であるから日本の平民的な社會生活に接觸すれば能く其大勢を看破して國民教育の中心點としての職務を全うするだらうと信せらる開處で牧野閣下が多數の閣下に伴ふ平民嫌ひの弊風を捨て、川開きに來て居るのを見ると僕等洋人に日本の教育に立派なものだといふ印象を興へる、但しソレは勿論印象だけで、事實が果して印象通りであるか否かは別問題だ」

と云つたとき川開きの打留めの仕掛火花が点火され、加藤清正の朝鮮虎狩りが暗の大川に耀きつゝ現はれた、其美觀にはV氏も頗る感動したが此虎狩は時事に關して寓意のある説明を聽いてV氏は

「仕掛け花火は世界中、何處にも無いコレは日本花火の特色で洋人が日本花火を賞玩するのは此特色に在るのだ處が斯様な一般人民の祭りにまで、現下の政治問題を見物人の頭に吹き込む様な仕方をするのは確かに仕掛け花火と云ふ特色の外に日本人の愛國心が此平民的娛樂の時に發動する證據でコレ亦た世界無類の一層高い特色である」

と評して更に別方面に入り
「川開きは全市民の祭りだから東京市の祭りと云つても宜いのに市は此の市の祭りは一錢も其祭りの費用を負担する譯ではなくコレを興行する資本主が御茶屋であるのは是れ亦た日本の特色世界の不思議の一つである、彼等は平生不明白な勘定書を差出す外にドウかすると家庭を守つて居る良家の細君にヒステリーを起させる種子を播いて居るからと自分の弱點に反省して斯う云ふ大多數の市民を喜ばせる様な罪滅しをする道徳に感服する」

と云つたが忽ち談鋒を轉じて
「ソレは兎に角、加藤清正はエライ人物だ、僕が解して居る清正は確かにグイシケルリードの勇と、二匹の猛獸の間に投げ込まれた手袋を従容として拾ひ上げたデロルゲスの勇とを混合した程にエライと思ふが是れ程のエライ臣下を持つて居た太閤が何故大成功をし無かつたか僕は日本の歴史に委しく無いから其判斷に困る、但し僕が日本の歴史に暗いのは僕の罪では無い僕は出来る丈け歐文の日本歴史を讀むだが其日本史は洋人の著述だから何れも幾らかの間違ひがあつて日本史の真相を知るには頗る工合が悪いのだ、ソレは日本歴史を日本人から觀じて記したものと外國人側から觀た日本史とコレを兩面に照し合せて世界的史學家の見地から觀じた三角形の歴史は特に日本の爲めに公やけにする必要がある、左も無ければ日本史は不明に陥る、其處で數ある日本歴史の一つには清正と小西行長との内訌を傳へて居るが僕はソレを信せねば成らぬ何故ならば日本人程内訌する人民は無いからだ」

内 訌 病

V 氏は加藤清正と小西行長の争ひから日本人の内訌病を説き始め
「寒村の老婆までが一足の草鞋を作つて兵隊さんの爲めに献納する程に高度な

「日本人の此弱點を知つて居る某洋人は日英同盟を評して日本と英國とは握手したり左れば日本人と英人とは握手する能はずと云つたがコレは必ずしも酷評だとのみは云へない、成程、英國の政策は随分凄いの法も合ひで居るが英國人が個人としての正直は實に世界第一で彼等は自身の美點と缺點とを有り體に明言する勇氣があるたへば店に無い商品を客が注文すると英國商人なら御座いませんと云ひ切る程に正直だが獨逸人と來ると五分間御待ち下さい御目に掛けましやうと行らかし日本人は御座います只今と答へて一時間も待たせながら他店を探し廻るがソレでも品物が手に入らぬと一寸見當りませぬ御氣の毒様ですが仕方がありませんで御仕舞に成る譯でコレを英人に較べると餘程距離が遠いぢや無いか」

と語りつゝ商人の品格を談じ

「商人と云ふ語が商工業立國を叫ばれて居る今日でも日本では矢張り幾らか素町人主義の輕侮の意味が耳の底に響く様子だが一體中傷はドの場合にも惡徳であるは勿論、特に商人が同業者を蔭で惡口するのは自身の品格を損じるのは云ふ迄も無く顧客に向つては被中傷者に對し幾らか不案の念を起させ畢竟

舉國一致の美點が日本にあることは僕も承知して居るが此の舉國一致の日本人程自分の同胞の惡口を云ふものは世界に類が無いから其對映の甚だしいのに驚く外は無い、先づ試みに一つの商店から其商品を買ひ取つて之を他の同業の商人に示すと其商人は嫌にセ、ラ笑ひを行つて彼處の品は外觀ばかりで駄目です、彼處の主人は中々の掛引屋で山に掛けちやア凄腕です位な事は殆んどドの商品に就ても、ドの同業商人も行る惡口で、殊に洋語を話す連中には一層此様な惡口が甚だしいのは不思議に思ふ」

と云ひつゝ惡口談を進め

「全體他人を中傷して己れに利益があると思ふのは大きな間違ひであるが中傷好きの日本商人は彼れは不良なりと云つて自己を善良なりと思はせたい積りで試みるのであらう、併し間接にもしろ自分で自分を褒めるのは鼻持の成らぬ惡臭の紛々たるもので其様な自讃を信じて其自讃者に注文するものよりも自讃者の品を排斥するものの方が多しのは避け難いとすると中傷は結局、中傷者自身を中傷すると同様の愚ぢや無いか」

と云つて洋人との比較を始め

自身を取らねば一方をも失はせる悪結果が来るから商品に對する中傷は別けて商業上の病患であるから行刑者が人を罪する前に先づ自身の罪を神前に問ふの心得が要るのは勿論だが日本商人の中傷は殆んど必要も無いのに行ふんだから益々可笑しい」

と語つたとき舟は柳橋へ來たが多數の舟が先を争ひ船頭同志は馬鹿「畜生の交換の外に手前の親方まで問掛けだ」と罵り合つて居たV氏は其説明を聞き

「面前の罵倒は寧ろ結構だ僕も富士山で君に對して偽善と叫びだが何の悪感も無い但し日本人の蔭口の風は丁度獨逸人が戦争には舉國一致しても南北獨逸の反目は今も幾らか残つて居るし個人同志としても極東に來て居る獨逸人中には他人を悪口して自身を競争に勝たせる様に努めて居る傾向がある之を見れば日本人と獨逸人とは極めて似て居るから何故日獨協約が出来ぬかと疑はしい位だが性質の違つた夫婦が却て睦しい道理で日英同盟が堅固なのだらう」と論じたがV氏は更に向を替へ

「洋人は大分日本を誤解して居るが日本人同志の悪口も誤解に手傳ふせ」と云つた、V氏は洋人の對日誤解に對して何を説くであらう乎

誤解の理由

世界が日本を誤解して餘りに樂園視する其反對に餘りに魔國視するのはV氏の云ふ通りだが舟が柳橋の船頭同志喧嘩の中を漕ぎ抜くるとV氏は誤解を進め「日本は誤解されて居る、七と三を加へて二分すれば五であるが過賞と過貶とを加へソレを二分して日本の真相を割り出すことは出来ぬ、ラフカデオ、ハーンの著述で哲理的に日本を觀じ成程エライ日本と合點はしても實際日本へ來て見ると根が物質的な歐洲で生まれて成人した僕等洋人は麝香み同様の不消化の爲め有難い哲理の說法はツイ忘れて仕舞つて自分の尺度に合はぬことには苦情が云ひたくなる」

と云ひつゝ談録を進め

「風景が美、美人が美、キモノが美、櫻が美、藝術が美で、ソレで全歐洲が恐がつた露國に勝つて、武士道に柔術と云ふ様な精神の美もあるが姦通は少しも無い日本と無暗に褒め立てられて日本へ來ると丁度ピラミットが素敵に大きいと咄され愈々其ピラミットの下に立つと何だか小さく見ぬると同様に一

般の洋人は嘆賞に酔つて日本へ来るんだから先づ一通り見物する、成程美は美に相違無いが此一切の美は一山百文の漫遊客が皆んな實見した所であつて最つと奥の院的の美が無いかと穿ちたくなる、幾ら日本でも開きな二重三重の美は無い、其處で酔が醒める醒めると自然と寂寞を感じ又た退屈を感じる」と云つて日本誤解の原因談に入り

「斯んな姿で外客が酔後の不快を感じて居る所へ外國語の出来る日本人が来る其先生は何か變つた事を咄して自身のエライ所を外人に示すのと外人の御機嫌取り旁々で日本にも斯んな罪惡も缺點もあると講釋して聞かせる、處が罪惡の塵の中からダイヤモンドを撰り出す程に親切な哲學氣のある外人は殘念ながら乏いから自然伊藤侯はドン、ジュアンだとか桂伯が藝妓を圍つて居るとか好奇的な黄紙的な出來事を面白がり日本道德の缺點に就て過大な印象を外人に與へるのだ」

と説いて誤誤の累進を語り

「其處で日本の代議士中には巴里が亞米利加の首府だと信じるものがある、此一人の語る奇談が事實の幾百萬分の一を面白がつて説き誇るものがある、此一人の語る奇談が

重大な結果を生み日本の大臣は多妻主義で政治家は無教育だといふ様な誤つた断案が洋人の頭に走り込むのだ」と云つて誤誤の除去談に入り

「なにも態々英國記者を招きて金の棒を見せる様な露國の眞似をするには及ばぬが日本は何故有の儘を示さぬのか日本に對する誤誤の原因は過大な賞讃と日本人同志の惡口に在ることを悟るが宜い、手に帽子を持つて歩るけば天下に敵無く謙遜が世界一の美服だとすれば日本が世界に知れ渡つた今日は寧ろ誇大な廣告を避け日本人の誇りとする絹の下着はホンの少々づゝ時々洋人に見せる様にする方が宜い」

と云つて非謙遜の缺點に入り

「聞けば日本はマニキエール指爪掃除術もベヂキエール足のタコ除去法も輸入してゐるさうだが、ソレ程虛榮心に富むた貴婦人があつても其貴婦人が交際場裡で啞の様に眼計り動く杯は餘り好い圖では無い、褒めればビスマークの如く沈黙だと云ふべきで婦人には相應せぬものゝ女ビスマークと呼ばれるのを得意がるかも知れぬが其實胸中無一物で咄すべき何ものも持たぬ杯は困つたも

のだ借着してまで睡の藝を演るは愚だから寧ろ家庭を守る方が遙かに宜からう和服なら隠れる乳房の不恰好を歐洲風のゴマかし方を知らずに日本式で試みる様な眩惑手段は益々日本誤解の種子に成る」
と罵倒したときに舟は岸に着いた其翌日V氏と九段のミリタリ、ムゼイム(遊就館)へ行くべく約束して分れたが氏は九段を何と観察する乎

招 魂 社

九段は外人の見物する東京名所の一つだが靖國神社よりも寧ろ軍事上の博物館と稱へて遊就館が持て囃されるから記者は神社の説明をした後ちV氏と同行した、應て借行社の前へ來るとV氏は
「祖先禮拜が日本程善用される國は世界に無い、猶太人の孝行は世界の異彩で世界に有名だが日本が其父祖を崇めて一國の存亡に關する軍人の精神を支配する迄に發達して居るのは日本の特色で驚くべき美風であるソレで日本の軍人が、出陣の時に執れにしても日本へ歸る、肉が歸るか、靈が九段へ歸るか執れにせよ」と云ふ告別の語は全世界を感動させた」

と云つたが大村大輔の銅像を見て
「黒龍江州にムライイエフの銅像があつても露人の呑氣さ加減はム氏が草創の大功を忘れて只だ生活難と政府の特別保護と云ふ餌に釣られて西伯利亞移住が漸つと少しづゝ行はれて居る計りだが此處には純日本の衣服を着て純日本の精神を具へ世界的の武器と戦法とを輸入した先覺者大村氏の銅像が生けるが如く日本の人民に對し運轉自在の飛空機は成功に近いテ、パトリイは三時間と十七分、獨逸製のは三時間と廿五分、自由に空中を翔けたテ、進めよ、停まるな佇立は退歩なるテと教へて居るが英雄崇拜の日本人はヨモヤ此先覺者の無聲の警告に對し呆然しては居まい」
と評して忽ち一つの材料を見出し
「處が英雄崇拜の此日本に不似合な現象がある、見給へ、彼處を、子守り女と學生どが彼の大砲に腰を掛け英雄の姿に後を向けて會話して居る、彼等は現に大村と云ふ大先覺者に無禮を加へて居るぢや無いか古人は純金に喜び今人は真鍮に喜ぶ、其喜びの程度は同じ、群集は赤く染められたる雲の色に喝采しつ、太陽の大なる輝きを忘る、嗚呼太陽を忘れしむる勿れと詩人は叫びだ

かに武士道の偉大なことを意味する、併し武士の潔く散つた功業の花に實を
 結ばせるのは外交と商工業との責任である権利であるが櫻の仇な色のみに浮
 かれて實を結ぶことが忘れられる様に成つたら歌はれぬ程に美はしい歌計り
 存る様に成りはせぬか日本人の反省すべき大問題は此實を結ぶ點に在る」
 と云ひつゝV氏は恭しく神社に入り恭しく禮拜した後四邊を拜観すると天
 皇陛下の御下賜金を始め各親王殿下御寄附の金高が札に標示されてある中に獨
 逸のカール、アントン、フォン、ホーヘンツォルレン親王殿下が五百圓御寄進
 の札があつたV氏は其説明を聞いたが氏は何事を説くだらう乎

獨乙人の親切

獨逸皇族フォン、ホーヘンツォルレン親王殿下が五百圓を靖國神社に寄進され
 たのは社前に示された献納中の異彩であるがV氏はコレに就つて
 「日本の同盟國たる英國のコンノート殿下はガーター勳章を護持して日本へ來
 朝されたが此日本武士道の源とも謂ふべき靖國神社へは別段御献納も無かつ
 たらし、然るに觀戰の爲めに來られたカール、アントン殿下が進んで此献

がアレを見ると僕は此詩を思ひ出さず居られぬ」
 と云つて更に一步を進め
 「群小の小成功は喝采せられ英雄的の苦學は顧みられ無いでハイカラ流の裝飾
 美は美まれ大先覺者の像の前で野合的の戀愛談が交換されるとせば此處こそ
 警察が得意の「可らず」を持ち出して注意すべき場所ぢや無いか、否、大村の銅
 像は既に問題と爲るの値も無く都人士一般の嗜好は此銅像の前を素通りして
 九段公園の名が大評判である様だ、日本の群衆は赤い雲に見惚れて太陽を忘
 れるのか……否々、彼の子守の春に眠つてる子供は正しく銅像を仰い
 て居る、似而非文明の魔風に吹かれぬ嬰兒の清い心は此先覺者を見て居るだ
 らう、尊い事だ」
 と評し靖國神社の鳥居を潜つて一面の櫻樹を見たV氏は
 「櫻は日本の魂と名づけて世界に紹介されたが其櫻が斯程澤山に戦死者の靈を
 護つて居るのは如何にも意味の深い感じが起る、然るに太陽の沈む前に其日
 を幸福なりと云ふと諷した該と似て居る夜半の嵐を歌つた歌も櫻と共に世界
 に有名だが朝日に匂ふ山櫻花と武士に比へられた櫻の散り際の潔いことは確

納をされたのは確かに美譽である、僕はその御用意の程に感服する、併し他の一面から云ふと此美譽は獨逸外交の真相を餘り明白にしはせぬか』

と疑問を起して其解答に入り
「全體獨逸乙は中々御世辭の好い國で今では死刑にも成らうと云ふステツセルに逸早くプール、メリット勳章を與へ同時に乃木大將にも同勳章を贈り支那の學生が日本で放蕩する爲め日本は女學生の墮落に困り支那では日本留學生から革命思想を吹き込まれて困ると云ふと忽ち一ヶ年六百萬克の廉價で支那學生を引受け様と親切氣を出し伊集院提督が筑波千歳を率ゐてキールに乗り込むと皇帝は日獨海軍の共同勳作を望む旨趣を演説され又た日本の皇族が伯林に着されると皇帝自ら停車場に迎へられて妃殿下の手に接吻されるかと思ふと戦はざるを以て親交ありとの論理を正當とせば露獨は實に百年以上の親交國なりと説いてツアールを嬉しがらせ、アントン殿下は此御社へ五百圓の献納と數へ立てると獨逸は實に親切な國である』

と云ひつゝ一轉して
「親切は原則として喜ぶべき事ではあるが戀人には焦れて睨まれても嬉しい」と

すると、开處が問題だ、成程、獨逸は親切に相違無いが誰れにでも親切な爲めに米國では獨帝の御肖像が粗末に扱はれて居る、ソレを氣にして獨逸の新聞は怒るけれどもソレは野暮だ、全體カイゼル陛下の右の御腕は左の御腕より少々短かい、陛下が慈悲の善根を澤山積ませられると其御功德に依つて全能の神が陛下の双の御腕の長さを平均にし給ふと云ふ理屈から、陛下が特に慈善を積まれる譯でもあるまいが陛下の御肖像を蔑ろにする米國に對してさへ陛下は慈善を施され皇子をハーヴァード大學に入學させられる位だから將來陛下御自身に米國を訪問され半米半獨の獨逸人のフルラーの辭が天地を震動させる壯觀を極めてソレで政治上の意味なき訪問と云ふ一頁の記事が北獨逸アルゲマイネ、ツアイトウングの紙上に現はれるは火を睹るよりも明かだ

否、來るべき筈だ』
と巧みに獨逸の外交を諷刺して祭典の際に献品を陳列する場所に貼札があるのをV氏は見付けて記者に問ふからソレを見ると鹽漬菓子店の札があつた多少祭典當時の貼札が故意か偶然か所々に残つたのだらう、V氏は札の説明を聞いて

「流石に日本は粗食兼多食國だ、砂糖の廣告が武士の靈前に儼存するのは如何にも愛國心が深い事である」

と云ふから記者は砂糖では無い、菓子だと注意するとV氏は

「だつて、日本の菓子は砂糖だ日本には菓子無し只砂糖あるのみ」某洋人は評したが成程幾らか他の物質が混つて居るもの、日本の菓子は實際砂糖の塊ま

りだ併し砂糖の消費と文明とは正比例で進退するから日本は誇るが宜いソレに戦死者と砂糖との間にも大分關係がある」

と云ふから記者は其關係を問ふた、V氏は何と説くであらう乎

砂糖の廣告

皇族下乗の立札すらある神聖の場所に鹽瀬菓子店の廣告貼札がある所からV氏はコレも愛國心の表現だと異様の解釋を施しつゝ得意の諷刺談を始め

「日本人は會食の際に談話をせぬ習慣がある其謂はれを君に聞くと食ひつゝ喋べるのは失禮だと云ふ譯で食ふ時は只だバク付く様に子供の時から黙けられた結果ださうだが其癖日本流の宴會は會飲、會談、會戲で持ち切つて會食の

材料即ち献立の重要なものは參會者が箱へ收容して持つて返る流儀だから頗る不思議ではあるが宴會には實際會食が無いとすると、矢張り會食の際に喋べる勿れの原則は一貫して居る様である其無言會食主義の中にも別けて無言を尊ぶのは軍人であると共に軍人の夫人と來ては殆んど絶對に口を利かぬのを尊ぶさうだから菓子屋と號する砂糖屋の鹽瀬等が愛國心を發揮して軍人の源の此處へ砂糖の廣告を出したのであらうと思ふ」

と云つて其理由に入り

「處が人間は食物を食ふと共に話をも食ひ又は味はふもので、會食、問食、喫茶、喫煙、ドの場合にも談話をするのは人間の本能であるが日本では會食時に談話を嚴禁するから、勢ひ談話の快味を問食の時に求める必要に迫るのでソレで君の云ふ菓子屋僕の云ふ砂糖屋が愛國心を發揮して最も沈黙な日本軍人の夫人に談話の機會を興へる爲め此處へ菓子と名づけられた砂糖の塊まりの廣告を出したのに相違無い、左も無ければ此貼札は靖國神社の神聖を汚す所行だ」

と皮肉ついたとき丁度十六歳位の娘が一心に拜禮して居るのを見てV氏は

並べて置けば宜からう』
 と云ふから記者は混雑するし盗難の恐れもあると云ふとV氏は
 「日本には自動詞と他動詞の區別が無いのか……君の云ふ様な場合は混雑す
 るのでは無い混雑させるのぢや無いか、時間を重んじない日本で二分三分を
 争ふ必要の無いのに混雑させるとは日本人の耻辱だ、又た門戸開放で錠前も
 不完全に作られる鍛冶屋の流行する日本では盗難は時の運と諦める外は無い
 假りに只だ五厘を與へた老婆さんが杖なり下駄なりを盗まれたとしてソレを
 辨償する資力があらう乎、一日幾らも収入の無い婆アさんに五圓十圓の請求
 をするのは不人情だから若し盗まれたら婆アさんは日本得意の「困りました」を
 持ち出し參觀者も仕方が無いで事済みの外はあるまい、孰れにしても盗難を
 時の運と諦めねば成らぬとすると僕は日本の道徳を尊敬して下足料の廢止を
 勧告する』
 と評しV氏は戦役に分捕つた露國士官の靴の前に立つたV氏は何を説く乎

元 冠

「何たる美はしい畫であらう、聖マリアが基督を抱いて居る畫が世界第一のも
 のであるとしても畫題としては此父か兄かを失つた一少女が語も無く一心に
 五秒時間も禮拜した景は實に勝れた畫題で何故に日本が勝つかと云ふ大問題
 は此一幅の畫で解決される』
 と感心して遊就館に入ると記者は下足をV氏は杖を預けて五厘宛拂つた、V氏
 は
 「下足とステッキ預りは日本の耻辱だ此館内で一物たりとも杖の尖で損じる様
 な不届ものがあらうか、日本人の崇敬心は勿論外國人でも其位の公徳心は有
 らうぢや無いか、下足も其通りで、下駄が日本の靴である限りは靴を許して
 下駄を禁じる道理が無い、下駄は靴よりも騒々しく且つ四邊を汚すと云ふか
 も知れぬが畢竟五十歩百歩であるし又た日本が下駄の國である以上は何も靴
 本位の建物を築くには及ばない、ソレども日本政府はエタ族保護の爲め靴を
 奨励して下駄に禁止説を課ける譯乎、僕の解釋が皆んな間違つてるとしても
 金貨本位、厘位切捨論の盛んな大日本で内外人に五厘の携帶を強ふる必要は
 あるまい、下駄や杖は是非館内で禁すべき根據があるなら預りものを出口に

V氏は遊就館の日露役捕獲品の前に立つて露國士官の靴を指さし
 「此立派な露國の雪靴を見給へ、戦争當時露國に物資が乏しく跣足の兵が肌
 泣くと囁かれたが或向には其様な事が有たにせよ大體に於て露國の給養と器
 物とは一切善美であつたのだ、ソレに脆くも日本に負けたのは畢竟日本の心
 質が勝つたのである、パンのみで活きぬのが人間であるから歐洲の物質文明
 の輸入にのみ忙がしくつて心靈界の注意を怠つたら日本は實に危険に迫るこ
 とを覺悟せねば成らぬ」
 と云つて元冠の圖の前に立ち

「當年の世界を股に掛けたマルコ、ポロを平伏させた忽必烈の大アーマダが日
 本の神風に吹き飛ばされた事實は餘り世界に廣まつて居ないがポロがヅニ
 スの出身でありながら元朝に取入つて一地方の知事に成つた事實は世界に知
 られて居る、所で此運動屋のポロの御世辭に乗つて日本へ進軍し大失敗を取
 つたのは支那の外交に反語的の教訓を興へる理屈であるが其日本征伐の大本
 營幕僚兼發頭人のポロが伊太利人であるに拘はらず日伊の關係が非常に善良
 を極めて居るのを見ると日本人を指して何處迄も復讐を忘れぬと云つて惡黨

呼ばはりをするのは大きな誤りで此元冠の圖と日伊の卓越した今日の親交と
 が好い證據だ」

と云つたが今度は我皇室と徳川家との關係は目下ドウ成つて居るかど問ふから
 記者は徳川公が 陛下の忠臣である事情を細々と説明するとV氏は

「洋人は一般に徳川公爵の柔順を疑つて居る傾向が今も失せない、ドウも當年
 の朝敵が全く順民に化する筈が無い殊に復讐心の強い日本人だから今こそ平
 靜であるが何かの折には何事か起るであらうとまで邪推する向も無いでは無
 い僕も日本の歴史民情などに就ては出来る丈研究はしたが、根が歐洲人だか
 ら世界に卓絶して居る日本の皇室と世界の帝王家とを混同するのは避け難い
 事で、世界の封建制と日本のは全然違つて居るのに氣が付かぬから洋人は
 今云ふ様な馬鹿々々しい疑惑を起す事が多いのだ」
 と云つて次に對馬問題に移り

「何が扱て對馬は其小さいに拘らず世界に有名な事は今では世界の三大島にも
 劣らぬ様に成つたが昔は日本の唇であつたから兎に角日本の對外關係が絶え
 す此島と密接して居るのは無理は無い併し此唇には硬い齒があつて大アーマ

が噛み摧かれたから元朝以後恐怖心が深くなり對馬には兵を用ゐることを避けた時代もあつたさうだが昔の日本の唇も今では伊藤公の盡力と名實共に日本の心臓に成る迄に日本が發展して眇たる對馬が此通りだから日本對島關係の口であつた長崎から多數の日本娘子軍が世界征伐に出掛けるのは當然であると共に今でこそ洋人嫌ひの日本美人も追々に大發展をして洋人を捕虜にするであらう』

と戯れ説明が佛語で記されてある佛國の地圖の多いのを見てV氏は「日本が其始め蘭國と親密で、次には多く佛國から輸入したが急に獨逸好きに變つて一切佛式を捨てたのは褒めべき事で無い、處が獨逸人の監獄教師ゼーパツハの墓は立派に青山にあるが願ひる人は少いさうだ、ソレは日本人が巴里ツ子的に流行狂の證據であると共に日佛協約は當然過ぎる』

と諷し遊就館を出て社務所の傍のパラック式洋館靖國神社増修事務所に注目し「日本人はドウして斯う洋風好きだらうか日本固有の祖先崇拜の源靖國神社すら其増修事務所を洋風にするとは何事だ、斯う云ふ場所こそ僕等は日本風の建築計り見たいと思ふ洋人は靖國神社を知らず軍事展覽會のある倉庫だとの

公園論

み思はせるのは不注意だ』
と評して庭園の池の前に佇み、V氏は「東京第一の公園を始めて見た』と叫びだV氏は何とソレを説明する乎

V氏は靖國神社の後庭を東京第一の公園だと叫びだが其理山を説き始めて「日本の何物でも地理的の比較調和で美が保たれる様に思はれる、と云つて日本の美術品が偉大と壯觀とに乏しいのは島國相應だと云ふ譯では無いが土地の美觀は其場所の大きさと釣り合はねば成らぬから上野でも淺草でも公園には相違無いが美な公園とは云はれぬ、何故なれば公園としての裝飾が其場所の大きさに釣り合はず地理的の調和を缺いて居るからだ』

と云つて其評論に入り

「試みに上野を見ると偶然に其傍に在る不忍池を取り除けたら上野公園には不規則に大きな神社と森の外に何ものがある乎、淺草も同様で大きな觀音堂と

見世物を除けたら淺草は一個の沼地に過ぎぬぢや無いか但し上野は不忍池と森とで幾らか公園に成つて居るが歐洲的の意義から云へば淺草は公園とは云へぬ只日比谷だけは人為的に公園を製造したのだが其平方形と樹木と池とが配合美を缺いて居るので先づ公園製造失敗の見本と云ふべきもので殊に音楽堂を音楽の音色を風に消される場所へ作つたのは其失敗が鄭重過ぎる』

と云ひつゝ一步を進め

「處で配合美は差し當つての問題計りで無く將來をも豫測すべき筈だから、日本特有の四疊半の茶室を飾る小さな一輪の花でカーネギーが罪亡して建てるだらうと噂のある平和宮の様な大建物を飾られぬと同様に先刻見た大村氏の銅像も今でこそ九段の飾りと爲つて居るが電車通りの地代が騰貴して四階五階の家が地震に耐へる様に構造され大日本人の市街が出来た際には大村氏の像は五階の窓から瞰下され古豪傑の英姿を侮辱することに成るだらう、十年計畫好きの日本人は何故五十年の後を達観せぬのか尤も大藏大臣が次年度の財政を數世紀の後と同視して未來記と云ふ日本だからと辯解するなら仕方無し」

と冷かして九段公園談に移り

「處が此公園のみは貴い此神社の背面の一隅を利用し其狭さに應じて狭さに適する日本庭園術を十分に發揮してある山らしく造られた彼の巔からチヨロチヨロ流れが海らしく造られた此池に落ちる旨さ加減、ソレに多數の岩石を扱らつた巧みな庭園術は實に世界の公園の模範である只だ一つ苦情を云ひたいのは彼の青銅製の鯉を小兒が抱てる姿は如何にも拙作で輸出品然として居る日本人の青銅製品は小さなものには上手だが大きなものは下手だ、丁度小さな紙捲煙草は器用に拵らへるが葉捲は丸で出来ぬと同様だと、云つて小人物に富むで大人物を缺くと云ふ謎ではなから」

と例の皮肉を云ひつゝ一轉して

「神社の在る所に藝者あり公園あるは日外も云つた通り餘程不忠議だかソレは南洋趣味で日本の村に鎮守の森があつてソレが村民の娛樂場であるのと同様だが兎に角公園に神様のあるのは日本人の道徳に好い印象を與へ公園を野合場化せぬのは神様の賜ものだ」

と云ふから日比谷には若い男女が出没すると注意するとV氏は

「ソレは當然だ、日比谷には神社が無いからである。但し太神宮では拜殿での婚禮が奨励されるさうで僕もホテルのバルコニから其幸福な幾組の人々を度々見た程に神様は粹である代りに公園から少し離れて鎮座し給ひ、日比谷の罪悪は刑罰的に防ぐ爲めに公園の隣人は裁判所が引請けて居る」

と笑つて九段を出たが時間に餘裕があるから直ぐに馬車を飛ばして泉岳寺へ向つた、V氏は泉岳寺を何と観る乎

泉岳寺

赤穂義士は四十七ローユンと稱へられて世界に有名で獨人も英人も義士傳を各其國語で著述した程であるが、忠義と云ふ語は英、佛其他西洋諸國の言葉の中に發見することが出来ぬ日本特有の美な思想を表示した言葉だから世界の諸書界は孰れも之を珍とし美として居る、V氏は此意味から泉岳寺を見物の日程を加へたのだが馬車が寺に達すると

「此光榮ある義士の墓地の隣りに中學校のあることは日本の教育家が其四圍が學生に與へる印象に關して流石に注意を怠らぬ證據である、處で此寺の門の

下に日露戦役の水雷を据ゑてあるが此鬼の様な機械と神をも動かす日本特有の忠義とが一致して日本を東半球の霸王とするに至つた道理を説明して居る此寺の住職が門前の据付け品で十分に此大問題を解説して居るは敬服すべき意匠である」

と評して主税梅の傍らに進みハラキリが此處で行はれたとの説明を聞きしV氏は

「ハラキリとシウジツとゲーシャとバンザイとキモノと云ふ五個の日本語は始らぬにエヌペラント的に世界語と爲つて居る、其中でも僕は別てハラキリに多大の敬意を表して居るが茲に一つの問題がある、ソレは丁度燈火は光を放つても臺下は暗しと云ふ格言の通りにハラキリは西半球の遠方に偉い光りを放つて居るが本國の日本ではハラキリが侮辱されて居る様な氣がする一件である」

と云ふから侮辱の理由を問ふとV氏は

「成程日本の忠義は世界一だが其忠義の幅が頗る狭く單に君主に對する臣下の道に止まる譯だ、尤も狭いから忠義の水が一杯に漲ると云ふ一理もあらうが

武士が其君主に對する忠義の爲めにはハラキリする程に義を重んじた結果は幾らかの感化を武士級以外の農工商にも及ぼしたに相違無い、現に四十七義士と共に義商天野屋儀兵衛の墓が此寺に在るのは其一證で、然諾を重んじる武士の義心は儀兵衛も確かに之を守つて居て死を以て其然諾を貫いたが儀兵衛は君に對しては無く畢竟自身の約束に忠義を盡す爲めに自身の約束を守つたと同時に義士以外の義士として義士傳に歌はれ其名を世界に馳せた譯だ
 が現今の日本人の契約不履行はドウした譯乎」
 と云つて忠義侮辱談の歩を進め

「日本の法律は日本人の利のみを計り法官も亦た治外法權時代の仕返しに日本人のみの利益に爲る様判決を下して居て現に特許法は日本人のみの利益から削り出され個人の契約は反古同様に粗末にされて居るから日本は危険だと云ふ聲が外國に高く成つて來たソレに辯解する歐洲某國駐在の日本公使は約束を守らぬのは横濱の成上り者のする事で、日本人全體は極めて正直だと辯明したが事實はコレに反して二ヶ年雇ひ入れの契約で外國人を引つ張り込み其仕事を覚ゆると忽ち一ヶ年だけで解雇するなどは日本のドの事業、ドの會社

にもある例だから日本人が西洋人の一技師を雇ふにも今では日本帝國大使館の保證を必要とする様な姿に成つて居るぢや無いか」
 と證據を示して又た一步を進め

「勿論、日本人が今日の違約は嘗て神の様に日本人から尊敬された洋人が或る時代には日本人を欺いた罪の返禮である併し敵上野介の首にさへも敬意を表して領收書まで出す程、尊といふ武士道のある日本が條約改正前の復讐に違約を持ち出すとは餘りに不釣合な所行ぢや無いか、随つて信用が資本の商人が一々政府の保證を受けねば約束が出来ぬ様の始末だとなれば一切の商工業を國有にしたらドウだ、否、忠義を廣義に解して自身の義務に對する忠義を認め之を行ふのが尤も捷徑であらう、商社の番頭が前八時出社後四時退出の定めを履行し仕事があつても時計が四つ打つとサヨナラを極め込み一時間居れば其商社に大きい利益があつても願ひぬ様な番頭でも日本人は忠義だと云ふか」

と叫びて尙忠義問題に切り込もうと構へたV氏は何を説くか

忠義の廣義

V氏は泉岳寺で日本人が自身の職務に不忠なのを概したが更に忠義談を進め「全體忠義と云ふことは義務を盡すと云ふよりも最つと深いもので只君主の恩に報ゆる丈だつたら内藏之助の名が世界に記憶される迄に至ら無かつたであらう、彼れは受けたよりも一層大なるものを以て恩に報いたちや無いか忠義の尊い所は此處に在るのだ、然るに雇人が廿圓の月給だから廿圓だけ仕事するとしたら丸で鏡に映つた美人と同様に情も心も無いではないかドンな用があつても退出時間には屹度退出する雇人の主人は災難である又雇人が業務上遣り損ひの場合に詫ひれば済むと云ふ様な心得方なら四十七士の墓は此處に無い筈だ受持つた仕事の遣り損ひに對しては假ひ一生涯の收入を棒に振るとも辨償するのが忠義であると共に女中が主人の茶碗一つ壊したとしてソレが償へねばハラキリするのが日本の忠義で泉岳寺が世界の名所と爲つた理由である」

と云つて今度は歐洲と比較し

「歐洲では忠義の譯語にマゴ付く程だから忠義の程度を比べれば歐洲人は日本人に劣つて居る、併し歐洲人の番頭は主人又は自分の勤める商社と利害を共にすると云ふ意氣込で働く流儀である白耳義の某商社の番頭は日曜が休日だから毎土曜日には自身の關係して居る商取引に就ての遺言狀を認めて自身のテンプルの上に置いた程忠實でソレが雇人間の美談と爲つて居るが此美談以上の忠義のある日本で主人の運命を自身の運命と覺悟し失策の爲めにはハラキリを行ふだけの精神が實業界に何故乏しいのか」

と云つたが忠義心養成策に入り

「昨年の夏には日本の學生に滿韓の新戦場を見學させ日本軍忠勇の遺跡を示したさうだが日本の主人は毎週便宜の日に雇人を此首洗ひ井戸の前に招待して商工業界の忠義を説法するが宜い此風が一般に廣まると電話の交換手が居匯した爲め通話者に迷惑を掛けられた時は交換手がハラキリを行つて迄に忠義が發達するだらう」

と論じて義士遺物の陳列場に入りV氏は頗る敬意を拂つたが

「コレ程貴重な歴史的紀念品が此粗末な洋館に有るのは残念だ明治四十五年迄に

日本の工業が大發達をしたから希は日本大博覽會の建物を日本造りにして欲しいと云ひ墓地に入ると夥しい樂書があり各義士の墓にある名刺受の箱にも澤山名刺があるのを見て

「日本人位名刺好きは無い、自分の名刺を出さず他人の名刺を要求する無法は扱置いて義士の墓へは氏名を自署したり名刺を吝まぬ忠義には感服する處が此忠義な日本人が他人を訪問するとき名刺を吝むで取次の女中に其名の諧記を閉口させる場合が多いと聞くがドウ云ふ譯だらう」

と笑つて泉岳寺を出た、かくてV氏は一先づ東京に告別せねばならなくなつて某日の午後新橋へ走つたが、足靴がブラットフホームに響く音は全世界に未曾有の音である事が今更の如く氣が着いた、

「温帯地植物が屹度温帯地に發達するは道理だが、理屈以外に適所生存の理ありは未來十年が日本に示すであらう」とV氏は云ふて東京を去つた!!!

外人の觀たる日本終

明治四十年十一月十二日印刷
明治四十年十一月十日發行

(定價金壹圓)

外人の觀たる日本終

著 作 權 所 有

著 者 千 葉 秀 浦

發 行 者 東 京 市 京 橋 區 桶 町 廿 一 番 地 大 倉 廣 三 郎

發 行 者 同 所 大 倉 隆 四 郎

印 刷 所 東 京 市 京 橋 區 築 地 新 榮 町 五 丁 目 七 番 地 大 倉 印 刷 所

發 行 所

東 京 市 京 橋 區 桶 町 廿 一 番 地 廣 文 堂 書 店

振替貯金口座第四六八四番

式一品製石寶屬金貴
用御省内宮

堂寶玉

衛兵伊塚飯人主

町仲端の池區谷下京東

(番五六九 離距長谷下話電)
(番四二二一 谷下話電)

GIOKUHODO

I. IZUKA.

Fournisseur de la cour imperiale.
Pierres précieuses; objets en or et
en argent.

NAKACHO, IKENOHATA,
SHITAYAKU. TOKIO.

TELEPHONE: SHITAYA 969

" : " 1226

信夫怒軒翁著

好評廿九版

赤穂義士實談

洋裝美製
寫真畫入
定價金五十五錢
郵税八錢

義士の實談は幾巻の書冊を以てするも興味盡すべからず、信夫怒軒翁は漢學者中の奇人にして平生四十七士の義を慕はれ自ら各所に義士廟を講ず、翁は義士に關する史書も備み、其確實の證據も以て探討し之を一編となし世に公せらるる之を題して赤穂義士實談といふ儒者の實談頗るよろしきため風に世の視聽を動す抑も赤穂義士の事蹟は本朝千古の美談なれば或演劇も淨瑠璃に歌謡に神史小説も將た講演も仕組まれ其神史たるは燃ね來強附會事實も錯謬多く荒唐無稽、到底士君子の讀むべき堪ゆるものなし明治の宿儒怒軒翁茲に見る所あり鴻世の一大事蹟を信實神官軒乘家の手に戲弄せしむるを概し親しく獨特の健筆を以て義士復讐の顛末を目前に躍然たらしめらる。

文學士青木古汀著

名取春川畫

第三版

小説 我や人妻

洋裝頗美麗製本高尙
口繪奉書四十餘度摺
定價金八十錢
郵税金八錢

法學士ありは時軍郎と云ふ、一皮征露の軍に従つて空しく松樹山頭の際と消ゆるや、其家庭は妖雲怪霧の銷す所となりぬ、青木先生、乃ち此間の錯綜せる事情を捕捉し、麗麗なる筆を以て縱横に描破せられたるもの、これを此一篇となす。妖婦あり貞女あり美人あり、學士あり紳商あり會社員あり可憐なる戀と苦しき戀と惡むべき戀とは如何に因縁せるか而して所問人妻は如何に此間に活動せるか、芳花將に散んとして自刃亂麻の斷つ所、構想奇警、文藻清新眞に近時の傑作といふべくこれを江湖の讀書子も驚むるを得るは非堂の光榮とする所なり。

(匣八六區全辭替換) 行發堂文廣 一廿町桶區橋京市京東

塚原 澁柿園 著

好評五版

山崎合戦

洋装美製寫真畫入

定價金 五十五錢

郵税金 八錢

毛利征伐、高松水攻、中國引き返して山崎の大合戦……之れ絶世の英雄、秀吉があらん限の智慧と力を振ひ、明智を滅亡し、大徳寺燒香場の活劇、之れ如何に天下を驚かせしか……著者は時代小説家の泰斗たるは世間の評定せる所奇蹟なる構想と流暢なる筆は如何に篇中の人物を活動せしむるか秀吉が采配の下には細尾、蜂須賀、加藤、木村……明智が采配の下には吉川、小早川、齋藤、四方田、等の豪傑を自由に出没せしめて讀者の目前に其顛末を躍然たらしむ。

塚原 澁柿園 著

好評五版

小牧山合戦

洋装美製寫真畫入

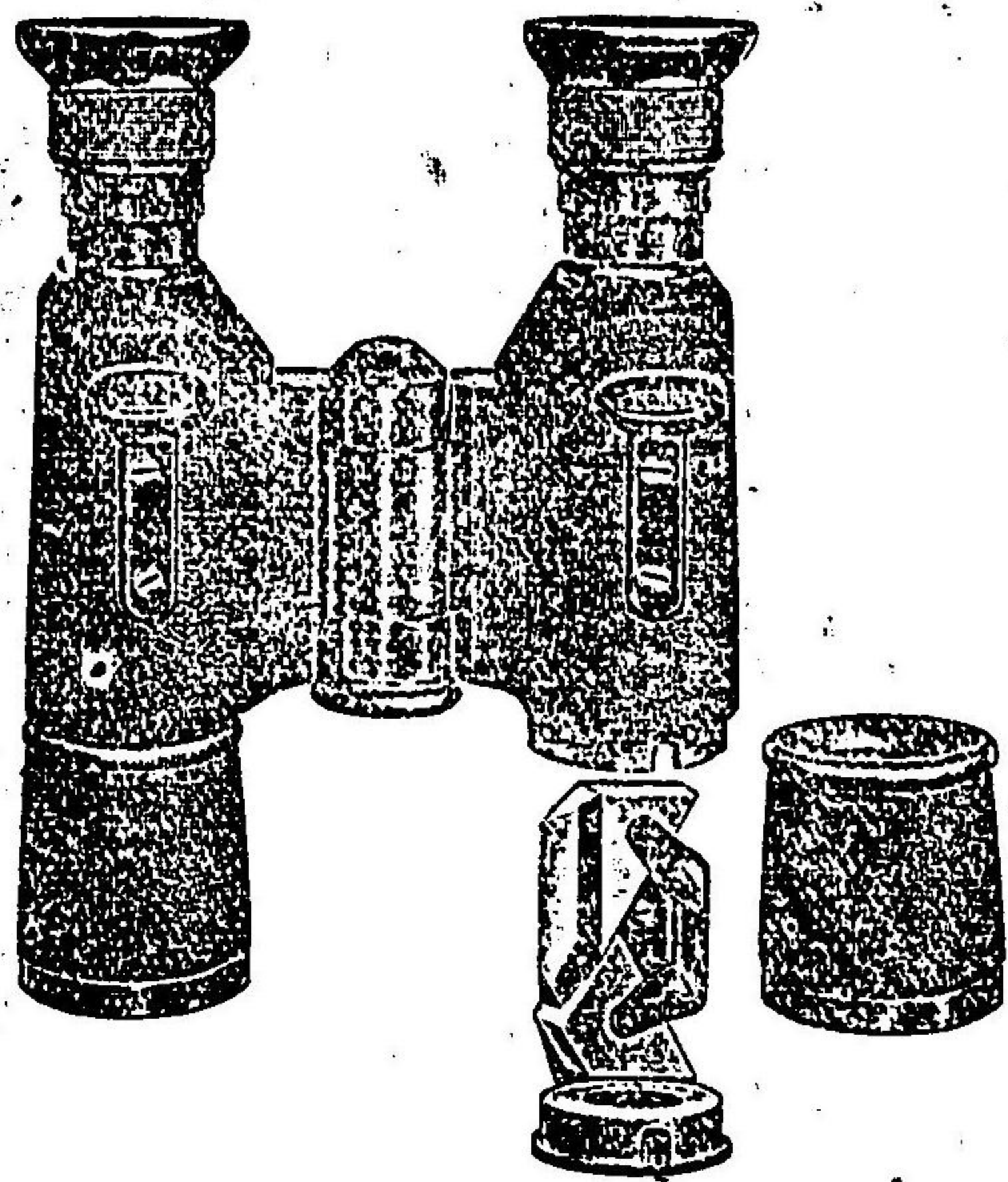
定價金 七十錢

郵税金 八錢

信長、去後、明智、柴田を滅したる秀吉は益々武威を逞し大勢采配の下に従ひ、故に盛力頓り昇りぬ、家康は街道一の弓取として其名天下に懸かりき、小牧山の合戦は兩英雄が心臓を砕きての決戦なり。秀吉の軍略は家康を苦め、家康が戦術は秀吉の心底を穿かしむ。雲漢々、雷鼓々、砲火閃々、鎧光進る、中將の軍勢は西に走り東に奔る、之れ實に小牧山大合戦なり……著者は近古の歴史を詳しく特筆登載、徳川の兩公の事蹟を調べて正史の遺漏を補ふの所妙にからず。

（四八六四金貯蓄振） 行發堂文廣 一廿町桶區橋京市京東

◎ヘンズルト新式プリスマ雙眼鏡は現代の最良品也



廓大力六倍鏡 金六拾八圓
廓大力八倍鏡 金六拾八圓
(但し黄色革箱及專賣肩掛け革紐を付す)

◎日本一手販賣

東京麴町區
八重洲町一ノ一

シユミツト商店

(電話本局五五〇番)

(構造説明及批評書は御望に依り無料にて進呈)

其の特長は

視界の大

プリスマの分離的配置に依り

光力は驚くべく強被映

物象の**明確**

形状の少にて**携帯の便**

兩眼位置に應じ得る設備

兩眼の不同視力に應じ

得る設備

素人も最も容易にプリスマを

掃除し得る便

包装は皮革を用ふ代り**防水的**

を用ひ爲に**防水的**

◎泌尿生殖器

特に淋毒性尿道膀胱子宮
及是等附屬器の諸疾患

◎梅毒科

院長
ドクトル
メヂチーネ

醫學士

醫學士

醫學士

池田悦次郎

澤村榮美

花岡鶴三郎

柘植直信

東京橋本挽町歌舞伎座通萬年橋
入院隨意

池田病院

電話新橋六五番

醫學士 花岡鶴三郎

生儀此般福岡大學婦人科助手ヲ辭シ

池田病院ニ於テ診療ニ從事ス

醫學士 柘植直信

生儀此般京都大學皮膚病梅毒科助手

ヲ辭シ池田病院ニ於テ診療ニ從事ス

IKEDA HOSPITAL

DIREKTOR:

DR. MED. Y. IKEDA

KOBIKICHO,

KYOBASHIKU, TOKIO

SUFNAHME ZU JEDER ZEIT.

(SPECIALITAET: UROLOGIE)

七世大家天龍士池田要先生著

實驗 九星家相方位蘊奧

好評噴々
忽ち三版

二十年間の實例

書中九星家相實驗圖解九十八圖挿入

易學界の大著書

洋裝美製大判全一冊金一圓二十錢郵税

自己の榮枯盛衰を明かにに本書一卷にて可なり

本書の特色は九星の活用又家相方位に因て其家の興廢子孫の斷續

結婚歲月の善惡と子の有無性質の賢愚強弱血族の長短は勿論凡そ人事萬般著者

が二十年間の實驗確實に照して百中曾て誤らざる蘊奧を傳授するにあり社

會に立ち自己の運命を豫知せんと欲する者は試に本書を座右に備へ書

中の實例及圖解に就て了解せよ世人は必讀して有益書をなり

りな範模好の界藝技子女

女子袋物組糸製作新書

挿圖百六十個入
金五十錢郵稅八錢

●大判全面花葉形切細密畫圖百九十八個挿入正價金五拾錢郵稅金八錢
本書は著者が多年の實地研究及び授業上より得たる結果を世に公にせら
れたるものなり。その内容は學理と實際とを調和し、染色、鍍當、組合せ
など極めて懇切簡明に解説し、加ふるに一花一葉ごとに正確なる切圖を
附し、本文は總て振假名附なれば、何人も一たび此書を繙くときは容易く坐
がら千紫萬紅の花弁を自然のまゝに造り得らるべし。
各女學校手藝科教員及び生徒諸媛の參考用に頗る適當す、且つ之を一般
の家庭に備ふるときは健全なる趣味と實益とを併せ得るの珍書なれば一
日も座右を離すべからざる良指南車たり。

女子造花術新書

美術技藝 梶山彬先生著

全國高等女學校及同
程度女學校技藝學校

參考書

りな導師良の味趣庭家

廣 告
杉山胃腸科醫院

院長 ドクトル
メヂチーネ

杉山源作

神田區淡路町一丁目一番地
(電話本局 二四六五番)

今回獨乙ヨリ歸朝シタル當院長ハ帝國醫科大學卒業後數年間日本ニ於テ實驗
ヲ得後テ海外ニ在ル事多年、歐米人ハ勿論、世界ノ有ユル人種ヲ診療シ、其ノ
風俗習慣ニ從テ、疾病治法亦大ナル差異アル事ヲ察知シ、各人各異ノ特質ニ
對スル隱微ナル點ヲ比較シテ、治療ニ應用シ、殊ニ我國民ノ一般飲食物及其習
癖ニ起因スル疾病ニハ其飲食物其他深ク注意シテ療養ニ遺憾ナカラシメン事
ヲ期ス

又入院患者ニハ元費ヲ省キ實用ニ適スル便宜ノ方法ヲ設ク

院長 診察 午前八時ヨリ 正午迄
午後 往診
副院長、醫員診察 隨時
入院 隨時